

ガールズバンドによるツールドフランスへの挑戦in2011

Schumi

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

Circleで活動するガールズバンドの5つのグループ。

そこに一人の男が現れて言った。

「ツールドフランスに出てみないか？」

彼女達はひょんなことからロードレースの世界へと引き込まれて行く。

はたして彼女達の運命は…。

*ロードレースではアクシデントなどが日常茶飯事なので苦手な方はご遠慮ください。

目次

ツール開幕前日	1
チームプレゼンテーションとライブ in France	6
第1ステージ 地獄の始まり	25
第2ステージ チームの絆	42
第3ステージ 友に捧ぐ勝利	52
第4ステージ 試練の壁	65
第5ステージ 最速の称号	79
第6ステージ 雨ト風ニマケズ	93
第7ステージ 弾丸列車は止まらない	107
第8ステージ 頭脳と嗅覚	119
第9ステージ 事件は続くよどこまでも	132
第1週後の休息日と総合順位	148
第10ステージ ミサイルvsゴリラ 第1ラウンド	157
第11ステージ ミサイルvsゴリラ 第2ラウンド	169

ツール開幕前日

2011年6月29日フランスのヴァンデ県にて。

某ホテルの一室の扉には「Roselia」と書かれている紙が貼つてある。そして、その隣の部屋の扉には「Poppin', Party」と書かれてた紙が貼つてあった。

Roseliaの部屋

リサ「まさか私達が今フランスにいるなんて全然実感が湧かないな
〜」

燐子「私も…同じです…」

あこ「でも、ホテルでじっとしてるなんてつままないよー!」

紗夜「宇田川さん。私達は遊びに来た訳じゃないんですよ」

友希那「紗夜の言う通りよ。私達Roseliaはこの地に目的があつて来たのよ。明日のライブのためにもしっかりと今から備えなさい」

彼女達がこの異国の地に来た目的…。一つは、翌日のRoselia海外ライブのために。しかし、今回の遠征の理由は別にあつたのである。

コンコンと彼女達の部屋のドアが叩かれ、一人の男が入つて来た。

???「お前たち、明日に向けての準備は出来ているか?ライブの準備も大事だが、レースの準備もきちんとしてくれよな」

友希那「そんなことわかつてるわ。今回この場所に来れたのもあなたの支援があつたからよ。それについては感謝しているわ」

紗夜「だから、Roseliaのライブも明日からのレースも全力を尽くします。今後ともよろしくお願いします。リーヴァイさん」

リーヴァイ「いやいや、お礼は俺じゃなくてアイツに言つてくれよ。俺はアイツの手伝いをしただけなんだからよ」

彼の名前はリーヴァイ・ライブハート。去年まで多くの自転車レースで好成績を挙げており、彼女達を指導するためにロードレースの線から身を引いた。(これ以降ライブと表記する)

ライブ「俺は見て見たいんだよ。お前たちがツールドフランスを優

勝する姿をな」

これこそ彼女達がこの地に来たもう一つの理由である。彼女達はツールドフランスに参戦し、優勝するためにフランスに来たのである。

ライブ「ところで、ポピパのメンバーはまだ到着しないのか?」

???「その心配は無いぜ。今着いたところだ」

ライブ「おう、ランスか。なんだか随分お疲れだな」

ランス「そりやそうだろう!あいつらに振り回されてクタクタだ!!特に香澄とおたえときたら来ていきなり迷子になりやがったから何時間も奔走してようやく見つけて来たんだよ!俺は少し仮眠を取って来るから、この場のことは全部リーヴァイに任せるぞ!」

彼こそツールドフランスで長年活躍して来たランス・アーノルドである。去年レディオブラックというチームを立ち上げるも追い出されて彼女達を選手とした新たなチームを作ったのだ。

ライブ「はいはい、ゆっくり休んでこい」

そのランスは彼女達を彼に任せて奥の部屋と入って行った。

香澄「すみませーんリーヴァイさーん!おくれてしまいましたく!」

有咲「全く香澄ときたら『海外だー!』とか行って消えやがって」

沙綾「でも有咲も楽しそうだったけど?」

有咲「な!?!そんなわけ:なくなかったけど:」

おたえ「有咲、照れてるの?」

有咲「照れてねーよ!!」

ライブ「全くお前たちはどこに行っても変わらねーな。明日から地獄が始まるんだ。ゆっくり休んどけよー」

みんな「はくい(わかりました)」

―その夜―

ポピパの部屋

りみ「明日から不安だよ」

沙綾「りみ。緊張しすぎだよ。気楽に考えないと明日に響くよ」

コンコン

ライブ「お前たち、今から下の食堂に集まってくれ」

そう言われてポピパのメンバー達は一階の食堂にやって来た。その場にはRoseliaをはじめ、いつの間にかAfterglowやパスペレ、ハロハピのメンバーも集まっていた。そしてテーブルの先にはランスとリーヴアイが座っていた。

ランス「全員集まったな。今から明日のツールドフランスに出場するメンバーを発表するぜ。」

そしてランスは持っていた紙を読みはじめた。

―ツールドフランス出場メンバー―

- ① 戸山香澄
- ② 湊友希那
- ③ 美竹蘭
- ④ 弦巻こころ
- ⑤ 市ヶ谷有咲
- ⑥ 今井リサ
- ⑦ 青葉モカ
- ⑧ 氷川紗夜
- ⑨ 奥沢美咲

美咲「え、ちよ！私ですか!?!」

ランス「あれ？お前を読んだつもりでは…」

そう言ってランスは読み上げた紙を見る。

ランス「ん？どうやら間違えたようだな」

美咲「なんだかこれはこれで悲しいな…」

ランス「あと一人は氷川日菜だ」

日菜「やった〜！おねーちゃんと一緒にレースに出れる〜！」

紗夜「ちよつと日菜！急に抱きつかないで！」

日菜「だっっておねーちゃんが大好きなんだもん」

紗夜「もう…」

日菜にそう言われて紗夜は顔が真っ赤になっていた。しかし、それを遮るように蘭が言葉を発した。

蘭「それより今回のリーダーは誰なんですか？」

ランス「え？」

友希那「まさか決めてないとは言わせないわよ」

ランス「…忘れてたわ〜許せ」

ライブ「バカか！」

ランス「ごふっ!!」

リーヴアイがランスに華麗な右ストレートを一発見舞ってランスはもの見事に吹っ飛んだ。

有咲「リーヴアイさん。そんなことして大丈夫なのか？」

ライブ「いつもこんなだから大丈夫だ。あと、リーダーは香澄と友希那、蘭の三人でいくことにした」

香澄「任せて下さ〜い！」

友希那「あなたの言ったことなら従うわ」

蘭「湊さんと同じ扱いなのは不満ですけど、リーダーならば我慢します」

友希那「それはどういう意味かしら？美竹さん」

リサ「ちよつとちよつと友希那！喧嘩はやめなよ！」

モカ「そうだよ〜。ここは仲良くしてね〜」

友希那「…ごめんなさい美竹さん」

蘭「いえ、私こそ挑発するようなことを言ってますみません」

ライブ「今日伝えたいことは以上だ。これから時間もまだあるし、ライブのリハーサルをしてもいいぞ」

紗夜「ありがとうございます。行きましょう。湊さん」

友希那「ええ、行きましょう」

リサ「ちよつと友希那待ってよー」

あこ「あこたちも行こ〜りんりん！」

燐子「そうだね〜あこちゃん〜」

巴「あたしらもリハするか？蘭」

蘭「そうだね巴」

香澄「有咲〜早く行くよ〜」

有咲「ちよつ！待てよ香澄!!」

千聖「私達も練習しましょう。彩ちゃん」

彩「そうだね千聖ちゃん！私達はレースに出られない分ライブで頑張ろうね！」

こころ「ミッシェルがレースに出ればよかったのに」

美咲「（んな無茶な!!）」

そんな形で彼女達はそれぞれ明日のライブに向けて練習のために食堂を出て行った。

ランス「イテテ：おい、殴る時はきちんと手加減しろよ」

ライブ「お前が監督として無能なことやってるからだろ」

ランス「だが、あいつらをこの世界に引き込んだのは俺だぜ？」

ライブ「よくお前のあの話にあの子達が乗ったよ…。いきなりライブハウスから出てきた彼女達に『いい体つきしてるな！ツールドフランスに出ないか？』なんて言ったら最初の方だけに反応されるのがオチだろうよ」

全くその通りで、その時に紗夜と有咲に見事なグーパンチをランスは食らったのだ。

ランス「でも俺の目に狂いはなかっただろ？あいつらの成長っぷりはよ」

ライブ「確かにそうなんだが…それよりあの話はいつかするのか？」

ランス「あれか…わからんな…」

ライブ「そうか…」

彼らのいる食堂はそのまましばらく無言の空間になっていた。

この話の内容を彼女達が知ることになるのはまだ先となる…。

チームプレゼンテーションとライブin France

6月30日 フランスのヴァンデ県「ピュイ・デュ・フ」にて

MC「皆さん、ついにこの時がやってまいりました！世界で最も有名なロードレース大会である第98回ツールドフランスが今日から開幕します！オープニングを飾るのは日本で話題となっている5組のガールズバンドの皆様です!!まずはこのガールズバンドの登場です！」

MCのコールに応じて出てきたガールズバンドは、パステルパレットとハロー、ハッピーワールド！の2組であった。

彩「皆さん、こんにちは〜！私たち」

パスパレ「パステルパレットです!!」

こころ「そして、私たちは世界を笑顔にするハロー、ハッピーワールド！よー！ハッピー、ラッキー、スマイル〜」

ハロハピ「イエーイ!!」

彩「それでは、まずは私たちパステルパレットの曲を聴いてください！しゅわりん☆どり〜みん。」

♪〜♪

パチパチ

こころ「私たちも続けて行くわよ〜！ハピネスっ！ハッピーマジカルっ♪」

♪〜♪

ワーワー

MC「パステルパレットの皆さん、そしてハロー、ハッピーワールド！の皆さんありがとうございました。さて、続いているガールズバンドはこの方々です！」

現れたのは、AfterglowとRoseliaであった。

蘭「早速、私達Afterglowの曲を聴いてください。Sca
rlet Sky…」

♪♪

友希那「私達も美竹さん達に負けられないわ！行くわよ！Neo-

Aspect」

♪♪

ワーワー

友希那「これで終わりじゃないわよ」

蘭「私達の魂をぶつけ合ったこの曲で決めるよ！」

友希那・蘭「せーの、PASSIONATE ANTHEM」

♪♪

2人による魂をぶつけ合ったの曲によって客席のボルテージは最高潮に達していた。そして…

香澄「私達Poppin' Partyもキラキラドキドキさせるライブをはっじめよう！！まずは、ときめきエクスペリエンス」

♪♪

たえ「次は、8月のifいきまーす」

有咲「いや、お前がいうのかよ！」

有咲の素早いツツコミにハハハという笑いが客席から溢れる。

♪♪

そして、最後の曲となった…

香澄「最後の曲は、ティアドロップスだよ！最後まで突っ走ってくからね！！」

♪♪

ワーワー

全てのバンドが演奏を終えた。しかし…

MC「5組のガールズバンドの皆さんありがとうございました！実はこの後のチームプレゼンテーションでもバックで演奏を彼女達にはしてもらおう予定なので、皆さん大きな拍手を！」

パチパチパチパチ

彼女達のライブは大成功を収め、そして本格的に第98回ツールドフランスのチームプレゼンテーションが始まって行く。

最初の登場音楽演奏担当バンドはハロハピ。

MC「まずは、ツールドフランス3連覇を目指す男を要する最強チームの登場です！チーム サクソンバード!!」

チーム サクソンバード

(Team SAXONBIRD)

1. アルベルト・ランドール
2. ハリス・エルナンド
3. クレイン・ナバーロ
4. ベンジャミン・ナバス
5. リッチー・フォールド
6. ロイス・アンヘル・セリアノス
7. ニキ・セリアノス
8. マツテオ・マルシエツト
9. ブリアン・ファンドローク

ランス「チツあのアルベルトの○○野郎のいるチームが最強チームだって？そんなこと言われるのも今年までだからな…」

客席にいたランスは軽く舌打ちをしてブツブツと言っていた。

???「ちよつと監督！何を一人でブツブツ言っているんですか？」

ランス「あ？おお、彩芽か。随分早く到着したな」

彩芽「それはそうでしょ。レース中のバックアップをしろと言ってきたのは監督ではありませんか」

ランス「そうだな。他の奴らは？」

彩芽「勿論すでに到着しています。明後日から仕事を開始しますのでひとまずホテルに戻ります」

ランス「おう、お疲れ。ゆつくり休めよ」

彩「このチームのエースはランドールという人ですか？」

ライプハート「そりゃ、ツールドフランス2連覇をしている奴だからな。ただ、今年のサクソンバードはチーム力が低下しているから潰け込む余地はありそうだな」

ランスが答えようとした時にリーヴァイが出てきて答える。

ライプ「ランスは過去あいつに負けたことがあるから○○野郎とか言ってるんだ。全く器が小さすぎるだろ」

ランス「馬鹿野郎！何故それを言っちゃまうんだよ!!」

ライプ「事実を言ったまでだからな」

ランス「うぐっ…」

リーヴアイの的確なツッコミでランスはもごってしまった。

MC「ランドール選手。今年のツールは勝てそうですか？」

ランドール「3連覇がかかっている以上もちろん目指しますよ。ただ、ライバル達も強力なので、全力を尽くさねば苦しい戦いを強いられるかと思ってはいる」

MC「わかりました。以上チーム サクソンバードでした！続いては、サクソンバードに待ったをかける最有力候補。レイブンイースト!!」

ワーワー

レイブンイースト

(RAVEN EAST)

11. アンディ・ドレイク
12. ファビラス・カンチエレラ
13. ヤコブ・フルランド
14. リーヌス・ブライトマン
15. マキシム・マクフォール
16. アーネスト・オーバーレイ
17. ヨースト・ポリッツ
18. フランク・ドレイク
19. イエンス・フォラント

有咲「リーヴアイさん。あいつらが最有力候補っていうのはマジなのか？」

ライプ「ああ。あいつらのチームよりも総合的に強いチームはないな。エースのドレイク兄弟の登坂力に敵うものはほとんどいないし、カンチエレラの牽引力である2人の弱点も補える。他のメンバーも山岳ではとんでもないメンバーだからな」

千聖「それでは、私達はチームはどうするのですか？」

ライプ「難しいと思うが、あいつらの隙をつくしかないな…」

麻弥「それだけ勝つことが難しいってことっすね」

ライブ「そういうことだ」

MC「アンディ選手。ランドール選手に今年こそ勝つ秘策はあるのでしょうか？」

アンディ「秘策はありませんが、お兄ちゃんとチームの力で彼のチームに打ち勝ちますよ。みんな早くツールが始まらないかとうずうずしてましたから」

ライブ「やはり、サクソンバードのチーム力の低下を見逃してないな…流石だ」

ここからしばらくチーム紹介のみします。お許しを。

エウスカル・エアステイ

(Euskal Airsthy)

21. サルトレ・サンチエス

22. ゴルカ・イサイル

23. エゴイ・マイラー

24. アラン・ペレアス

25. ルーベン・ペレアス

26. アメツ・トゥルーア

27. パブロ・ウーリエ

28. イバン・ベラレイア

29. ゴルカ・フラスコ

ライブ「ここは、スペイン人のみのチームで、サンチエスが要注意だ」

オメガ・ファクトリー

(OMEGA FACTORY)

31. ゲルマ・ファンアンネール

32. ウイリアム・ジルヴェール

33. アンドレ・グレイラル

34. セバスチャン・ロング

- 35. ユルゲン・ルールストン
 - 36. マルセル・シーフール
 - 37. ライデン・ファンデワール
 - 38. アダム・ファンフラット
 - 39. フレデリック・ヴィヴァンデ
- ライブ「こいつらは優勝争いには関係ないから追々説明だな」
- ネイダーバンク

(Neitherbank)

- 41. ロバート・ヴェーリング
- 42. カルロス・パレージ
- 43. ラース・ローム
- 44. ファンマヌエル・ガライヤ
- 45. バウケ・モリーナ
- 46. グリシャ・ハールマン
- 47. ルイスレオン・サストレ
- 48. ローレンス・アイラム
- 49. マーティン・チャールズ

ライブ「ネイダーバンクは地味なメンバーが揃っているが、実力はどいつも折り紙つきの奴らはばっかりだ。ダークホース的存在になるだろうな」

MC「次のチームは、世界チャンピオンを抱えるチーム。ガード・サーヴァン！」

ガード・サーヴァン

(Gerd Cervan)

- 51. トル・フースフォルト
- 52. トーマス・ダニエル
- 53. ジュリアン・デイール
- 54. タイラー・カヴァー
- 55. ライダー・キツシュ
- 56. アンドレア・ミラー
- 57. ラムナス・アストラナバス

58. クリスティアン・ヴァンデヴェルト

59. デイビッド・グリンスキー

ライプ「このチームのめんどくさいところは、どのレースもそつなくこなせてしまうところだ。特に世界王者のフースフォルトは厄介だから注意しなければ…」

沙綾「彼はこの大会の優勝候補なんですか？」

ランス「そりゃ無理だぜ。あの筋肉じゃ山は登れねーよ」

ライプ「ランスの言う通りだ。筋肉が多ければ多いほど山は登れないからな」

りみ「参考になります」

MC「フースフォルト選手。今大会では世界王者としてどのような戦略で行くのですか？」

フースフォルト「取り敢えずマイヨ・ジョーヌを初日に獲得するのが目標だ。その後は、面白いことが起きるだろうな」

つぐみ「マイヨ・ジョーヌってなんですか？」

ライプ「このツールドフランスで総合トップに立っている者が着用するジャージのことさ。ツールドフランスは21日間レースを行うからな。その時点でのトップが着るんだ」

ランス「俺はずっと着てたから意味忘れてたぜ」

ライプ「お前は黙っている」

ランス「へぶっ!？」

リーヴァイの手刀がランスの脇腹に華麗にヒットして、ランスは気絶してしまった。

ここから登場音楽演奏がパスパレに
アクトベ

(AKTUBE)

61. アレクサンドル・ヴィヴィアーニ

62. レミング・グレゴリオ

63. デミトリ・フォード

64. アンドレー・マルコ

65. マキシム・マルティンスキー

- 66. ロール・テイルマン
- 67. パオロ・ティラロンド
- 68. トーマス・シュヴァルツ
- 69. アンドレイ・ライン

ライブ「奴らのチームは完全に総合優勝よりもその日のステージ優勝を狙っているようだな」

はぐみ「ステージ優勝？」

ライブ「ツールドフランスには2つの優勝がある。その日のステージ優勝と、21日間を戦って最後にトップだったものだけが勝ち取れる総合優勝となっているんだ」

花音「なんだか、複雑ですね…」

レディオブラック

(RadioBlack)

- 71. ヤネス・マルコヴィツチ
- 72. マイク・ホーナ
- 73. デイブ・ワイマール
- 74. アリアス・ザイーデン
- 75. ミハウ・トルコニスキー
- 76. デミトリ・デイトリフ
- 77. セルジオ・マルキーニョ
- 78. ヤロスラフ・マルコヴィツチ
- 79. トーマス・クラフティア

沙綾「前のチームつてリーヴアイさんとランスさんがいたチームですよね？」

ライブ「そうだ。だが、あのチームで現役を続けるよりもランスについてチームを作る方に希望をかけたのさ」

友希那「ならば私達はその期待に応えなければならぬわね」

蘭「そうですね、湊さん」

チーム モーラ

(TEAM MOLA)

- 8 1. ダビド・アイルトン
 - 8 2. アンドレイ・マイオドール
 - 8 3. ルイ・マルク・ゴンタ
 - 8 4. イマノル・エルナンデス
 - 8 5. セバスチャン・グティエレス
 - 8 6. ベナト・クラフテイ
 - 8 7. ジャック・カーランド
 - 8 8. ロバート・ホーキンス
 - 8 9. フランシスコ・カントナ
- ライブ「あいつらもアクトベと同じだな」

リディール・キャノン

(L I D E A L — C A N N O N)

- 9 1. イヴァン・マツサ
- 9 2. マチエイ・ベルナル
- 9 3. マルクス・アレク
- 9 4. パオロ・パリオギーニ
- 9 5. ダニエーレ・マス
- 9 6. チエン・ムンバイ
- 9 7. ファビオ・マルディーニ
- 9 8. シルヴェスタ・シユノフ
- 9 9. アレックス・ハームステイ

ライブ「あいつらのチームは、完全に総合優勝を狙った布陣だな。特にエースのマツサはドレイク兄弟やランドールと張り合える力は持っているな」

おたえ「私達は、そんなチームに勝てるの？」

ライブ「それはお前達の頑張り次第だな」

ファンティードウール

(F A N T I — 2 L)

- 1 0 1. フェルナンド・ロツシユ

- 102. マイネル・クエ
 - 103. ユベール・デュ・マール・カバロ
 - 104. ジョン・ブノワール
 - 105. マイケル・イノー
 - 106. ピエール・アドリ
 - 107. セバステイアン・シガール
 - 108. ジャン・アルベルト・ペーロー
 - 109. クリストファー・マクロン
- ライブ「これもアクトベとかと同じだな」
- チームフライ

(TEAM FLY)

- 111. ブラドリー・ウイリアムズ
- 112. ファン・シルバー・フレツチャー
- 113. クリストファー・ブルーム
- 114. エドワード・クラフソンワーゲン
- 115. セバスチャン・マコース
- 116. ベンジヤミン・クラフト
- 117. ゲラント・トーラス
- 118. リゴベルト・グラフ
- 119. バビエル・サンチェス

ライブ「今回から参戦したチームにしては恐ろしいメンバーを組んで来たな…。ウイリアムズがエースなのに、ブルームやグラフがいるのか？あれ？ブルームは出る予定なかったはずじゃ？」

ランス「本来出るはずだったゲレーロが骨折しちまったから急遽決まったらしいぜ」

クイックウオーリア

(QUICK WARRIOR)

- 121. マルキジオ・シャフマン
- 122. トム・キーナン
- 123. ゲラルド・チオーラ
- 124. マルク・テヴォルト

1 2 5. ドリス・マルティネス
1 2 6. アデイ・エルナンド
1 2 7. ジェームス・ピノツティ
1 2 8. ニツキー・ステイルマン
1 2 9. アキ・テイルステラ
ライブ「正直、キーンナの奴の調子次第だな」
ここで、登場音楽演奏がポピパへ

F T V

(エフティイーヴィー)

1 3 1. セルヒオ・ゴザール
1 3 2. ウイリアム・ボーノ
1 3 3. ミカエル・トレイル
1 3 4. アルノー・ジャブイユ
1 3 5. ジャンニ・ニールセン
1 3 6. レミ・ポールスター
1 3 7. ジャン・エリック・ルソー
1 3 8. ジェレミー・アロン
1 3 9. アルテュール・ヴィヴァルディ
ライブ「フアンティードゥールと並ぶフランスの2大チームだな。
今回はあまり脅威じゃないだろうな」

隣子「ゴザールさんなら：聞いたこと：あります」

紗夜「私もシルバコレクターとして有名だと聞きました」

ライブ「ゴザールのやつも有名になったもんだなく」

MC「さあ、続いているチームは、サクソンバードやレイブニス
トの3人に対抗する男の率いるチームだ!!PTMレーシングチーム
!!」

ワーワー!!

PTMレーシングチーム

(PTM REACING TEAM)

1 4 1. アベル・ルヴァンズ
1 4 2. ルイス・ウォルター

143. マークス・アルデンハート
144. ジョージ・モロー
145. アマエル・ルモワール
146. スティーブ・モラツタ
147. マヌエル・キンツアート
148. イヴァン・サンラード
149. フェルナンド・バウアー
ランス「おいおい、ジョージがいんじやねーかよ」
イヴ「あの人は知り合いなんですか？」
ライプ「あいつとは、俺ら2人とも同じチームで戦っていたんだよ」
巴「2人とも引退したのにまだあの人は現役を続けているんです
ね」

ランス「何が奴を駆り立ててんだかな…」

MC「ルヴァンズ選手。今どんな気持ちですか？」

ルヴァンズ「ここにいることが出来てとても嬉しいよ。今からスタートするのが楽しみでしょうがないよ。今年こそツールで総合優勝を取りたいね」

ランス「奴も年齢的に今がピークだろうし、あせっていやがるな…寧ろ隙が出来てこつちにはありがたいがな」

ランスは不敵な笑みを浮かべているその傍でリーヴァイはやれやれといった表情を見せている。

メンデイス

(MANDIS)

151. レイン・スカルピオ
152. ミカエル・ブツハマ
153. サイモン・ドウラセク
154. レオナルド・ドウーケ
155. ジュリアン・エリツク
156. トニー・バイロン
157. ダヴィド・テイルマン
158. トール・デクレウス

159. ロメン・グローメン
ライブ「もうこのチームはアピールするしかないな」
ITAレーシング

(ITA REACING)

161. アレーノ・クライス
162. レオナルド・ベルベッツ
163. グレガ・ボツテキア
164. マツテオ・ボルト
165. ダニロー・ナバロ
166. デニス・ロベルト
167. ダヴィド・グロリー
168. アンドリユー・マローニ
169. カール・ザナルディ

あこ「あ、ザナルディさんならガツーンとした強さを持っているってお姉ちゃんから聞いたことある！」

巴「けど、彼はピークを過ぎてきているらしいから私たちがあの頃の強さを見ることはできないかもな」

ライブ「寧ろ、クライスの方を見てやれよ…」

ハイスピード・スペシャル

(HIGH SPEED SPECIAL)

171. マーク・アルディツシュ
172. バルト・ライヘンバッハ
173. ゲルハルト・アイゼンバウアー
174. マシユー・ゴーマ
175. ジョージ・マルティニー
176. ダニー・ベイル
177. マーク・シヨーマー
178. テイージェイ・ヴァンアールス
179. ピーター・ペトロフ

ライブ「ステージ優勝最有力候補の登場だな。アルディツシュはミサイルと呼ばれているほどの強さを持っているからな。他のメン

バーはそれを全力で助けるのみというチームだ」

美咲「てことは他は一切狙っていかないということですか？」

ライブ「その通り。あのチームはステージ優勝に全てを捧げているんだよ」

ここから登場音楽演奏が Roselia へ

フランソワカー

(FRANCOACAR)

181. トマ・ヴォルドー

182. アントニー・シャルル

183. シリル・ゴルディ

184. ヨアン・ジエームズ

185. ヴアンサン・ストローム

186. クリストフ・ラウール

187. ペリグ・ケルモ

188. エリック・ローラン

189. セバステイアン・ラルゴ

ライブ「総合的にはそれほど脅威じゃないが、ヴォルドーとローラ
ンは一歩間違えば総合優勝もありえる選手だから気をつけるよ」
モカ「りよくかゝい。後で演奏してるみんなに伝えときまゝす」

チーム モスクワ

(TEAM MOSKWA)

191. ウラディミール・クランツ

192. パヴェル・フラツド

193. デニス・ギールチエフ

194. ウラン・グセフ

195. ミハイル・シエフチエフ

196. ウラディミール・フランチェフ

197. アレクサンドル・ロールネフ

198. エゴール・サラザン

199. ユーリ・モルモフ

ライブ「ここもあまり目立たないチームになるな」
ヴァルディアーニ・NED

(VALDHERNI・NED)

- 201. ロメン・ファルジャン
- 202. ボーマン・パヌツチ
- 203. トーマス・テイラン
- 204. ジョニー・ルークランド
- 205. ビオン・フォールランス
- 206. マルコ・ジェラード
- 207. ウォルト・ブノワイエ
- 208. ロブ・ルード
- 209. リンド・ウエイラント

ライブ「このチームはどこで何をするかわからないチームだな…」
蘭「わからないって、どういうこと？」

ライブ「どのステージにも対応できるメンバーばかりだからそう
いっているんだよ」

ソール・ブルー

(SOUL BLUE)

- 211. ジェローム・デットリ
- 212. ジャン・コーラ
- 213. アントニー・プラスィーユ
- 214. ジミー・ドミンゲス
- 215. ジエレミー・ギャラード
- 216. ジョナタン・リヴェール
- 217. ファビラス・ジョアン
- 218. ローラン・マンセル
- 219. ヤニック・タラニエ

ライブ「ここもメンデイスと同じでアピールのためだな」

MC「さて、最後にこのチームを紹介しましょう!!先ほどライブを
行ったガールズバンド達によるチーム。チームBang Dream!
m!です!!」

チーム Bang Dream!

(Team Bang Dream!)

221. 湊友希那

222. 氷川紗夜

223. 氷川日菜

224. 弦巻ころろ

225. 戸山香澄

226 青葉モカ

227. 今井リサ

228. 市ヶ谷有咲

229. 美竹蘭

ワーワー

MC 「湊選手。今回の目標は？」

友希那 「勿論、総合優勝に他ならないわ！私達を支援してくれたチームに報いなければならぬのだから」

MC 「なるほど。では、紗夜選手。今回は妹さんも出場しておりますが、姉妹で何かお話は？」

日菜 「とにかくるん♪と来ることを話してたよ〜！」

紗夜 「ちよつと日菜！」

MC 「るん♪？ちよつとよくわかりませんが、次に参りましょう。こころせん「あ、こころと香澄には聞かなくていい。日菜さんと同じ感性の2人だから」

香澄 「ちよつと有咲〜!!」

有咲 「泣くんじやね〜!!事実だろうが!!」

こころ 「とにかく笑顔を絶やさないわよ〜」

MC 「え？ちよ？はい？」

リサ 「2人とも、MCさんが困惑してるからその辺にしなさい」
こころ・香澄 「はい」

MC 「では、気を取り直して青葉選手。今回の青葉選手の役割は？」

モカ 「取り敢えずツグってよ〜」

MC 「ツグ…？」

リサ「こらこらモカもやめなさい」

モカ「私は以上でくす」

MC「はあ…。では、今井選手。今回は幼馴染の湊選手をアシストするのですか？」

リサ「まあ、もちろん幼馴染だからね☆」

MC「なるほど。そして先ほど戸山選手とじゃれてた市ヶ谷選手」

有咲「じゃれてねーよ!!」

MC「じゃそういうことにしておいて、戸山選手はレース中どう抑えるのですか？」

有咲「取り敢えず勝手なことしたらシメる」

香澄「怖いよ有咲く」

有咲「誰のせいだと思ってるんだよ!!」

MC「それでは、最後に美竹選手。今回は湊選手と戸山選手、そして美竹選手のトリプルエースらしいですが」

蘭「ええ、でもいつも通りやるだけですから」

MC「流石ですね。それではチームBang Dream!でした!!」

そんなこんなでライブとチームプレゼンテーションは無事終了した。のだが…

サクソンバードside

ランドール「なあ、リッチー。あの中でお前は誰が好きだ？」

フォールド「んくやっぱリサ姉さんかなく」

ランドール「お前もそうなのか。いつかああいう嫁が欲しいなく」

ロイス「おいおいエースよ。レースには集中してくれよ。リサが好きだからって手加減は無しだからな」

ランドール「もちろんだ。3連覇がかかっているんだからな」

フォールド「湊さんも捨てがたいな」

ロイス「お前はいつまで言ってるんだよ…」

レイブside

アンデイ「あく燐子さん：美しい人だったなく」

フランク「いやいや、沙綾さんだろ。あの包容力ありそうな人はそ

ういないぜ」

フロント「やれやれ…この兄弟ときたら…」

PTM side

ルヴァンズ「わしにはルキアがおるからあの子たちに興味はないな」

ルキア「あら、そういつてくれるなんて嬉しいわ。このツールが終わったら結婚しましょう」

ルヴァンズ「ああ、そうだなキアラ」

バウアー「あら…随分とお熱くなっちゃってまあ」

モロー「これで21日間踏ん張れるのだろうか…」

と、こんな感じに彼女たちの影響を受けているものが多数存在していた。

一方彼女たちは、ホテルに戻ったその夜に再び食堂に集められた。

ランス「今から初日第1ステージの作戦会議を行う」

ライブ「今回はパサー・ジュ・デュ・ゴワ・モン・デザルエツトまでの191.5kmだ。はつきりいつて今回は集団の中に待機したままでいい。ただ、もし狙うのならば香澄かこころでいく」

リサ「じゃ、あたしやモカ、紗夜と日菜はそれを守ったり水の補給とかをすればいいんだね」

ライブ「そうだ。もちろん友希那や蘭もそれに加わる」

蘭「わかった」

香澄「はーい！」

ランス「じゃ作戦は以上だ。体調管理はしっかりとしてくれよ！」
ライブ「それとレース当日からチームスタッフが本格的に合流する。覚えておいてくれ」

みんな「はーい（わかりました）」

そして、彼女たちは食堂を後にした…

ライブ「さてと…このツールが終わるまでお前のあれがバレないといいが…」

ランス「おいおい、俺は無実だぜ？」

ライブ「だが、世間ではお前を疑っているんだぞ？」

ランス「奴らは俺のことが妬ましいんだろ」

ライブ「そうだな、お前が現役時代にドーピングをしてたなんてな」

ランス「だから俺はしてねーよ！」

そういつてランスはテーブルを叩く

ライブ「わかってる。俺はお前の味方だからよ」

ランス「裏切りは無しだぜ？」

ライブ「当たり前だろ。俺らは親友だろ」

ランス「そうだな」

：

あこ「どうしよう…忘れ物したから戻ってきたら、ランスさんがドーピング!? どういうことなんだろう…」

不覚にも彼らはあこにこのことを聞かれていたのだ。果たして、ツールの行方は?そして彼らの秘密は露呈してしまうのか!?さらに、第1ステージから波乱の幕開けが!

第1ステージ ―地獄の始まり―

7月2日ヴァンデ県 パサーージュ・デュ・ゴワにて

まさに7月といえるような暑さの中、第98回ツールドフランスが本格的に開幕を迎える。今回のツールドフランスは、干潮を迎えた時に現れる海の中道が有名な干潟の「パサーージュ・デュ・ゴワ」からスタートする。スタートを前にチームBang Dream!のメンバーとその仲間たちがランスとリーヴァイ(ライブ)に集められた。

ランス「全員集合したか？」

みんな「はい」

ライブ「今日から21日間君達をサポートしてくれるチームスタッフを紹介しようと思つてな。もちろん、レースに出ない人達も一緒にレースに出るメンバーのサポートをするように。それじゃ、早速紹介しよう」

ランス「おい、彩芽。早く来いよーつてあいつどこ行った？」

彩芽「言われなくても監督の後ろにおります」

ランス「!？」

パタツ…

ライブ「おいおい彩芽。ランスの後ろに立つて驚かせたらダメだよ。ランスが気絶してしまつてぞ」

彩芽「わ、わたくしはそのようなつもりでやったわけでは…」

??「もう、彩芽ったら。そんなに監督さんのことが好きなのかしら?」

彩芽「なっ?!なぜそんな結論に至るのですか!?杏梨の言っていることは間違っています!!確かに嫌いではありませんけど…」

杏梨「もう、素直じゃないんだから♡」

杏梨の発言で彩芽は顔を真っ赤にさせて俯いてしまっている。

紗夜「なんだか色の濃い方々ですね」

ライブ「早く紹介を済ませたいんだからちゃんとしてくれよ。それじゃ、1人ずつ自己紹介して言つてくれ」

杏梨「私の名前は姫咲杏梨よ。今から紹介する子たちは私と彩芽の

後輩なのよ。マッサージを担当するわ。よろしくね♡」

彩芽「相変わらずね杏梨は…。わたくしが杏梨から紹介のあった橘彩芽です。わたくしは主に監督さんやリーヴアイさんと作戦を立てたり、チームカーから指示を出す役割を担当しております。よろしくおねがいいたします。年齢は湊さん達より1つ上です」

友希那「橘さん。こちらこそよろしくお願いするわ」

鈴音「私の名前は水瀬鈴音です。杏梨さんと同じでマッサージを担当します。よろしくお願いします」

月「私は神楽月だよー！元氣第一で頑張ってます！因みに私はみんなの料理を担当してるよー！あと、私の隣のひなたも料理担当だからね」

ひなた「そう！私の名前は桜木ひなたで、月ちゃんと料理を担当してまーす。他にもメカニックを担当してるよ」

ゆきな「みんなのアイドル星宮ゆきなもマッサージを担当してまーす！」

ほたる「私の名前は源氏ほたる…。あまり外に出たくないからメカニック担当だよ…」

メイ「私の名前はメイ。メカニック担当です。よろしくお願いします」

ライブ「こいつらは『8／planet!!』というアイドルユニットを結成しててな、ランスが声をかけていた組の1つなんだよ。バックアップは基本的にこいつらに任せときな。レースに出ないメンバーは水や食料の配布や『8／planet!!』のメンバーを手伝ってくれ」

みんな「はーいー！」

ライブ「とりあえず話は以上だ。メンバーはサイン会場に向かってくれ」

サイン会場

リサ「いや〜しかしたくさん人がいるねー」

モカ「ほんとですね〜これはびっくりですわ〜」

紗夜「それでは皆さん、早速行きましょう。あれ？日菜はどこへ？」

蘭「日菜さんならあそこに」

紗夜がサイン会場の壇上に目を向けると、数名の選手と仲良く話している日菜がいた。

友希那「あの子の対応力には驚かされるわね」

紗夜「はあ：全くあの子ったら：」

「こころ「それより早く行きましょう！」

そんなこんなで1人ずつサイン会場の壇上にあるボードにサインを書いていく。

そしてスタート10分前が近づいたため、メンバーはスタート地点へと集まった。

???「君はもしかして今井リサさんかな？」

リサ「貴方はランドールさんですね。お会いしたいと思っていました」

ランドール「堅苦しいのはやめましょう。お互い選手として頑張るまようね」

リサ「オーケー！こつちこそよろしく」

香澄「もしかしてモロー選手ですか!？」

モロー「ええ、君は戸山香澄さんだよね？」

香澄「はい！ランスさんとリーヴアイさんにお話を聞いていました！」

モロー「あいつらか：手加減はしないと伝えといてくれよ」

有咲「こつちだって手加減する気はねーからな」

バウアー「お、有咲ちゃんか。まあ、そうカッコしないでくれよ。こいついつものことだから」

モロー「おい、そりやどういう意味だ」

香澄「とにかくよろしくお願いします!!」

バウアー「こつちこそよろしくな。俺はバウアーだ」

有咲「バウアーさん。こつちこそよろしくおねがいます」

マツサ「君は蘭ちゃんかい？モカちゃんは一緒じゃないの？」

蘭「いや、モカはいまトイレに行ってますよ」

マツサ「そうか：モカちゃんに一目会いたかったんだが」

蘭「好きなんですか？」

マツサ「ん？まあ、好みではあるな。とにかくよろしくな」

モカ「蘭くお待たせく。あれ？あの人はマツサさん？」

蘭「モカに会いたかったらしいよ」

モカ「成る程く。でも、モカちゃんも蘭のものだからねく」

蘭「よくそんな恥ずかしいこと言えるよね…」

ガガー

ライブ「お前たち。そろそろスタートするぞ。気を引き締めてくれ」

みんな「了解！」

レイブ「レイブ側side」

アンディ「お兄ちゃん。あの子達がチームBang Dream!だよな？うーん、燐子ちゃんはいないみたいだね」

フランク「沙綾さんもメンバーには入ってなかったから、2人ともチームスタッフの仕事をしているのかもな。そうだ、あとで会いに行くか！」

アンディ「それいい考えだね！お兄ちゃん!!」

フォラント「おい、その兄弟。そういうことはレース後に考えてくれよ。こつちもやりづらくなるからな」

フランク「それは承知の上だ」

アンディ「わかったよーフォラントおじさん」

フォラント「おじっ!？」

フランク「すまんが気にしないでくれ。いつものことだろ」
フォラント「……………」

PTM side

ルヴァンズ「今年優勝できたらワシはルキアと結婚できる…! そう考えただけでやる気が満ち溢れてくるでー!」

キンツアート「ルヴァンズさん。ルキアさんのことが好きなのはわかりますけど…」

ルヴァンズ「どうした？」

キンツアート「前スタートしてますよ」

ルヴァンズ「まさかそんなわけ…マジか！すまん」
キンツアート「とりあえず落ち着きましようね。リーダー」

いよいよツールドフランス第1ステージが始まった。まずは約10kmのパレード走行をする。その後レースが本格的にスタートするのである。

ワーワー

彩「沿道にこんなにもたくさんの観客がいるなんて！驚きです!!」

沙綾「確かにこれほどの人数は日本では見ないもんね」

彩芽「あなた達は、メンバーのみんなに必要な時に指示を出してください。選手は走りながら独断で判断することは難しいのよ」

彩「わかりました！」

沙綾「サポートは任せてください」

ースタート地点から100km先の中間休息ポイント地点ー

つぐみ「私たちはここでどんな仕事をするのですか？」

鈴音「ここでは自分のメンバーに水や食料を配給するんです。ロードレースの世界では道中で自由に補給ができないんです。さらにレースでのカロリー消費量はマラソンや水泳などの他のスポーツとは比べ物にならないくらい消費をするんです。だからこそ私たちがこの地点で水や食料を配給したりするんですよ」

ここで全員のスタッフ配置の紹介する

・チームカー乗車組

①ランス、彩芽、彩、沙綾

②リーヴァイ、杏梨、千聖、美咲

仕事内容：戦略の組み立て、メンバーへの指示、トラブルの対処

・配給組

ひまり、つぐみ、巴、おたえ、りみ、イヴ

仕事内容：水や食料の配給、少し応援要素あり

・チームバスでの分析組

ほたる、メイ、麻弥、あこ、燐子、花音

仕事内容：レース展開や天候などの分析

・救護組

はぐみ、薫

仕事内容：万が一のための治療
以上

選手の集団は10kmを走っていいよいよ本格的にスタートが切られるところまでやってきた。

そして、スタート旗が今振られた!!

スタートが切られて直ぐに数名の選手が集団から飛び出していく。集団の選手達はこれを容認して数名による逃げ集団が形成された。

彩「あれって追いかける必要はないんですか？」

ランス「そうか。お前はレースに出たことなかったから、そこらへんの細けえルールはしらねえんだったな」

沙綾「確か逃げに出た集団はゴールまで逃げ切ることに賭けて飛び出しているんですよね？」

彩芽「ええ。メイン集団は逃げている集団との時間差を見極めながらどこでその差を詰めていくのかを見極めているのよ。しかも、逃げている集団は人数が少ないから風除けとして先頭に出る回数が多くなるわ。つまりスタミナが無くなるのが早くなるということ。メイン集団はみんな追いかけるから、スピード差が大きくなって逃げ集団を吸収できるのよ」

彩「なるほど！全ては計画的なことなんですな」

スタートして30kmを過ぎた頃には、逃げ集団とメイン集団の差は3分程に広がっていた。そしてメイン集団の中では…

リサ「友希那く。調子は大丈夫？」

友希那「大丈夫よ。これから根をあげたら、あの人たちへの恩は返せないわ」

紗夜「体調が思わしくない時は、いつでも頼ってくださいね。そのために私達がいるのですから」

ランドール「そうだぞ。総合優勝するには味方のアシストは必要不可欠だからな」

リサ「あれ？アルベルトじゃん。同じチームの人たちと一緒にじゃな

いの？」

ランドール「君達の様子を見るために一時的に列から外れたんだよ。それよりも湊さん。味方のことはいつだって頼ってくださいな。いざという時に危機を救ってくれますから」

友希那「そのアドバイスは大事に受け取っておくわ。ありがとう」
リサ「ありがとね〜アルベルト。うちの友希那のこと心配してくれてさ。紗夜もそう思うよね？」

紗夜「ええ。全く異なるチーム同士は話をしたりしないものかと思ってきましたので」

ランドール「何言ってるんだ。競技の上では敵だとしても、根本的にはお互い仲良く、そして無傷でパリまで着くことが大事なものだからね」

リサ「なるほどね〜。良き敵であり良き友という考えなわけか〜」
友希那「でも、いざという時は本気で戦うわよ」

ランドール「こつちも受けて立つ予定だったからその予定だよ。それじゃ、ゴール地点でまた会おうな」

そう言うランドールは、チームメイトのいる方向へと戻っていった。

紗夜「1つ気になったことがあったのだけど、いいかしら？」

友希那「なに？紗夜」

紗夜「ランドールさんて、今井さんに積極的に話しかけに来てないかと思ひまして」

リサ「え〜そうかな〜？」

友希那「それは紗夜の気のせいだと思いたいわね」

紗夜「私の気のせいだと思いたいのですが…」

チームカー組

千聖「そういえば、リーヴアイさんに聞きたいことがあるのですが」
ライブ「ん？どうした？」

千聖「チームプレゼンの時に話さなかったオメガ・ファクトリーというチームはどういうチームなんですか？」

美咲「少なくとも私達のように総合優勝を目指しているチームでは

ないということだけ聞いたんですけど…」

ライブ「あくそういえば、説明してなかったな。オメガ・ファクトリーは、お前たちが言ったように基本的に総合優勝のチームではない。あのチームのエースであるファンアンネールだけが総合優勝争いをしているだけで、主にジルヴェールやグレイラルが平坦のステージで優勝を狙うスタイルだな。特にグレイラルは世界最強の称号を争うレベルの男だ」

美咲「なのにあまり名前を聞いたことないですね。アルディッシュなら知ってますけど…」

ライブ「そりゃ、アルと同じチームだったからツールに出てなかっただけさ」

千聖「つまり、そのファンアンネールという人以外はあまり私達のチームとは関係がないということですね」

ライブ「まあ、そういうことになるな」

杏梨「この子たちはいろんなことに興味を持ってくれるのね。いつかは同じチームで働きたいわ♡」

ライブ「いや、今まさに同じチームだろよ」

杏梨「そんな厳しいツツコミしないでよ」

ライブ「おい杏梨！運転してる俺にくつつくな！」

ヒソヒソ

美咲「なんだか仲良いですよね」

ヒソヒソ

千聖「そ、そうね…」

ついにメイン集団が100kmの地点までやって来た。レースが始まってから約2時間。メイン集団と逃げ集団との差は4分半まで開いている。

鈴音「そろそろくると思うのですが…」

巴「よっしゃ!!水と食料を配りながら激励するぞ!!」

イヴ「そうですね巴さん!ブシドーでがんばります!!」

巴「お、言ったら来たぞ!」

ひまり「モカ〜!頑張れ〜!」

つぐみ「蘭ちゃん！ファイトだよー！」

たえ「頑張れ頑張れ〜」

りみ「みんな、頑張つて〜！」

チームBang Dream!のメンバーを含んだメイン集団は、チームスタッフから水と食料を受け取りながらあつという間に駆け抜けて行った。

イヴ「行つちやいましたね」

巴「なんだかあつという間だったな」

ひまり「みんな無事に走ってほしいね」

つぐみ「そうだね、ひまりちゃん」

鈴音「それじゃ、私達も移動してゴール地点まで行きましょう」
たえ「そうしよ〜」

りみ「たえちゃんはいつも通りだね。私なんて緊張してるのに」
メイン集団side

香澄「ねえ、有咲。りみりんたちの声聞こえた？」

有咲「そりやな。特に巴とイヴの声はめつちや聞こえてたぜ」

蘭「なんか、あんな風に応援されると照れるな…」

モカ「蘭〜。顔赤いよ〜」

蘭「なっ!?!これは、その…」

有咲「おいおいモカ。その辺にしておけよ」

モカ「りようか〜い」

蘭「ふう、ありがとう有咲」

有咲「礼なんていらねーよ」

ゴールまであと10km地点

逃げ集団と徐々に差が詰まって30秒差まで来ていた。

チームカースide&分析班side

彩芽「監督。そろそろ動いた方がいいと思うのですが」
ランス「そうだな。一応分析班に聞いてみる」

彩芽「わかりました」

ブーブー

あこ「ほたるさん。スマ○が鳴ってますよ」

ほたる「ありがと…。はい、彩芽さん…。今動くべきか？少し待つて下さいね。燐子さん。今風向きと横風はありますか？」

燐子「いえ…。風は今…。ほとんど…。吹いてない…。です…」

麻弥「上位のチームはほとんど集団の前に出て行ってるっすよ」

ほたる「了解。彩芽さん。今のところ風が吹いてなくて、上位のチームが上に上がっているのです、そろそろ動いた方がいいですね」

花音「集団の前に上がるのはどういう意味があるのですか？」

メイ「集団の上上がることで、落車とかが発生した時に巻き込まれる確率が大幅に減少します。そうすることで、場合によって総合を有利に進めることができます」

彩芽「了解。ほたるたちの話によると、今が動きどきだそうです」
ランス「わかった。彩と沙綾は、今の指示をメンバーに伝えるんだぞ」

彩&沙綾「わかりました！」

『残り9 kmの地点で大規模な落車が発生しました』

ランス「ん？なんだと!?今すぐメンバーと連絡を取れ！」

メイン集団 side

日菜「おねくちゃん！大丈夫？」

紗夜「日菜？あなたはどうかやら巻き込まれなかったようね」

日菜「うん！」

友希那「無事で何よりね。リサは…え？」

紗夜「どうしましたか？湊さん」

友希那「リサが…いないわ」

日菜「え!？」

紗夜「まさか…!？」

落車が発生したのは残り9 kmの地点。大規模な落車だったために集団は分裂してまったのである。

リサ「イタタ…びつくりしたなーもう。友希那たちは無事だったみたいだからよかったけど。あれ？あそこにいるのって」

ランドール「いつてえー。こりや膝少しやったな」

リサ「えっ!?!アルベルトさん!？」

ランドール「あれ！リサも巻き込まれたのか！」

リサ「そうなんですよ。って膝怪我してるじゃないですか！」

ランドール「不覚にも巻き込まれちゃったよ。大したことないから気にしないでくれ」

リサ「いや、気にしますよ！とりあえず絆創膏だけ貼るからじつとしててね！」

ランドール「えっ、いやいいよ！」

リサ「気にしないでっ！はい、終わったよ！」

ランドール「すまん。それじゃゴールで！」

そう言うランドールは、チームメイトと共に合流してメイン集団を追いかけていった。

フォールド「ランドールさん！大丈夫ですか？」

ランドール「とりあえずはな。とにかくまえをおうぞ！」

フォールド「了解！」

一方リサは…

リサ「あたしも友希那たちを追わないと。イタツ！あれ？左肩が動かない？でも、とりあえず追わないと!!」

落車した中でリタイアした者たちはほとんどいなかったが、リサやランドールが巻き込まれてしまった。その結果、ランドールたちはメイン集団から30秒程差がついてしまい、リサは1人で追走をしていた。

プップー

チームカーの窓が開き、リーヴァイが尋ねる。

ライブ「リサ！大丈夫か!？」

リサ「あれ？リーヴァイさん。あはは…大丈夫と言いたいんだけど…なんだか左肩に力が入らないんだよね…」

ライブ「わかった。レース後に検査しよう」

杏梨「あれは、まずいかもしれないわね」

美咲「どこか怪我してたんですか？」

千聖「いいえ、あの表情を見る限りただの怪我ではなさそうね」
ライブ「あれは、肩を完全にやってるだろうな」

杏梨「下手をすればリタイヤかもしれないわ」

美咲「そんな…」

残り3km地点。逃げ集団はすでに吸収されていた。

ジルヴェール「おい、グレイラル！もっとペースをあげろ!!」

グレイラル「ウホウホ！（了解！）」

有咲「あいつら、めちやめちやペース上げるじゃねーか!!」

香澄「有咲！これはきついよー」

日菜「香澄ちゃん！それくらいで根をあげちゃダメだよ」

有咲「いやいや！日菜さんは凄すぎるんですよ！」

沙夜「あれ？後ろの人たちがいなくなってますね」

友希那「どうやら、また落車があったようね」

こころ「なんだかみんな大変ね」

PTMとオメガ・ファクトリーが急激にペースを上げたこともあつてか、2度目の落車が発生。その中にアンディとヴェーリングが含まれていた。

ルヴァンス「おい、モロー！バウアー！ランドールが1分後ろにいるから、もっとペースを上げてくれ！」

バウアー「任せろ！」

モロー「おうよ」

この混乱の中で残り1kmを通過

有咲「あれ？今1人抜け出したぞ？」

ジルヴェール「やべっ！あれはファビラスじゃねーか！冗談じゃねーぞ！ここまで来て負けられるか!!」

カンチエレラの急所を突いたアタックに反応したのはジルヴェールと…

日菜「あはは！2人とも！待ってよー！」

ジルヴェール「は!?!なんだこいつ！こうなったらこいつの後ろで様子を伺うしかねーな」

残り500m

先頭はカンチエレラ。すぐ後ろに日菜とジルヴェール、そしてルヴァンスと友希那がいる。

香澄「んー！きついよー！」

蘭「湊さんと日菜さんが凄すぎる…」

モカ「引っ張っていくから頑張ってよー蘭く」

有咲「おい、いくぞ香澄！」

香澄「待つてよー有咲ー!!」

ジルヴェール「よっしや！ここだぜ！」

ジルヴェールのアタックを皮切りにカンチエレーラをはじめとしたメンバーがゴールまでのスプリントを開始した。

友希那「くっ…！速い！」

カンチエレーラ「くそ！追いつかない！」

ジルヴェール「カンチエの奴はスタミナ切れのようだな。よし！もらったぜ」

ルヴァンズ「この日菜とかいうやつ追う気配無しやな…。なら、いか」

ルヴァンズがジルヴェールを追走していき、日菜はルヴァンズにくつついていく。そして…

ジルヴェール「ツール初優勝とマイヨ・ジョーヌは頂いたぜ！」
勝利を確信すると、ガッツポーズをしながらジルヴェールがトップでゴールラインを通過した。

日菜「あー楽しかったー。ちよつときつかったけどねー」

ルヴァンズ「(なんなんやこの子は…)」

ルヴァンズが日菜とのゴールスプリントを制し2位。日菜が3位。カンチエレーラ、友希那と続いた。

第1ステージ結果

1位ジルヴェール 4時間41分31秒

2位ルヴァンズ +5秒

3位氷川日菜 +5秒

4位カンチエレーラ +8秒

5位湊友希那 +8秒

6位市ヶ谷有咲 +25秒

7位青葉モカ

8位 美竹蘭

9位 戸山香澄

10位 フースフォルト 以下6位から集団同タイム

74位 ランドール +1分30秒

最下位 今井リサ +3分40秒

尚、アンディは残り3km圏内での落車だったため、メイン集団と同タイムになる救済措置によって同タイムとなっている。

総合首位

ジルヴェール

ポイント賞

ジルヴェール

山岳賞

ジルヴェール

新人賞

氷川日菜

敢闘賞

ロツシュ

日菜「やったね！なんだかるん♪と来るようなジャージ着ちやったよー！」

紗夜「それは明日も着るのだから覚えておきなさい」

日菜「はーい！」

レースが終わって一通りの作業が終わったが、ランスはイライラしていた。

ランス「つたく。いつになったら結果が出るんだよ」

ライプ「少し落ち着け。イライラしても意味ないぞ」

ランス「んなことわかってら！けど、心配なんだよ」

彩芽「監督がイライラしてはチームに影響が出ます。やめてくださいね」

ランス「つたく。わかったよ」

???「お待たせしました」

ライプ「どうだ千早。リサは大丈夫なのか？」

千早「…鎖骨の骨折ですね…。正直言ってレース続行はあまりお勧めできません」

ライブ「そうか…。すまん」

千早「いえ、これもチームドクターの役目ですから」

オメガside

監督「それでは、ジルヴェールの優勝に乾盃！」

みんな「乾盃く!!」

グレイラル「ウホッ（よくやってくれたよー!）」

ジルヴェール「まあな、タレないジルヴェール様の強さを見せられたぜ」

ファンアンネール「その割には日菜に追いかけられて焦ってたよな」

シーフル「映像を走りながら見てたけど、かなりあたふたしてたよな〜!」

ジルヴェール「な、何言ってるんだよ!俺はジルヴェール様だぞー!そんなわけねーだろー!」

ハハハハハ

ジルヴェール「笑うんじゃねー!!」

オメガ・ファクトリーのホテルではこの1日笑いがつきなかったそう
うな

レースの終わったその夜。チームBang Dream!のメンバーは食堂に集められた。

友希那「あれ?リサがいないわね」

ランス「ああ、実はそれなんだが…」

ライブ「大丈夫だ。問題はない。リサは明日またレースに出る」

ランス「おい、リーヴァイおま」

ライブ「少し黙っとけ!!」

ランス「ほぶらっ!!」

リーヴァイの強烈な回し蹴りはランスの頭にクリーンヒット。ランスは地面に突っ伏して気絶した。

ライブ「それじゃ、明日のレースの作戦を話すぞ」

そうリーヴアイが言うと、彩芽が第2ステージのコースマップを持って来た。

彩芽「明日は、レゼサールの街をチームで走る23kmのタイムトライアルです。5番目の選手のゴールタイムが基準となります」

ライブ「とりあえず、タイムトライアルの速い日菜と紗夜、そしてこころと香澄はいいとして…あとは最後まで残る奴は…」

友希那「私と美竹さんが最後まで残るわ」

蘭「この競技はあまり好きじゃないんですが…湊さんに負けるわけにはいきません」

友希那「そうね、良き敵であり、良き友なんだからね」

蘭「ええ」

ライブ「それじゃ、作戦は決まりだな。最後から2番目にうちは走るから、準備は怠るなよ」

みんな「はい（わかりました）」

そしていつものように食堂で解散した。

彩芽「リーヴアイさん。リサさんは、鎖骨骨折なのに走れるのでしょうか？」

ライブ「さあ…あとはリサの決心と千早の判断次第だな」

ランス「しかし、お前がリサをかばうとはな」

ライブ「リサとアルベルトに頼まれたんだよ」

ランス「は!?あのアルベルトの○○野郎にか!?!」

彩芽「それは驚きの話ですね」

ライブ「だが、明日走るかどうかは本人次第だな」

リサ「イタタ〜やっほ〜」

ランス「おい、大丈夫かよ」

リサ「まだ痛むけどなんとかね〜」

ライブ「それで?千早と話したんだろ?どうするんだ?明日走るか決めたのか?」

リサ「え〜っと、私は…」

果たしてリサは第2ステージに出場できるのか!?

そしてランドールの膝の影響は!?

次回をお楽しみに

第2ステージ ―チームの絆―

7月3日フランス レゼサール

この日はチームタイムトライアル。距離23kmとタイムトライアルの中では平均的なレイアウトになっている。

このチームタイムトライアルは、チームの上位3人のタイムを合計して遅い方から先にスタートを切る。この日の1番手は、第1ステージの落車で遅れたランドールのいるサクソンバードであった。

サクソンバード side

マルシエツト「おい、アルベルト。落車の怪我の具合は良いのか？
場合によっては俺らだけでローテーションするが」

ランドール「いや、問題ないよ。リサ姉さんのおかげで痛みはほとんどないしね」

フオールド「アルベルトさん。リサ姉さんに何かしてもらったんですか？」

ランドール「いや…まあ色々な…」

フオールド「教えてくれないんですかー？」

ロイス「おい、そろそろスタート地点に行くぞ。無駄話は後にしろよ」

ランドール「わかってるよ」

フオールド「後で聞き出しますからね。アルベルトさん」

そして、チームサクソンバードのタイムトライアルがスタート！

フオールド「取り敢えずアルベルトさんは最後に回ってください！
暫くは俺らでローテーションします！」

ニキ「その方がいいな！お前は温存だアルベルト！」

ランドール「それじゃ、5kmから引くぜ」

その頃スタート地点では…

ランス「おい、ランドールの○○野郎の調子は良さそうに見えるか？」

ライブ「正直言つてあまり良さそうに見えんな。てか、あいつのこ
といい加減○○野郎って言うなよ」

ランス「あ？○○野郎なのは事実だろ。お前も同じチームだったんだからわかるだろよ。チームの指示無視してアタックとかふざけるぜ」

ライプ「そりゃ、あのときのうちはお前中心であいつの仲間がいなかったんだから仕方ないだろよ。総合優勝を狙うなら仕方ないだろよ」

2人がチームカーの中でランドールの様子を探っている一方…

リサ「ん〜。アルベルトの膝は大丈夫かな〜」

千早「リサさん。貴方は人の心配をしてないで自分の心配をしてください」

リサ「あはは〜。確かにね。その件について出場を許してくれてありがとね☆」

千早「本当は出場しない方が身体のためにはいいのですが…。でも、あそこまで頼みこまれたら許可しないわけにはいきませんでした」

リサ「ありがと千早。絶対あたし頑張るから」

サクソンバードside

ランドール「5kmを過ぎたからそろそろ前を引くぞ！」

マルシエツト「無理はすんなよアルベルト！」

フォールド「キツかったらいつでも交代しますから！」

ランドール「了解！」

ランドールが先頭を引き始めて2km

ランドール「ん？やっぱり膝の調子がよくない…。でも交代が早すぎる。せめて後1km…」

ロイス「だから無理すんなど言ってるだろよ」

マルシエツト「俺たちが最後まで先頭引いてやるよ。お前は黙ってついてこい！」

ランドール「すまん…」

残り1km

フォールド「ぜえぜえ…後1kmなんでラストスパート行きますよ！」

ランドール「わかった！行くぞ！」

そして、サクソンバードがゴール地点を通過した。タイムは25分16秒で暫定1位。他のチームはこのタイムを基準にして走るのである。

その頃チームBang Dream!のメンバーはというと…

ライブ「今日のチームタイムトリアルは、こころと日菜が率先して先頭を走り、後のメンバーはそこそこの割合で先頭をローテーションしてくれ。後、リサは落車の影響もあって途中で離脱する予定だ」
友希那「わかったわ。リサ。貴方のためにも私達は、全力で頑張るわ」

紗夜「私も途中で離脱する予定なので、最初は私たちが全力でやりましょう」

リサ「オツケ〜。気合い入れて頑張るよー！」

有咲「私も途中で離脱する予定だから香澄を頼むぜ」

香澄「私は大丈夫だよー有咲ー」

有咲「お前の大丈夫は信用できねーよ」

香澄「そんなこと言わないでよ〜！」

有咲「馬鹿！抱きつくんじゃねー!!」

こころ「日菜！頑張りましたよ〜！」

日菜「そうだねこころちゃん！るん♪つとくることやっていこー！」

紗夜「全く日菜ったら…こんな感じで大丈夫なのかしら…」

現在コース場では、PTMとレイブニーストが走行していた。現在のトップは、ガード・サーヴァンの24分48秒だ。

レイブニーストside

カンチエレーラ「ハアハア…あの2人がタイムトリアルが苦手だとは知っていても、俺が1人でこの距離引くのはきついな…」

フランク「すまんなファビラス。お前のお陰でこうやって総合で互角の勝負ができるんだ」

アンディ「ぜえぜえ…ごめんねファビさん。後少し頑張ってたね」
カンチエレーラ「ハアハア…了解」

ガガー

監督「後5kmだが、トップタイムと遜色ないタイムで走っている。後もう少しの辛抱だ」

カンチエレーラ「ぜえぜえ…わかった!」

P T M s i d e

ルヴァンズ「ぜえぜえ…ぜえぜえ…エースが一番タイムトライアル得意ってどういうことやねん…どないなっとなねん…」

モロー「頼む!頑張ってくれ!」

バウアー「キンツアートさんを含めてみんな得意だけど、ルヴァンズさんよりは…」

キンツアート「いつでも交代するぞ」

ガガー

監督「一時的にキンツアートに交代してラスト3kmあたりからルヴァンズでいくぞ」

キンツアート「よっしゃ!任せとけ!」

ルヴァンズ「ぜえぜえ…ハアハア…しばらく任すわ…あーキツ…」
そして…

ガガー

ランス「お前ら。わかってるだろうが、此処で遅れることは許されんぞ。頑張れよ」

彩芽「始めは紗夜さん、リサさん、日菜さん、こころさんでローテーション。残り半分から残りのメンバーを含めてローテーションをお願いします」

ライブ「健闘を祈るぞ」

ブチツ

リサ「よっしゃ!紗夜!頑張ろうね!」

紗夜「ええ、頑張りますよ!」

日菜「おねーちゃんと一緒に頑張る!」

そしてスタート!

リサ「あたしが早速前が出るからね!」

日菜「じゃ、私がおねーちゃんの前!」

紗夜「わかったわ。日菜の後ろに入るわよ」

「こころ「私は紗夜の後ろね！」

有咲「私もモカちゃんとローテーションに入るぞ！」

モカ「オツケ〜有咲〜」

レイブナイーストside

カンチエレラ「ヤバ、パンクしたぞ。オーバーレイさん！後2kmは頼みます！」

オーバーレイ「よっしゃ！いくぜ!!」

カンチエレラがパンクで離脱してゴールラインへ

アンデイ「どうだったの？タイムは」

フランク「サーヴアンのタイムに4秒届かなかったが、良い順位で
いけたから大成功だな。ファビラスさんに感謝だな」

タイムは24分52秒。暫定の2位の記録であった。

PTMside

ルヴァンズ「うおー!!もう少してゴールだー!!」

キンツアート「俺らも必死でついていくぞー!!」

みんな「おー!!」

この時点でどちらのメンバーも5人しかゴールに入らなかったが、
これがほとんどの場合のチームタイムトライアルである。

PTMのタイムは、レイブナイーストと同じ24分52秒。

ルヴァンズ「ぜえぜえ…ハアハア…あーしんど」

キンツアート「ぜえぜえ…よく頑張ったよエース！俺らの不甲斐な
さをカバーしてくれるなんてな。これからは俺らが全力でバック
アップするからな！」

チームBang Dream!はスタートして3km

リサ「う〜もう無理…」

紗夜「今井さん。無理をしてはいけません！チームでいる以上私た
ちが請け負います！」

リサ「ごめんね〜紗夜…後は頼んだよ」

そう言ってリサはチームの列から離脱。残りは8人で先頭は日菜
に。

日菜「おねーちゃんのためにも頑張るよー」

有咲「私もいつちよやったるよ」

チームカースide

ライブ「やっぱりリサは、厳しかったか」

杏梨「それでもリサが頑張れるところまでやらせてあげたいわね」

美咲「そういえば、今回は距離が短いですけど補給はあるんですか？」

千聖「今回は補給は無いからみんな他の担当に回ってるって鈴音ちゃんが言ってたわ」

杏梨「月ちゃんやひなたちゃん、鈴音ちゃんは前倒しで料理担当に回っているわ」

美咲「なるほど。私たちはどうするんですか？」

ライブ「遅れたメンバーに何か言うだけだ。向こうは、ランスに任せているからな」

杏梨「あれはリサさんですね」

ライブ「リサ！肩の調子はどうか？」

リサ「いや〜これは参ったね〜。山ではどうかかわからないけどそれまでは全開でやるよ！」

ライブ「了解した」

15 km地点を通過して現在暫定3位のタイムでチームBang

Dream!は通過した。

紗夜「くっ…！そろそろ苦しくなってきたわ…後は任せます」

有咲「これ以上はきついな…香澄！頼むぞ！」

香澄「わかったよ有咲！」

友希那「紗夜達の努力を無駄にはしないわよ！」

ここで紗夜と有咲が離脱して残りは6人

日菜「まだまだやれちゃうよー♪」

友希那「そろそろ私達もローテーションし始めるわ」

香澄「どんどんいくよー！」

モカ「うう〜モカちゃんはもう苦しいかな〜」

蘭「モカ。もう少し頑張れない？」

モカ「ちよつと厳しいかも〜というわけで頼んだよ〜」
更にモカが離脱して5人となった

友希那「くっ…これで誰も遅れられなくなったわね…」

香澄「ハアハア…ちよつと苦しくなってきたよ〜」

日菜「まだまだいくよ〜！香澄ちゃんもしっかりついてきてね〜」

♪

ライブ「紗夜と有咲、モカが離脱したか…」

美咲「これはヤバイ展開では…」

千聖「あの子達を信じるしか無いわね」

杏梨「大丈夫よ。あの子達ならできるわ」

チームバス side

巴「もう5人しかいないのか」

あこ「おねーちゃん！友希那さんは大丈夫だよね!？」

燐子「あこちゃん…友希那を…信じるしか…ないよ…」

ほたる「後は追い風だから、苦しくなることはないはずだよ」

イヴ「うう〜ドキドキします〜」

残り1km

香澄「ぜえぜえ…もう苦しいよ〜」

蘭「ここで遅れるなんて、そんなの許さないよ」

蘭が香澄の背中を後ろに下がる際にグツと押し上げた。これで香

澄が少し前に飛び出る。

友希那「これなら戸山さんが落ちてくる時と同じくらいでゴールに

着くわね」

日菜「何の問題もないよ〜！」

こころ「私もよ〜！」

友希那「それじゃ、ラストスパート行くわよ!」

そしてようやくゴールを通過!

ライブ「お疲れ!どうだった調子は大丈夫だったか?」

香澄「もうしんどいよ〜。こんなに辛かった覚えがないよ〜」

友希那「ところで、タイムはどうだったの?」

蘭「タイムは…」

杏梨「24分53秒よ。暫定5位の好タイムだったわ！」
みんな「やった〜!!」

一方まだゴールしてない4人はというと…

リサ「お!?どうやら5位だったみたいだね」

紗夜「私たちが頑張った甲斐があったようです」

有咲「一時はどうなるかと思っただけだな」

モカ「それは私たちが一斉にいなくなったからだよね」

リサ「あはは〜その件は申し訳ないね」

こうして第2ステージの結果が発表された。

第2ステージ結果

- 1位 ガード・サーヴァン 24分48秒
- 2位 PTMレーシング +4秒
- 3位 レイブインイースト +4秒
- 4位 チームフライ +4秒
- 5位 チームBang Dream! +5秒
- 6位 ハイスピード・スペシヤル +5秒
- 7位 レディオブラック +10秒
- 8位 ネイダーバンク +12秒
- 9位 サクソンバード +28秒
- 10位 アクトベ +32秒

総合順位

- 1位 ルヴァンズ 5時間6分25秒
- 2位 氷川日菜 +1秒
- 3位 カンチェレーラ +2秒
- 4位 湊友希那 +3秒
- 5位 フースフォルト +16秒
- 6位 ミラー +16秒
- 7位 アンデイ・ドレイク +17秒
- 8位 フランク・ドレイク +17秒
- 9位 美竹蘭 +17秒

10位 戸山香澄 +17秒

75位 ランドール +1分52秒

最下位 今井リサ +35分10秒

総合首位

ルヴァンズ

ポイント賞

ジルヴェール

山岳賞

ジルヴェール

新人賞

氷川日菜

ライプ「お、日菜がもう少しでマイヨ・ジョーヌを着用できるぞ！
しかも3人ともトップ10に入っているしな」

友希那「取り敢えずは順調な滑り出しね」

こころ「私もほぼ同じ順位にいるわよ！」

日菜「あはは！るん♪とくる展開だね！」

レースが終わってメンバーはレース後のケアのためのマッサージ
へ

香澄「ああ、生き返る〜」

鈴音「だいぶ肩が凝ってますね。でも、これくらいなら明日には回
復しますよ」

友希那「ちよつと杏梨さん。変な声出さないで…」

杏梨「え〜。もう、友希那さんたらつれないんだから♡」

ゆきな「みんなのアイドルゆきなが癒していきますよー」

日菜「ゆきなちゃん。何だかるん♪つてくるなー」

その夜、作戦会議のために食堂にメンバーが集合した。

ランス「よつしや！明日の第3ステージに対する作戦会議をするぞ
！」

ライプ「明日はオロンヌシユルメール〜ルドンまでの19.8kmの平
坦ステージだ」

有咲「確か山岳が1つあるはずだよな？それはどうするんだ？」

彩芽「今回の山岳は4級山岳ですので、1ポイントしか獲得できませんので、無視する予定にしています」

リサ「それじゃ、第1ステージと同じと考えていいんだね」

紗夜「恐らくそうなるでしょうね」

ライブ「スプリントを狙うならば。こころで行く予定にしている。

日菜からのリードアウトで発射するぞ」

日菜「やった〜！頑張ろうねこころちゃん！」

こころ「私もわくわくしているわ！」

ライブ「よし、これで作戦会議は終了だ。後は、各自部屋に戻って休んでくれよ。練習は多少ならいいが、あまりうるさくしないでくれよ」

みんな「はい！（わかりました）」

そして、いつものように彼女達は部屋に戻っていった。

彩芽「今回のチームタイムトライアルは何とか切り抜けましたが、問題はリサさんですね」

ライブ「確かにな…」

ランス「おめーら、何言ってるんだよ。俺はあいつが諦めるまでやらせるつもりだぜ」

ライブ「なるほど、お前らしい答えだな。現役の頃から諦めが悪かったもんな」

ランス「おい！なんでそんな話になるんだよ！」

ライブ「諦め悪いのは本当だよ」

彩芽「2人とも！争うのはやめてください！」

2人「すまない…」

彩芽「それでは、やれるとこまでやらせる方針でいきましょう」

無事にチームタイムトライアルを超えたメンバー達。果たしてここから何が起こるのか!?

第3ステージ ―友に捧ぐ勝利―

7月4日 フランス オロンヌルシユルメール

チームタイムトライアルから一夜明けた翌日の第3ステージ。スタート地点には選手たちが続々と集まっている。

オメガ組

ジルヴェール「今日のステージはグレイラルに任せるぜ。俺はアシストに転じるからな」

グレイラル「ウホッ!?ウホホ！（マジで!?任せろ!）」

ルールストン「俺が発射台を務めてやる!」

グレイラル「ウホッホ！（マジ感謝!）」

キャノンside

マツサ「はあくモカちゃんに会いたくないな」

モカ「あたしに会いたかつたんですか?」

マツサ「あれ!?モカちゃん!?どうしてここに!」

モカ「蘭から以前聞いてたので」

蘭「ちよ、それは言わなくていいよ!」

マツサ「ハハッやつぱりモカちゃんは面白いね!」

蘭「マツサさんも笑わないでください!」

レイヴンside

フォラント「今回も俺らはやることがないな。ん?あの兄弟はどこいった?」

フルランド「燐子さんと沙綾さんに会いに行きましたよ」

フォラント「全くあのバカ兄弟は…」

そして、彼女達は…

紗夜「今回も平坦ステージだから、私達は集団ゴールをするだけですね」

友希那「ええ。あとは弦巻さんと日菜に任せるだけね」

有咲「私も香澄を抑える仕事を少し減らせるからから楽だな」

香澄「もー!すぐ有咲は私をお荷物呼ばわりするね!」

有咲「それは本当のことじゃねーか!!」

ランドール「リサはいるかい？」

リサ「あ、アルベルトじゃん！怪我の具合はどうなの？」

ランドール「俺は少し痛むくらいで問題ないよ。むしろリサは大丈夫か？」

リサ「ん〜。五分五分つてとこかなあ…」

ランドール「そうか、無理するなよ」

リサ「そりゃ、もちろん☆」

ランドール「じゃ、俺は戻るよ。お互い頑張ろうな」

リサ「オツケー、頑張ろうね！」

紗夜「相変わらずアルベルトさんはリサさんの所に来ますね」

友希那「案外前に紗夜が言っていたことは本当かもしれないわね…」

チームバス side

ほたる「今日も天候に問題はなさそうだね。あ、トムヤンクンヌードルが食べたくなって来た」

メイ「彩芽さんに通報しますよ」

ほたる「ふにく!!」

千早「やつぱりあの子達は元気ね…。外に出て空気でも吸いに行きましようか…」

千早「ふう…リサさんは…」

???「リサの怪我はやつぱり尋常じゃないみたいだね」

千早「ん？あなたは？」

???「なあに、ただのツール観戦者さ」

千早「ただの観戦者がリサさんの怪我を見抜けるとは思えませんが」

???「そうかな？純粹に彼女は鎖骨を骨折していると思っただけだよ」

千早「!?やはり只者じゃないですね」

???「そんなに怖い顔をしないでくれないかな？千早さん」

千早「私の名前を知っているのですか？」

???「君たちのチームの名前は1人たりとも漏らしてないよ。そう

だ。君に言っておくことがあるんだ」

千早「なんですか？」

???「今井リサよりも氷川日菜の調子を気にした方がいいよ。あの性格と感性はこのツールの期間で必ずリタイアの原因になるからね。それと、ランスさんにはあまり近付きすぎない方がいいよ。彼は何かを隠してる」

千早「それはどういう！」

???「僕から言えることはこれくらいさ。それじゃ」

千早「ちよつと、あなたの名前は!？」

???「冬子ってだけ教えておくよ」

千早「冬子って…まさか…」

スタート地点からパレード走行がスタート

ルヴァンズ「さて、今日も走るか！」

モロー「くれぐれもアクシデントに巻き込まれないようにな」

ルヴァンズ「んなことわかつちよるで」

バウアー「俺らも最大限エースを守るぞ！」

10分後、レース開始の旗が振られてスタート!

チームカー side

ライブ「今日もいつも通り逃げに飛び出してるな」

千聖「逃げが逃げ切ることってどれくらいあるんですか？」

杏梨「あっても2割あるかないかしらね。ほとんどが運次第よ」

美咲「うちは逃げに行かないんですか？」

ライブ「今回ばかりはその余裕がないが…ん？」

ランス「こころのやつ!飛び出したな!？」

逃げにのつたのは6人。その中にはこころも含まれていた。

こころ「こんな楽しいことやめられないわ!」

バイロン「は!?!こいつがいたら逃げが成立しないぜ!」

デッドリー「余計なことしてくれたな…」

彩芽「こころはトップとほとんどタイム差がありません。これを集

団が容認するわけないわ」

沙綾「それはつまり…」

ランス「集団が死にもぐるいで追いかけてくんど」

彩「やっぱり自分の立場とかを把握しないと大変なんですね」

彩芽「やっぱり集団が逃げを追いかけ始めたましたね」

スタートして5kmで逃げは集団に吸収された。

日菜「いいなー。私もこころんみたいなるん♪とすることしたいよ」

リサ「いやいや、日菜が逃げても追いつかれちゃうから」

紗夜「日菜はもう少し今の立場を理解しなさい」

日菜「ちえ」

その後再び集団から数人が逃げて逃げグループが形成されていくサクソンバードside

フォールド「ランドールさん。膝はどうですか？」

ランドール「とりあえず、問題ないな。今日は何もしくていいしな」

ロイス「山岳までには調子を戻しといてくれよ」

ランドール「わかっているさ。リサは大丈夫かな」

マルシエツト「またリサの心配か？好きならアプローチしろよ」

ランドール「なんでそうなるんだよ！」

ハハハ

スタートから9.2kmの補給地点では：

鈴音「逃げとメイン集団の差が8分半に拡大しましたね」

巴「いつかアタシも出てみたいなく」

たえ「他の大会からまずは行くしかないね」

イヴ「私もブシドー精神で精進しないといけませんね！」

りみ「みんなすごい気合いだね」

50km地点

ルヴァンズ「なんか暑いで。なんやねんまったく」

ウイリアムズ「お前はそんなことで根を上げるやつなのか」

ルヴァンズ「な!?ウイリアムズ!なんでお前ここにおんねん!」

ウイリアムズ「いちやわりーのかよ」

キーナン「わしもいるぞ」

ルヴァンズ「お、キーナンやんか。わいに何か用か？」

ウィリアムズ「とにかく暇なんだよ。話してねーとつまんねーよ」
キーナン「右に同じくだ」

ルヴァンズ「せやなく。暑いし暇やで」

トーラス「ちよつとウィリアムズさん。そろそろ戻ってきてください！」

ウィリアムズ「わーったよ。じゃあな」

キーナン「じゃわしも戻るわ」

ルヴァンズ「また暇になってもうたで」

モロー「そんなこと言ってないで集中してくれよ」

ルヴァンズ「んなことわかつちよるで」

B a n G D r e a m ! s i d e

友希那「ここまで何事もないわね」

リサ「何もないことが1番だよ」

蘭「私もそう思います」

紗夜「私たちは練習通りやるだけです」

モカ「そういうえば、リサさんはアルベルトさんのことどう思ってるんですか？」

リサ「えっ!?ちよつとそれは…」

友希那「まさか言えないの？」

リサ「んく言えないというか、ちよつとわからないんだよね」
この話が暫く続いた

そして92km地点

巴「お、きたぞ！受け取れ蘭！」

蘭「ありがと巴」

イヴ「有咲さん！香澄さん！」

有咲「サンキュー！」

香澄「イヴちゃんありがとー！」

たえ「日菜さん！」

日菜「ありがとねー！はい、おねーちゃん」

紗夜「ありがと日菜」

チームカースide

ライブ「そろそろ中間スプリント地点だな」

千聖「私達はどうするんですか？」

杏梨「動くつもりはないけど、日菜ちゃんがどうするかね…」

中間スプリント地点まであと2km

ジルヴェール「よっしゃ！ルールストーン!!行くぞー！」

ルールストーン「こっちはいつでも引き継げるぞー！」

テイルステラ「キーンナンさん！頼みますよ！」

キーンナン「わしもまだまだやれるってどこ見せるぞー！」

アイゼン「残念だけどうちがもらってくぜ」

シヨーマー「いつでもオーケーっすよ！」

アル「いつでも勝つよ」

ジルヴェール「クイックウォーリアとハイスピードもお揃いかよ」

フースフォルト「そうはさせん！」

ゴン

アル「頭突きをしてくるならこっちもやるぞー!!」

ゴンゴン!!

ルールストーン「今のうちに発射！」

フースフォルトとアルディッシュが頭突きをし合っている合間を

ついて、オメガはグレイラルを発射させた

グレイラル「ウホーー!!! (うおーー!!!)」

キーンナン「わしもいくぞー!!」

ゴールラインを最初に通過したのはグレイラルだった

グレイラル「ウツホ！（よっしゃ!）」

キーンナン「いやーさすがだねー」

シヨーマー「ちよつとアルさん。頭突きは減点対象なんですからや

めてくださいよ」

アル「ごめんな」

フースフォルト「すまんなアル」

アル「こっちこそやり返して悪いな」

残り10km地点 逃げ集団は吸収

チームカー&チームバス side

彩芽「監督。この後の展開をほたるに連絡してみます」

ランス「おう。そうしてくれ」

ブーブー

ほたる「彩芽先輩どうしました？ここから先の地形から位置取りを考えたい：？。了解です。あこさん。ここから先はどんな地形？」

あこ「えーつと：なんかグアングアンしてドガガンってなってます」

ほたる「ごめん燐子先輩。解説を」

燐子「多分：アツプダウンが激しくて：コーナーが：危険だつて：言っているんだと：思います」

あこ「流石りんりん！」

メイ「ならば、落車回避のために前方待機がいいですね」

ほたる「メイちゃんが言うなら。彩芽さん。ここから先は難しい地形になっています。なので落車回避のために前方待機をお願いします」

彩芽「わかったわ。監督。前方待機をお願いします」

ランス「おうよ。お前達！集団前方待機だ！」

集団内

リサ「ランスさんから前方待機の指示が来たよ」

モカ「それじゃあ私たちが蘭達を引っ張っていきますか」

有咲「よし。香澄！いくぞ！」

香澄「わかったよ有咲！」

ガード・サーヴァン side

フースフォルト「今回は頼むぞカヴァー」

カヴァー「ああ。あいつのためにも勝たないとな」

アストラナバス「あいつ？」

カヴァー「お前は知らないのか。なら話しておいた方がいいかもな」

回想

それは同年のジロ・デ・イタリアの第3ステージのことだった。

カヴァー「あー登りを終えたからあとは下りだけだな
ガガー

監督「下りで落車だ。落車したのはウエンライドだ」
カヴァー「は？今なんて？」

監督「落車したのはウエンライドだ」

カヴァー「うそだろ…」
落車地点

カヴァー「は？救急車？まさかウエンライドのやつ！
ガガー

監督「ウエンライドは命の危険があるそうさ。今から緊急搬送される」

カヴァー「おいおい冗談はよしてくれよ…。あいつが危険だった？」

あの時、山の下りを行っていたウエンライドはペダルを引つ掛け壁に突っ込んで落車した。その時に打ち所が悪くてウエンライドはその日に死亡した。

カヴァー「俺はあいつとは親友だったんだ。だからこそ、あいつのために勝利をプレゼントしないとイケないんだよ」

アストラ「なるほど…。なら僕たちがやることはカヴァーさんをアシストすることだけですわね！」

フースフォルト「ウエンライドのためにも勝たないとな！」
カヴァー「おう！負けるつもりはさらさらないぜ！」

残り1 km

紗夜「いよいよですね。日菜。思いっきりやって来なさい」

日菜「ありがと！おねーちゃん！」

こころ「いくわよ日菜！」

リサ「行っちゃったね」

友希那「リサ！危ない!!」

リサ「え!?!」

残り800 mのコーナーで落車発生！

リサ「あー焦った！ありがと友希那！」

友希那「そ、そんな。当たり前のことと言っただけだし…」
リサ「もー少しくらい素直になつたら？」

友希那「わかつたわよ…」
残り500m。先頭はガード・サーヴァンのフースフォルト。その後ろにカヴァアーが付いている。

フースフォルト「あとは頼んだぞカヴァアー！ウエンライドのためにもな!!」

カヴァアー「いくぜー！」

ファルジャン「させるかー！！」

ホーキンス「うおー！！」

日菜「あははく！」

アル「くそーもう無理だー」

カヴァアーが大きく抜ける。ファルジャンらが必死に追いかけるもカヴァアーが第3ステージのゴールラインを駆け抜けた！

カヴァアー「よっしゃー！やったぞー！おい、ウエンライド！見てるか！お前に捧げる勝利だ!!」

そう言うとカヴァアーはウエンライドの頭文字であるWを指で作ってカメラに見せた。

フースフォルト「やったなカヴァアー！」

カヴァアー「君たちの助けなしじゃ勝てなかったよ！ありがとな！」

アストラ「あの話を聞かされたらさらに頑張れましたよ。これで天国のウエンライドさんも喜びますね」

カヴァアー「ああ。あいつも喜んでくれてるはずだ…」

カヴァアーはそう言って空をしばらく見上げていたのであった…。

一方彼女達は…

日菜「うーん。やっぱり勝つことはできなかつたね」

紗夜「でもあなたはよく頑張つたわ」

こころ「そうよ日菜！なんたって4位なんだから！」

香澄「日菜さんおめでとうございますー！」

蘭「おめでとうございます。日菜先輩」

友希那「日菜。おめでとう」

日菜「みんなありがと。なんだかるんっ♪てくるな」
モカ「今ようやく着きましたよ」

有咲「とりあえず同タイムでよかった…」

リサ「でも有咲。落車は3km以内だから、私達も同タイムだよ」

有咲「あ、忘れてました」

香澄「有咲ったらおっちよこちよいなんだから」

有咲「うるせーな！忘れてただけだろ！」

アハハハハ

第3ステージ結果

1位カヴァー 4時間40分21秒

2位ファルジャン +0秒以下同タイム

3位ホーキンス

4位氷川日菜

5位イノー

6位アルディツシュ

7位弦巻こころ

8位フースフォルト

9位ブノワイエ

10位グレイラル

総合首位

ルヴァンス

ポイント賞

氷川日菜

山岳賞

ジルヴェール

新人賞

氷川日菜

ランス「よし！とりあえずマイヨ・ヴェールを奪ったか！」

彩「あの緑のジャージのことですか？」

彩芽「ええ。他にも山岳賞はマイヨ・ブラン・ア・ポワルージュ。新

人賞はマイヨ・ブランって名前がついてるのよ」

花音「ふええー。覚えるものが多いです」

レース後

千早「まだまだ完治には時間がかかりますね」

リサ「ありがとね千早。実は話があるんだけど…」

千早「…わかりました。私の方からランスさんに話しておきます」

リサ「ありがと。とても自分では言いづらくて…。友希那を支えてあげたいし…」

千早「こんなことこの世界じゃ当たり前のことをなのよ」

リサ「…」

千早「でも、あなたが友希那さんを支えてあげたい気持ちは考慮するし、私も同じことを思っていたことがある。だから何も言わないわ。自分がやれるところまでやったらいい」

リサ「千早…。本当にありがと…」

ガード・サーヴァン side

ガヤガヤ

フースフォルト「あれ？カヴァーはどこだ？」

ダニエル「なんか外に涼みに行きましたよ」

アストラ「僕行つてきます」

フースフォルト「俺も行くぞ」

ホテルの外

カヴァー「なあ…ウエン。未だにお前が死んだことを俺は信じられないよ…。だけど、お前のためにも今日は勝ったんだ。あの世で喜んでくれよ…」

フースフォルト「なーにしみじみしちゃってんだよ」

カヴァー「おお…トルたちか」

アストラ「そんなに寂しそうな顔してたら、せつかくの勝利も味気なくなっちゃいますよ」

フースフォルト「ウエンライドも望んじやないぜ」

カヴァー「わかつてるさ。だからあいつに別れを言いたかったんだよ」

フースフォルト「そうか。よし戻るぞ」

アストラ「はい！」

カヴァー「…じゃあなウエン。本当にお別れだ…」

チームBang Dream!のホテルではいつも通り作戦会議のために食堂に集まった。

ライブ「よし。明日のコースの作戦会議を始める」

彩芽「あれ、監督は？」

ライブ「ああ、女子にナンパしてたからしばいといた」

紗夜「あの人は何してるんですか…」

友希那「私たちがを誘った時の文言でそれは知ってたわ」

ライブ「明日は、ロリアンくミユール・ドウ・ブルターニユまでの172.5kmだ。特にミユール・ドウ・ブルターニユは急勾配の坂だから友希那たちリーダーの正念場の1つだ。遅れることなく頑張れよ」

香澄「てことは、勝ちに行つていいんですね！」

彩芽「もちろん。本領発揮のタイミングですよ」

蘭「いよいよやれるんだね…」

モカ「おお！蘭が燃えている！」

ひまり「こんな蘭初めて見たよ…」

リサ「じゃあ、あたしたちは全力でアシストしないとね！」

みんな「おおー!!」

ライブ「よし。以上だ！解散！」

ライブがコールすると彼女たちは部屋に戻って行った。

ライブ「明日は最初の正念場だな」

冬子「そこで根を上げられたら僕の予想を裏切ることになるからやめてくれよ」

彩芽「誰ですか!？」

ライブ「お前…冬子か!？」

冬子「フツ…覚えていたんだね」

ライブ「お前のことを忘れるわけないだろ！」

彩芽「あの…リーヴァイさん。この人は一体？」

ライブ「ああ、こいつの名前は朽木冬子。俺たちが以前いたチーム

で俺達のマネージャーを務めていたんだよ。今はどうしてるか知らなかったんだが」

冬子「今はただのツール観戦者さ。もちろん、君たちに注目してるんだよ」

彩芽「それは光栄です」

冬子「でも忠告しておくよ。氷川日菜と弦巻こころの扱いには気を付けてってね」

ライブ「おい、それはどういう！」

冬子「それはリーヴアイさんが考えたらしいよ。彩芽さんなら答えがわかりそうだけどね」

そう言って冬子はホテルから去っていった。

ライブ「彩芽はわかるのか？」

彩芽「ええ、憶測の領域ですが…」

ライブ「なんだそれは」

彩芽「それは…」

ホテルの外

冬子「ふう…」

ランス「冬子か!？」

冬子「?ああ…ランスさんか」

ランス「何しに来たんだよお前」

冬子「さあ、何しに来たんだろうね」

ランス「邪魔だけはすんじゃねーぞ」

冬子「邪魔だなんて失礼だね。君達には期待してるんだからそんなことしないよ。ランスさんの秘密のこと以外はね…」

ランス「あ!?!お前何言って!」

冬子「それじゃ、明日も頑張って」

ランス「……」

明日の正念場を彼女達は乗り越えられるのか!?
そして、朽木冬子は何を目的にしているのか!?

次回へ続く

第4ステージ ― 試練の壁 ―

7月5日 フランス ロリアンにて

レース前のスタート地点には続々と選手が集まって来ている。しかし、ある2チームはスタート地点にまだ来ていなかった。

フォールド「アルベルトさん。膝の調子はどうなんですか？」

ランドール「今日の戦いで膝の調子がわかると思うが、それにはチームの力が必要なんだ」

ロイス「そんなことはわかってる。膝の調子が悪くとも本格的な山岳までに元に戻っていたらいいんだからよ」

ランドール「すまないな。こんなことになっちゃって」

ニキ「謝ってる暇があつたら行動で示してくれよ。ほら、行くぞ」

メンバー「おう！」

そして…

ランス「今日のブルターニュの壁で日菜にマイヨ・ジョーヌを着させるぞ！」

ライプ「そのためにはアシストが必要だ。こころと沙夜には日菜のアシストとして今日は仕事をしてもらうぞ」

紗夜「ええ、日菜のためにも頑張ります」

こころ「もちろん頑張るわよ！」

友希那「私達のチームが頂点へと登り詰める第一歩にするわよ！」
みんな「おー！」

スタート地点にサクソンバードとチームBang Dream!

がやってきたことで全てのチームがスタート地点に揃った。

ルヴァンズ「ほんなら、いよいよエンジンかけて行くぞ！」

モロー「マイヨ・ジョーヌ死守のためにも頑張るぜ」

バウアー「やってやろうぜ！」

アンディ「みんなやる気に満ち溢れてるね」

フランク「そろそろ本腰を入れないとな」

フォラント「始めから入れててくれよ…」

ジルヴェール「今日はタレないジルヴェール様向きのステージだな。悪いがステージ優勝はもらってくぜ」

フースフォルト「そうはさせないからな」

ジルヴェール「お？こりや面白くなりそうだぜ」

各チームの思惑が交錯する中、パレード走行がスタートした。

チームカー side

ライブ「今日のステージを考えたら、中間スプリントに日菜を参加させることは難しいな」

美咲「え？参加させないんですか？」

千聖「よく考えてみて美咲ちゃん。スプリントに参加して最後まで残る脚はあると思う？」

美咲「た、確かに苦しい…。でも、日菜さんなら…」

杏梨「そんなことしたら後々に響くわよ。だからこそ今はこの程度に抑えてマイヨ・ジョーヌを奪いに行くのよ」

ライブ「杏梨の言う通りだ」

チームバスでは…

メイ「現在の時点で風向きは向かい風。集団が分裂するほどの強さではありません」

あこ「最後の所でババーンとやるんだよね！」

麻弥「ううう！間近で見たかったっす！」

千早「我慢してください麻弥さん。役割がある以上仕方ありません」

燐子「でも…大和さんの…言いたいことは…私も同感です…。やっぱり一度は…生で…見たいです」

ほたる「映像で観てるんだからいいじゃん。仕事もあるし」

麻弥「あれ？皆さん！これみてください！」

ほたる「ふに？どうしたの？」

麻弥「この風向きとレーダーを見ると、レースがスタートして5分から10分くらいで雨が降ってくるっすよ！」

メイ「私の方でも天候の変化が発見できました」

あこ「早く報告しないと！」

燐子「あこちゃん…落ち着いて…」

ほたる「彩芽さん。レースが始まって5分から10分後に雨が降ってくるので、チームカーにレインコートの準備をお願いします」

彩芽『分かったわ』

メイ「大和さんのお手柄です」

麻弥「いやいや自分はレーダーに映っていたのを報告しただけですよ」

パレード走行が始まって10km

コースディレクターの旗振りのもと、本格的にレースがスタート！スタートから10人近い人数が逃げを打って集団を形成していった。

一方メイン集団では…

友希那「思ったよりみんなピリピリしてないのね」

リサ「そりやまだ始まったばかりなのに友希那みたいにピリピリしてたら疲れるよ」

ランドール「よお、リサ」

リサ「お、アルベルトじゃん？。今日はどうしたの？」

フォールド「今日は僕もいますよ」

リサ「ん？リッチーもいたの？」

フォールド「そんなに僕の影は薄いんですか？そんなことより湊さん。こんな所で集中力を使う必要はないですよ。いざという時にだけってというのがほとんどですからね。もちろん落車には気をつけなといけませんけど」

友希那「…そうね。どうやら考えが硬くなっていたみたい」

リサ「アルベルト、リッチー。友希那にアドバイスしてくれてあげがとね☆」

ランドール「いやいや。お互い敵同士とはいえ、同じ集団にいる仲間だからな」

フォールド「僕もそう思ってます。それではまた後で」

2人はそう言ってチームのもとに戻っていった。

紗夜「アルベルトさんはやはりいい人ですね」

友希那「リサに気があることも関係してそうね…」

リサ「それとこれとは別でしょー!」

ガガー

ランス「メンバー全員に報告だ。後五分で雨が降ってくる。十分注意して走行しろ。レインコートが必要なやつはリーヴアイに言ってくれ」

紗夜「リーヴアイさん。私と日菜は使うのでお願いします」

友希那「私とリサもお願い」

蘭「むしろ香澄とこころはいらないうって言ってたから、他のメンバー全員にください」

ライブ「わかった。チームカーに取りに来てくれ」

香澄とこころを除いた全員がレインコートを着用して暫くして雨が降り始めた。

ルヴァンズ「なんや、今日は雨かいな。なんちゅー展開や」

バウアー「落車だけはしないでくれよ」

ウィリアムズ「俺的には有利になるから転んでくれた方がいいんだかな」

ルヴァンズ「そないなこと言うから嫌われるやで」

ウィリアムズ「そんなに人に好かれても意味ねーよ」

ジルヴェール「お前がそんなこと言ったからか後ろで落車が起きたらしいぞ」

ルヴァンズ「なんやて!?!」

ウィリアムズ「相変わらず反応が大げさだぜ」

スタートして37km地点で集団落車が発生!

落車 side

リサ「いったく。友希那は大丈夫?」

友希那「ええ、私は問題ないわ」

香澄「あちやー。転んじやったよ」

友希那「戸山さんは随分元氣そうね」

ガガー

ライブ「みんな怪我はないか!？」

リサ「なんとか大丈夫だよ☆」

友希那「私もよ」

香澄「問題無しです」

ライブ「それは良かった。早速オメガ・ファクトリーの選手が落車の怪我でリタイアした。注意しろよ」

友希那「早くもリタイアが出てしまったのね…」

リサ「とりあえず早く集団に戻ろう!」

香澄「急ぎましょう!」

落車したことでメイン集団と約1分の差ができていたが、メイン集団はペースを緩めたため落車集団はメイン集団に戻って来た。

チームカーでは…

彩「あれは落車した人達を集団が待っていたんですか?」

彩芽「その通りよ。ロードレースの世界では、『落車した中に有力な選手がいたらペースを落として待たなければならぬ』という紳士協定が存在するの。もちろんルールではないから待つ必要はないのだけど、観客のブーイングを浴びるのは必至よ」

紗綾「他にも紳士協定は存在するんですか?」

ランス「幾つか存在するが、後々説明した方がいいかもな」

彩「そういうものも守りながらレースをするのは大変ですね…」

メイン集団が70 kmを通過した時、逃げ集団との差は5分弱まで拡大していた。

一方補給区域となっている93 km地点では…

りみ「雨が止んで来ましたね」

鈴音「もしかしたらレインコートの回収もすることになりそうですね」

巴「しかし、中間スプリント地点から500 mしかないから熱気がこっちにも伝わって来そうだな!」

イヴ「間近で見に行きたいです…」

たえ「飲み物の準備ができましたよ」

メイン集団

紗夜「湊さんも今井さんも怪我はありませんか？」

リサ「かすり傷の部分はメディカルカーのはぐみと薫に治してもらったから大丈夫だよ」

友希那「私は特に問題なしだったから治療もしてないわ」

有咲「香澄。大丈夫か？」

香澄「全然大丈夫だよ！有咲は心配してくれてるんだねー！」

有咲「やめろくつつくな!!」

モカ「私も蘭とくつつきたいな」

蘭「よくそんなこと普通に言えるね…」

ランドール「リサは無事か!？」

リサ「あれ!?アルベルトがなんでいるの!？」

紗夜「今井さんのことが気になって仕方ないんですね」

日菜「るるるんする関係になってきてるね！」

リサ「もーそんなんじゃないって!」

ランドール「大丈夫そうだから俺は帰るわ」

香澄「あ、行っちゃった」

有咲「あれは完全に逃げたな」

メイン集団が中間スプリントまで残り1kmを切った。

こころ「みんなやる気なさそうね」

日菜「なんだ面白くないな」

紗夜「こういうこともあるわよ」

キーナン「わしはやりたいんだけどな」

モカ「キーナンさんがなんでここに？」

キーナン「わしらのチームはお前達の隣だからな。耳に入ってきたから参加しただけだよ」

有咲「じゃ今日は何もなしってことか？」

キーナン「そうなるだろうな」

キーナンの言う通りスプリントをすることなくガード・サーヴァンのカヴァーを先頭に通過していった。この時点で逃げ集団とは3分半に縮めていた。

そして補給地点にメイン集団が到達

巴「蘭ー！モカーー！がんばれよー！」

たえ「香澄ー！」

りみ「有咲ちゃんも頑張つてー！」

リサ「レインコートの回収お願い！」

鈴音「私が引き受けます！」

イヴ「日菜さん！みなさん頑張ってください！」

つぐみ「沙夜さん！」

紗夜「羽沢さん！ありがとうございます！」

たえ「いっちゃった…」

巴「てか、スプリントやんなかったな…」

イヴ「次に期待しましょう…」

残り5kmの地点で逃げ集団は吸収。ここから本格的な戦いの準備が始まっていく。

P T M s i d e

ルヴァンズ「あれ？んなアホな!？」

モロー「どうした！」

ルヴァンズ「こんなところでパンクとか無いで！」

バウアー「とりあえず止まってバイク交換だ！」

マイヨ・ジョーヌのルヴァンズがパンクでストップしたが、戦いの準備に入っているメイン集団はルヴァンズを待つことはなかった。

ルヴァンズ「誰かタイヤくれ！」

バウアー「むしろ俺のバイクに乗れ！その方がタイムロスが少なく済む！」

ルヴァンズ「すまん！お前の苦労は無駄にせんで！」

バウアーからバイクを受け取ってルヴァンズはメイン集団をチームメイトと共に追いかける！

なおバウアーはバイクをルヴァンズに渡したため後退していった。そしてメイン集団はまもなく「ブルターニュの壁」と言われるミュール・ドウ・ブルターニュに突入していく。

残り4km

先頭を引っ張るのはレイブニーーストのカンチエレーラ。ルヴァ

ンズは30秒後方に位置している。

アンデイ「ファビラスさん！どンドン飛ばしてください！」

フランク「俺たちはまだまだペースアップしてもいけるぞ！」

カンチエ「了解！」

ジルヴェール「カンチエの野郎く！やってくれるじゃねーか！」

フースフォルト「登りには多少対応できる！ここを凌げばマイヨ・

ジョーヌも！」

友希那「結構ペースが上がってるわね」

紗夜「でもまだまだ余裕があります！」

リサ「あたしはもう下がるよ」

ガガー

ライプ「後方の落車で日菜とこころが集団から分裂した！今10秒後方にいるぞ！」

有咲「げ！マジかよ！」

香澄「有咲ー！どうする!？」

有咲「いくしかねーだろ！」

モカ「モカちゃんは2人の救助に行ってください！」

蘭「分かった。こっちは任せといて」

落車組 side

日菜「んーついてないなー」

こころ「そんな顔してちゃダメよ日菜！笑顔で行きましょう！」

日菜「うん、そうだね！転んだわけじゃ無いからね！」

ルヴァンズ「ワイらも協力するで！」

モロー「もちろんそうするつもりだぜ！」

残り2 km

遂にミュール・ドウ・ブルターニュに突入！

香澄「うわく。すごい登りだね！」

有咲「悠長に言ってる場合か！」

アンデイ「今マイヨ・ジョーヌはファビラスさんです！一旦下がりましょう！」

カンチエ「そうか。じゃついてくだけにするか」

友希那「そうはさせないわ！」

登りに入つてすぐに友希那がアタック！

フランク「そうはさせん！」

ジルヴェール「タレてたまるかー！」

フースフォルト「くそ！離される！」

友希那のアタックで集団から何人かの選手は遅れていった。

友希那「どうやら離せなそうね。一旦ここで緩めましょう」

ランドール「…」

アンデイ「あれ？後ろからオーラが…」

友希那がペースを下げたと同時にランドールがカウンターアタックを開始！

クを開始！

ジルヴェール「おいおいマジかよ！勘弁してくれ！」

紗夜「まだまだいけます！」

香澄「うくもう苦しいよー」

有咲「引っ張ってやるから頑張れ！」

蘭「よし！あたしの調子はいい！これなら！」

このアタックで集団は20人程に

ガガー

監督「アルベルト。アンデイが遅れたぞ！スパートをかけて突き放せ！」

ランドール「了解した！」

先頭集団を引っ張っているのはランドール。2番目にフランク。

そこから友希那、紗夜、蘭、ジルヴェール、フースフォルト、カンチエ

レーラ、ウィリアムズと続いて残り1kmを通過！

フースフォルト「これ以上は厳しいな…」

カンチエ「ここでトドメを刺しにいけどー！」

ここでカンチエレーラがアタック！

ジルヴェール「第1ステージと同じ展開になったから俺の勝ちだ
！」

友希那「まだペースが上がるのね！」

紗夜「ここで遅れるわけにはいきません！」

蘭「まだいけます！」

残り500m

先頭はカンチエレーラ。すぐ後ろにジルヴェールと紗夜。友希那と蘭、ランドールと続く。

ランドール「よし！」

ランドールのスプリントを皮切りにスプリント合戦がスタート！

フースフォルト「もう無理だ！」

カンチエ「とりあえず後ろに着くぞ！」

友希那「これならいける！」

紗夜「私も！」

友希那と紗夜がランドールに並びかける！

そしてそのままゴールラインを3人同時に通過！！

ランドール「よし！もらった！」

ランドールは左手を突き上げた。

友希那「ハアハア：届かなかったかしら…」

紗夜「それは映像を見てみないとなんとも言えません…」

ガガ

ランス「お疲れ！いいスプリントだったな！もしかしたら勝てるぞ！」

先頭集団がゴールしてから3秒差でルヴァンズと香澄、有咲と日菜がゴール。アンディは8秒遅れてゴールした。

レース終了直後

ランスとリーヴァイは、チームバスで結果を待っていた。

ランス「やっぱり僅差だったからなかなか結果が出ねーな」

ライブ「焦ってもいいことは無いぞ」

ランス「そう言ってもそわそわするだろよ」

彩芽「監督！リーヴァイさん！」

ライブ「結果が出たのか!？」

彩芽「はい！早くしてください！」

結果の電光掲示板を3人は見る。そこには…

STAGE 4 Result

Winner:

YUKINA MINATO

と記されていた。

ランス「よ、よっしゃー!!」

ライブ「よかったな! 友希那が勝ったぞ!」

彩芽「おめでとうございます監督! リーヴァイさん!」

ランス「これもみんなが力を合わせた結果だぜ!」

彩芽「そ、そんな恥ずかしいこと言わないでください!」

第4ステージ結果

1位 湊友希那 4時間11分39秒

2位 ランドール +0秒以下同タイム

3位 氷川紗夜

4位 ヴィヴァーニ

5位 グラフ

6位 ジルヴェール

7位 フースフォルト

8位 カンチエレーラ

9位 サンチエス

10位 ザイーデン

13位 美竹蘭

27位 ルヴァンス +3秒

28位 戸山香澄

29位 市ヶ谷有咲

30位 氷川日菜

31位 弦巻ころろ

52位 アンデイ +8秒

日菜とこころは、落車が残り3kmの手前だったため救済措置なし。

総合首位

カンチエレーラ

スプリント賞

ジルヴェール

山岳賞

湊友希那

新人賞

湊友希那

結果が発表されてすぐに友希那は表彰台へ

友希那「これが表彰台から見る景色ね…。次は総合優勝の時に見たいわね」

そして、終了後にメンバーが友希那の周りに集まってきた。

リサ「よかったね！友希那!!」

紗夜「流石湊さんです。私は信じてましたよ」

香澄「友希那先輩すごいです！」

友希那「みんなありがとう。みんなのおかげよ」

リサ「んー昔の友希那なら絶対に言わなそうな言葉だねー」

ランス「お前ら！今すぐシャワーとマッサージを済ませてこい！今

日は祝賀会をするぞ！」

みんな「やったー！」

マッサージの時間

杏梨「おめでとう友希那」

友希那「ええ、ありがとう…今日はいつもより丁寧ね」

杏梨「そりやいつもより疲れてるかもしれないしね♡」

ゆきな「紗夜さんも凄かったです！」

紗夜「そう言ってもらえると嬉しいですね」

そしてその夜

ランス「友希那のステージ優勝を祝して乾杯！」

みんな「カンパ〜イ!!」

ライブ「まさかこんな早く勝てるとはな」

冬子「だから君たちに期待してたと言っただろう？」

ランス「なんでテメエがいるんだよ」

冬子「ひどい言い方だね。元マネージャーに向かって」

ランス「今は関係者じゃねーからな」

冬子「とりあえずこれからも頑張ってくれよ」

ライブ「あいつ、いつの間に行った…」

リサ「でも友希那が1位で紗夜が3位なんて凄いね！」

友希那「ちよつとりサ…褒めすぎよ…」

紗夜「そうですね。これはまだ通過点なんですから」

蘭「でも今日だけは優勝の喜びに浸りましょう」

友希那「ええ…そうね」

祝賀会終了後

ランス「よつしや会議やるぞ！」

ライブ「テンション高いな」

彩芽「明日の第5ステージは、カルエくカップ・フレルまでの164.

5kmよ。明日は完全にスプリント合戦になるわ。私達は何も動く

予定はないわ」

ライブ「一応スプリントは日菜に任せる。勝負するかはその時に任せるぞ」

日菜「はーい！まっかせといてー！」

ランス「よし以上！」

ライブ「早く終わらせようとすんな！」

ランス「ぐべら!!」

リーヴァイのアッパーがクリーンヒットしてランスは宙を舞う。

ランス「ゴフツ！」

リサ「ちよつとやりすぎじゃ…」

ライブ「これくらいやらんな」

彩芽「それと、明日のレースではなるべく集団の前につけてください。以上です」

みんな「はーい（わかりました）」

作戦会議が終わって各自解散になった。

ランス「とりあえず勝ってよかったぜ」

ライブ「そーいや最近ドーピング機関がお前の調査をしてるらしいぞ」

ランス「つつても何も出ねーだろよ。何もしてねえんだから」

Rose liaの部屋では…

あこ「今日の友希那さんチョーかつこよかったです！」

燐子「私も：そう思い：ました：」

リサ「紗夜も3位だったしね」

紗夜「ええ。ところで今井さんはアルベルトさんに落車の心配をさ
れていましたね」

友希那「やっぱり2人とも気があるのかしら？」

リサ「えっと：それは：その：」

あこ「リサ姉の顔が真っ赤だー！」

リサ「だって：」

友希那「これ以上はやめましょう」

紗夜「ええ。2人の発展を見守りましょう」

みんな「おやすみ」

リサ「：どうしようかな：」

遂にステージ優勝を手にしたチームBang Dream!

総合首位に立つことはできるのか!?

そしてリサとランドールの仲はどうなるのか!?

次回へ続く

第5ステージ ―最速の称号―

7月6日 フランス カルエにて

スタート地点に集結してくる各チームの選手たち。いつもは人でごった返すことはないが、ワールドフランスとあつて多くの人たちが来ていた。

リサ「うわゝ相変わらずすごい人の数だね」

友希那「リサの言う通りだね。ライブでもこんなに集まったことないわね」

紗夜「私達もまだまだ向上していなければなりませんね」

香澄「キラキラドキドキする光景だね有咲！」

有咲「これくらい私らもライブで集めないとな！」

アル「あく今日は勝つぞ〜」

シヨーマー「今日はマークの調子が良さそうだな。俺たちが全力でアシストしてやつからな」

ベイル「弾丸超特急の力を見せてやるか！」

マルティーニ「トレイン牽引は任せといてください！」

キーナン「残念だが、わたらのチームが勝つんだよ」

ジルヴェール「おいおい、タレないジルヴェール様の勝ち確定だぜ」

グレイラル「ウツホッホ！（協力するぞ〜）」

ルヴァンズ「前はパンクがあつたが、今回はそう簡単には行かへんで！」

モロー「お、闘志がみなぎってんな！」

バウアー「頑張るとするか！」

フォラント「またあの兄弟はどっか行っちゃまったのか」

フランク「やっぱり沙綾ちゃんは可愛いね〜」

アンディ「燐子ちゃんの方が可愛いよ！」

フランク「沙綾ちゃんだ！」

アンディ「燐子ちゃんだ！」

フォラント「お前らいい加減にしろー!!」

アンデイ&フランク「ギャー!!」

マツサ「モカちゃんは何か趣味とかあるの？」

モカ「パンとか食べるのが趣味ですね」

マツサ「どれくらい食べるの？」

蘭「マツサさん。それ以上はダメですよ」

マツサ「え？」

モカ「蘭ってばく邪魔しに来たの？」

蘭「ち、違うよ! マツサさん。モカの食欲は桁違いですから気をつ

けてくださいね」

マツサ「お、おう…」

モカ「ちえく。では、マツサさんまた今度」

マツサ「おいおい。レースで会うだろうよ」

モカ「そうでした」

蘭「モカ。行くよ」

モカ「はくい」

ガガー

ランス「昨日も言ったが、今日は平坦ステージだ。身体を休ませるステージとして使えよ。日菜とこころの2人は終盤で指示をだす予定だ。無ければ2人の判断に任せるぜ」

ブツツ

紗夜「だそうですね」

香澄「あれ? 友希那先輩と蘭ちゃんは？」

有咲「あの2人はジャージ着用者だから先頭の列に並んでるぞ」

リサ「蘭と2人で大丈夫かな」

先頭列では…

カンチエレーラ「お、2人ともジャージ着用者か」

友希那「ええ、私は山岳賞を選んだから美竹さんは新人賞を繰り下げで着ているのよ」

蘭「繰り下げてっていうのは嫌ですけど、着ていることは嬉しいですよ」

ジルヴェール「今日もフェアにやっついこうなフェアビラス」

カンチエレラ「無論そのつもりだ」

10分後、パレード走行がスタートした

チームバスのside

ほたる「今日は風が強いわね」

あこ「こんなに強風で何もなままいくのかな？」

メイ「場合よつては一波乱起きる可能性があります」

麻弥「転ばないでほしいっすね」

しばらくして強風が吹くなかレースが本格的にスタートした！

スタートしてすぐに数名の選手が飛び出して逃げ集団が形成された。

30kmをメイン集団が通過した地点で差は6分ほどに拡大している。

その頃メイン集団では：

リサ「友希那く。そのジャージを着てる感想教えてよ」

友希那「特にいつもの変わらないわ。同じジャージなんだから」

紗夜「湊さんはやっぱりいつも通りですね」

リサ「あははくそういう意味で聞いたんじゃないんだけどな」

ランドール「相変わらずリサは大変そうだな」

リサ「お、アルベルト！今日はどうしたの？」

紗夜「今井さんに会いに来たんですか？」

ランドール「まあ：そういうことになるかな：？」

友希那「なぜ疑問形なのよ」

ランドール「そんなこと言ったってリツチーに行かされたからな」

リサ「そ、そうなんだ：」

ランドール「とりあえず、お互い頑張ろうな！」

友希那「ええ、そうね」

紗夜「もちろんそのつもりです」

リサ「オツケー。頑張ろうね☆」

そして、ランドールはチームの元に戻っていった。

紗夜「やっぱり今井さんに会いに来たみたいですね」

リサ「そ、そうなのかな？」

有咲「リサ先輩。顔が赤いですよ」

リサ「うわ！有咲いたの!？」

友希那「やっぱり凶星なのね」

リサ「う…」

50 km地点 逃げ集団との差は5分半になっていた。

チームカーでは：

ライプ「風が相変わらず強いな」

杏梨「こんな状態で落車なんてしたら大変ね」

千聖「難しい展開ね」

『52 km地点で集団落車が発生しました』

美咲「言ってたら起こっちゃいましたね…」

ライプ「みんな応答しろ！」

メイン集団 side

リサ「みんな大丈夫？」

紗夜「ええ、問題ありません」

友希那「私も大丈夫よ」

香澄「あれ？有咲は？」

モカ「いないですね」

蘭「巻き込まれちゃったのかな？」

落車した集団では：

有咲「イッテーまじかよ。かすり傷だから問題なさそうだな」

ウイリアムズ「チクショーが！なんで俺なんだよ！」

トーラス「早く行きますよ！」

ウイリアムズ「んなこたわーってるぜ！」

有咲「あの人はウイリアムズか？結構有力な人たちが巻き込まれてるな」

この落車で大きな怪我をした選手はいなかったが多くの選手が集団から切り離されてしまった。しかし、メイン集団は総合優勝有力候補のウイリアムズを待ったためにペースを落とすため、ウイリアムズたちは無事に集団に復帰した。

ルヴァンズ「ウイリアムズはん。災難やったな」

ウイリアムズ「うるせーな。嫌味か？」

ルヴァンズ「ワイがそないなこと言う奴やと思ってるんか？」

バウアー「おいおい2人ともここで喧嘩しないでくれよ」

そして中間スプリントの設置されている70 km地点まで残り1 km
までメイン集団がやって来ていた。

マルティーニ「あと1 kmですよ！」

アイゼン「そろそろ交代するぞ！」

キーナン「アルのチームが安定の爆走か」

グレイラル「ウホホッ！（ついてこいよ！）」

ジルヴェール「よっしゃ任せとけ！」

残り500 m

シヨーマー「そろそろ発射するぞ！」

アル「おく任せとけ〜！」

キーナン「その前にいくぞ！」

ジルヴェール「俺もいくぜ！」

アル「そうはさせないぞ〜」

キーナンとジルヴェールがスパートをかけた横からアルドイツ
シユがスパートをかけていくが…

アル「お〜いキーナンが進路妨害してるよ〜」

キーナン「すまないなアル！」

ジルヴェール「よっしゃ俺がもらっ」

パヌッチ「いただいたぜー！」

ジルヴェール「は!?!」

3人が色々とやっている間に伸びて来たパヌッチが先頭で中間ス
プリントを通過。キーナンとアルドイツシユの件は審議対象になっ
た。

アル「妨害はするいぞ〜」

キーナン「すまない。そのつもりはなかったんだが」

ジルヴェール「俺が…抜かれるとは…」

グレイラル「ウホ（ドンマイ）」

パヌッチ「おい！後ろで落車起きてんぞ！」

！
スプリント直後にペースが急激に落ちたため、大量落車が発生した

有咲「あつぶねく。また巻き込まれそうだった…」

友希那「私達も巻き込まれなくて済んだわね」

リサ「危なかつたよ。今日落車が多いと思うんだけど」

紗夜「でも、巻き込まれた人たちは大丈夫かしら」

落車組 side

ヴェーリング「あいたたた…。また巻き込まれたよ。うんがないとしか言えないぜ」

ザイーデン「おいマルコ！大丈夫か！」

マルコヴィツチ「うぐ…あ…う…」

クラフティア「おい！救急班呼んでこい！続行は無理だ！」

この落車でマルコヴィツチは脳しんとうを起こしてリタイヤとなった。

さらには…

ランドール「全くどうなってるんだよ今年のツールは」

フォールド「アルベルトさん。そんなに怒ってたら駄目ですよ」

ランドール「しかも自転車パンクしてるし」

ニキ「しばらく待つしかないな」

立て続けの落車で逃げ集団との差はなかなか詰まっていけない状態であった。

補給の77km地点

巴「蘭！大丈夫か！」

蘭「いつも通りだよ！」

モカ「モカちゃんも」

りみ・たえ「2人ともがんばれー」

有咲「お、おう！」

香澄「ありがとー！」

そしてあつという間に補給地点を通り過ぎていった。

イヴ「今日は大変そうな感じになってますね」

巴「ああ。この後も気は抜けないだろうな」

鈴音「これからチームバスの方に移動しましょう」

ひまり「早く移動しましょー！暑いですよ！」

つぐみ「た、たしかに暑いよね。でも仕方ないよそれは」

100 kmを過ぎてメイン集団が急激にペースを上げたため、逃げ集団との差は3分差まで縮まっていた。

クイツクウオーリア side

シャフマン「今日の脚で勝てそうか？」

キーナン「わしは全力を尽くすだけだよ。後はアシスト次第だな」

テイルステラ「なら、全力で俺たちがやるしかないな」

ステイルマン「ん？危ない!!」

キーナン「え？うおあ!!」

102 km地点でまたしても大規模落車が発生！

ステイルマン「おいキーナン！無事か!?!」

キーナン「おーなんとかな…だが、集団復帰は無理そうだぜ」

テイルステラ「シャフマンは行っちゃったが、俺たちがアシストしてやるよ」

キーナン「すまんなお前たち…」

チームカー side

沙綾「今の落車した人たちは追いつけるんですか？」

彩芽「いいえ。おそらく無理よ」

彩「え？なんでですか？キーナンさんもいるのに」

ランス「あと60 kmで逃げ集団との差は3分半。これを吸収するならここで待てねーんだよ」

彩芽「たとえばこのステージの優勝候補であるキーナンが巻き込まれているとはいえ、ステージ優勝を逃げに取られてしまったら元も子もありませんからね。しかも、キーナンは総合優勝に関係無いことからも待たない理由ができますから」

沙綾「香澄達が巻き込まれなくて良かった」

ランス「安心するのはまだはえーぞ」

彩「え？」

彩芽「ええ、わかったわ。監督。ほたるから強風による集団分断対

策に集団の前方につけるよう言われました」

ランス「わかった！」

110 kmを過ぎたあたりから横風が急激に強くなり、横風による集団分断を狙ったチームが急激にペースを上げ始めた。

ガガー

ランス「お前ら！集団の前方につけろ！横風分断を喰らったら取り返しがつかねえ！」

日菜「りよーかい！」

こころ「わかったわ！」

友希那「リサ！紗夜！行くわよ！」

紗夜「わかりました！湊さん！」

リサ「私が全力で前に押し上げるよー！」

蘭「私達も行くよ！」

モカ「オツケー蘭」

有咲「行くぞ香澄！」

香澄「うわあ！待ってよ有咲！」

有咲「くそ！まじかよ！」

有咲と香澄の間にいた選手が香澄の進路に寄れたため、香澄が集団後方に置き去りになってしまったのだ！

メイン集団の先頭をハイペースで引つ張るのはハイスピード・スペシャル。その結果集団は真つ二つに分裂してしまった。そして分裂した方に香澄が含まれていた。

有咲「香澄が遅れたら意味がねー。助けに行くぞ」

有咲は香澄を助けるために分裂した集団まで下りてきた。

香澄「あ、ありがとー有咲」

有咲「そんなこと言っていないで必死についてこいよな！」

メイン集団と分裂した集団との差はあつという間に30秒ほどついた。

チームバスでは…

たえ「あ！香澄と有咲が遅れてる！」

りみ「2人とも頑張つてー！」

つぐみ「これじゃ間に合わないかも…」

巴「ここまでメイン集団がペース上げてたらなー」

メイ「逃げとメイン集団の差は2分に縮まりました」

麻弥「これは日菜さんも頑張つてほしいっすね！」

イヴ「ブシドー精神です！」

残り10 km

マルティニーニ「もう少して逃げを吸収しますよ」

アイゼン「吸収したら一旦ペースを落とすぞ。スプリントに備えるんだ」

ここで逃げをメイン集団が吸収した。

ヴォルドー「いぐぞー」

シャフマン「俺も乗るぜ！」

ここで再び選手が飛び出した。その中には日菜とこちらもいた。

日菜「今日はこころちゃんに託すよ」

こころ「ええ！日菜の分もやるわ！」

これを集団が容認するわけもなくステージを狙う多くのチームが吸収しにペースを上げていく。

残り5 kmで差は10秒ほどである。

こころ「そろそろいくわ！」

日菜「頑張れこころちゃん！」

ここでこころとシャフマンが飛び出した！

ヴォルドーと日菜はついていけずに集団に吸収されていく。

残り2 km

アイゼン「あいつらしぶとすぎるぜ」

シヨーマー「早いが交代するぞ！」

マルティニーニ「あれ？アルさんがいません！」

アイゼン「なに!?!」

アル「もう邪魔がまた入っちゃったよ」

残り1 kmでこころ達との差は5秒

こころ「ここでスパートよ！」

後ろではチームフライのクラフソンが飛び出した！それに他の

チームのスプリンターもついていく。

先頭はこころ。すぐ後ろにクラフソンが追いつき、フースフォルト、ジルヴェール、トーラスの順である。

ジルヴェール「タレないジルヴェール様のお通りだー！」

フースフォルト「今日は厳しいな…」

カンチエレラ「タイム差なしでいけばオーケーだな」

グレイラル「ウホホー！（頑張れよー！）」

ジルヴェールが残り500mから加速して先頭に躍り出る！こころは後ろにつくも追い抜くには至らない。

こころ「このまま行けるだけいくわ！」

残り300mで先頭はジルヴェール。2番手にこころ、次にゴンタである。

ジルヴェール「よっしゃ！勝ちだな！」

アル「そうはさせないぞ〜！」

ゴンタ「なんだあの加速は！」

大外からアルディツシュが驚異のスパートでジルヴェールを強襲した！

ジルヴェール「嘘だろ!? 負ける訳にはいかねー！」

アル「まだまだいくぞ〜！」

アルディツシュはあつという間にジルヴェールを追い抜き、そして先頭でゴールラインを通過した！

アル「やった〜今回初優勝だ〜!!」

ジルヴェール「ま、まじかよ…。シヤレになんねーだろそれ…」

アルディツシュがガッツポーズをしている横でジルヴェールは絶望したようにうな垂れていた。

こころ「ダメね。やっぱり甘くなかったわ」

日菜「こころちゃんおつかれー。やっぱり最速と言われる人だね」

こころ「そうね。また出直すわ！」

総合優勝を目指すメンバーも殆どタイム差なしでゴールした。香澄を除いては。

香澄「ごめんね有咲。こんなことになっちゃって」

有咲「香澄は悪くないぞ。運が悪かったただけだ」
2人は1分遅れてゴールした。

さらに、キーナンは約13分遅れてフィニッシュ。

第5ステージ結果

1位アルディツシュ 3時間38分32秒

2位ジルヴェール +0秒 以下同タイム

3位ゴンタ

4位弦巻こころ

5位トーラス

6位グレイラル

7位氷川日菜

8位ボーノ

9位ベイル

10位フースフォルト

17位湊友希那

18位今井リサ

20位氷川紗夜

24位美竹蘭

25位青葉モカ

95位市ヶ谷有咲 +1分5秒

97位戸山香澄

172位キーナン +13分8秒

総合首位

カンチエレーラ

ポイント賞

ジルヴェール

山岳賞

湊友希那

新人賞

湊友希那

ハイスピード・スペシャルのホテルでは…

監督「マークの優勝に乾杯！」

みんな「カンパーイ！」

シヨーマー「流石マークだな！」

アイゼン「やると思ってたぜ！」

アル「いやあく照れちゃうぞ」

マルティニーニ「後2日も頑張りましょう！」

オーー!!

夜、チームBang Dream!のホテルの食堂で作戦会議がスタートした。

ランス「よしやるぞ」

彩芽「明日の第6ステージは、ディナンくリズーで226.5kmの今大会最長の距離です。平坦ですが、所々山岳ポイントもあります。友希那さんの山岳賞を守るために誰かを逃げにさせる可能性も入れています」

ランス「別に失ってもいいがな」

ライブ「それでもお前は監督か！」

ランス「のうん！」

ライブの蹴り上げはランスの大事な部分に直撃してしまった。

リサ「だ、大丈夫なんですか？」

ライブ「心配ない。一通り会議は以上だ。リサと香澄は残ってくれ。後は解散！」

2人「はい」

こうして各々の部屋に戻っていった。

ライブ「まずは、リサ」

リサ「えっと、明日の逃げの話ですか？」

ランス「いや、お前の怪我の状態を知りてーんだ」

香澄「え!?!リサさん怪我してたんですか!?!」

リサ「初日の落車でね。正直いってあまり良くないです」

ランス「わかった。そして香澄」

香澄「はい！」

ライブ「もしかしたらだが、山岳ステージからエースではなく、ア

シストに回ってもらおうかもしれない」

香澄「え？それって」

ランス「友希那や蘭よりも1分以上遅れているからな。あくまでも可能性の話だぞ。これ以上タイム差が離れなければこの話は無しだぜ」

香澄「はい！わかりました！」

ライブ「よし。2人とももういいぞ」

2人「失礼します」

ライブ「香澄に直接この話をして良かったのか？」

ランス「仕方ねーさ。取り敢えず有咲に最大限アシストしてもらって、遅れるようならエースから下ろすだけだ。遅れなければこのままの予定だ」

彩芽「監督は辛辣ですけど、想ってはくれているんですね」

ランス「おいおい皮肉かよ」

ライブ「言われるだけいいだろうよ」

ランス「まあな。はははは」

一方ポピパの部屋では：

香澄「ただいま…」

たえ「どうしたの？香澄」

有咲「なんか言われたのか？」

香澄「もしかしたらたらエースクビになるかも」
りみ「え!?!どうして…」

沙綾「多分タイム差が1分以上あるからかもね」

香澄「な、なんでわかったの？」

有咲「寧ろそれくらいしかねーだろ」

沙綾「でもこれ以上遅れなければいいんだよ。私たちの分まで頑張ってね香澄！有咲も！」

有咲「ありがとな沙綾」

香澄「うん！みんなのためにも頑張るよ！」

崖つぶちの香澄は果たしてどうなるのか!?

そして平坦2連戦はどうなるのか!?

次回へ続く

第6ステージ ―雨ト風ニマケズ―

7月7日 フランス デイナンにて

いつものように選手達がスタート地点に集まる中、チーム監督達は渋い顔をしていた。

ランス「ほたるが言うには、今日のレースは途中から土砂降りになるらしいぜ」

ライブ「らしいな。今日はある意味一週目のレースの中で最も苦しいステージになるかもな」

冬子「どうだろうね。ここが寧ろチャンスかもよ?」

ランス「テメエはいつも沸いたように出てきやがるな」

冬子「そんな言い方するのかい? 相変わらず性格が悪いね」

ランス「うるせーよ」

その頃スタート地点では…

香澄「有咲く! 今日頑張るよー!」

有咲「うるせー! 抱きつくな!」

リサ「2人とも仲がいいねー」

有咲「リサさんも煽らないでください!」

日菜「私もおねーちゃんにくつつこつと」

紗夜「こら日菜! やめなさい!」

友希那「みんな大丈夫なのかしら」

リサ「いつも通りだから問題ないっしょ」

ウィリアムズ「なんとかかすり傷で昨日は済んだが、これじゃいつ

どうなるかわかんねーぞ」

トーラス「我々がアシストして頑張りますよ」

グラフ「慎重にいきましようね」

クラフソン「今日は俺がステージ取りに行っていていいっすか?」

トーラス「そうは言いつつ昨日も勝ちに行つたろよ」

クラフソン「そうでした笑」

ハハハハハ

カンチエレーラ「ようヅルヴェール。今日も勝ちに行くんだろ?」

ジルヴェール「……」

ルールストン「昨日負けてショック受けてるだけだから気にしないでくれ」

カンチエレラ「そ、そうなのか」

スタート地点の先頭列にいるカンチエレラ、ジルヴェール、友希那、蘭がスタートの合図を受けてパレード走行へのスタートをきった。それに各選手が続いて行く。

ガガー

ライプ「今日の逃げはリサと香澄の2人に任せる。山岳ポイントを他の奴に取らせるなよ」

リサ「りよーかい☆」

香澄「わかりました!」

ランス「もし潰されたら、有咲かモカに任せる」

有咲「私もやるのか……」

モカ「頑張りますよ」

ブツ

ランドール「今日は大変なことになりそうだな」

リサ「おーいアルベルト」

フォールド「あれ?リサさん。珍しいですね」

ランドール「今日はどうしたんだ?」

リサ「いや……その……お互い頑張ろうねって言いに来ただけ!」

ランドール「そうか……頑張ろうな!」

リサ「うん!」

フォールド「行っちゃいましたね……」

ニキ「良かったのか?何にも言わなくて」

ランドール「……」

パレード走行が終わり、コースディレクターの旗を合図にスタート!

香澄「リサさん!いきましよう!」

リサ「もちろん!いっくよー!」

スタート直後に香澄やリサをはじめとした数人が逃げに乗って

いった。集団は容認する姿勢を見せたため、差がみるみる開いていく。

逃げ集団のメンバーは、リサと香澄、FTVのルソー、ITAのマローニ、メンデイスのドウケ、そしてヴァルディアーニのルークランドとウェイラントである。

チームバスのside

あこ「しばらくしたら雨がドバツと降ってきますね」

麻弥「逃げてる2人にレインコートを配る必要があるっすね」

ほたる「リーヴアイさんと鈴音先輩に頼んでおきます」

メイ「しかも降ったり止んだりになりそうです」

逃げ集団が50kmを過ぎた時点で、メイン集団との差は4分半に拡大。メイン集団は追いかけるそぶりは一切見せていない。

逃げ集団では：

ルークランド「今日はこのメンバーでどこまで逃げれるかな」

ルソー「無論最後まで行くぞ」

香澄「私達も頑張るよー」

リサ「なんかみんな私たちに先頭を引かせないね」

ウェイラント「君たちにアピールしてるんじゃないのか？」

リサ「えゝそんなことしてる暇あるの？」

一方メイン集団は：

友希那「リサを逃げて送り出して大丈夫かしら？」

紗夜「落車の影響がないといいんですが」

ランドール「あれ？リサがいないな。逃げに乗ったのか？」

蘭「そうですよ。香澄と一緒に」

ランドール「それは残念…じゃまた」

有咲「あれ完全にリサさん狙いだな」

バツソ「モカちゃんいるかい？」

モカ「モカちゃんはここにいますよ」

バツソ「少し話でもしないかい？」

モカ「いいですよ」

友希那「青葉さんはいつも通りね」

蘭「それがいいところでもあり、悪いところなんです」
補給地点である114 km地点では、早くも補給組がスタンバイを始めていた。

ひまり「暑いよー。つぐー」

つぐみ「ひまりちゃん頑張つて！」

ひまり「だつてー」

巴「おおー！2人ともがんばれー！」

イヴ「ファイトファイトです！」

たえ「2人とも熱すぎる」

ひまり「2人の隣は暑すぎるよー」

りみ「あはは…」

メイン集団が60 kmを通過した辺りからポツリポツリと雨が落ちてくる。

その時点で、逃げ集団は1つ目の山岳ポイント地点まで1 kmのところまで来ていた。

リサ「ここは香澄に任せるよー！」

香澄「寒いけど頑張りまーす！」

ルークランド「よっしゃ行くぞー!!」

ルソー「ぬおー!!」

各々がスパートをかけた中、香澄が先頭で山岳ポイント地点を通過した。

この時点で、香澄と友希那が山岳ポイントで同ポイントになった。

ライブ「おい2人とも！レインコート持って来たから着ろ！」

リサ「りよーかい☆」

香澄「寒かったからちようど欲しかったんです！」

杏梨「カイロも貼つてあるからね」

沙綾「香澄ー！頑張つてー！」

香澄「あれ!?沙綾がなんでこっちに!？」

美咲「千聖さんに頼んで変えてもらったの」

沙綾「そういうこと」

香澄「ありがとく。頑張るね！」

山を下って114 kmの補給地点に逃げ集団がついた頃には、メイン集団との差は5分半に拡大していた。

りみ「頑張つて香澄ちゃん！」

たえ「香澄！」

香澄「ありがとうおたえ！」

ひまり「リサ先輩にもはい！」

リサ「サンキューひまり！」

巴「2人ともがんばれー！」

イヴ「エイエイオー！」

つぐみ「それをイヴちゃんと言うのはちょっとおかしいかな…？」

その後131 kmにある中間スプリント地点で逃げ集団内によるスプリント合戦は逃げ集団の中では行われず、ローテーションの関係でウエイラントが先頭通過。一方メイン集団が中間スプリントを通過する時には、いつも通りの白熱した合戦が繰り広げられていた。

シヨーマー「そろそろ発射するぞー！」

アル「いつでもいいぞー！」

パヌッチ「今回も俺が！」

ゴンタ「いや俺だ！」

アル「邪魔だぞー！」

シヨーマーからの発射であつたという間にアルディツシュが2人を抜き去つて先頭通過を果たした。

ジルヴェール「マジであいつに勝てる気しねーわ」

グレイラル「ウツホホホ（ここで諦めんなよ）」

ジルヴェール「じゃお前も戦ってみろよ」

そして逃げ集団は2つ目の山岳ポイント地点にさし掛かった。

香澄「リサさん！頑張つてくださいね！」

リサ「いっくよー！」

ルークランド「ウエイラントにここは任せよう」

ウエイラント「ラジャー！」

ルソー「はえーよ2人とも」

激しい争いの末、ウエイラントが先頭通過。リサは二位通過になつ

た。

リサ「ごめんね香澄」

香澄「まだまだこれからですよリサさん」

リサ「次の山岳を私が取れば、友希那の山岳賞は守れるんだから、ここは踏ん張らないと」

ルークランド「残念だが、俺がいただくぞ」

ドゥーケ「俺たちも狙ってくぜ」

リサ「香澄。ちよつと耳かして…」

香澄「なんですか…」

そして、最後の山岳ポイント地点のある197km地点までやって来た。メイン集団との差は2分程に縮小していた。天候はまさに最悪と言つていいほどで、豪雨と強風が同時に選手たちを襲っていた。

香澄「リサさん！もつとペース上げますよー！」

リサ「どんどん上げちゃってー！」

ルークランド「ぜえぜえ…ま、マジかよこの子たち…」

ドゥーケ「この山岳はそんなに重要じゃないぞ…」

2人がヒソヒソと話していた話は、この山岳ポイント地点までにペースを上げて他の選手を引きずり落とそうという作戦だったのだ！この作戦が見事にハマリ、4級山岳ポイント地点をリサが先頭で通過した。

チームカースide

彩「リーヴアイさん。少し聞きたいことがあるんですけど、良いですか？」

ライプ「ん？どうした？」

彩「山岳賞を決める山岳ポイントって級ごとにどれくらい違うんですか？」

千聖「彩ちゃん。それはロードレースの中で知っておかないといけない所よ」

杏梨「私が教えるわ。山岳の級は4級を1番下として3級、2級、1級と徐々に難易度が上がって行って、超級と言われるHC（ハイカテゴリ）が最難関と言われているわ」

ライブ「無論難易度が上がっていくほどポイントが多くもらえるんだ」

複雑なんでここからは箇条書きで説明します。少しずれてるところはご了承を。

順位	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10			
超級	25	20	16	14	12	10
4	2				8	6
1級	10	8	6	4	2	1
2級	5	3	2			
3級	2	1				
4級	1					

今現在の山岳賞

1位 湊友希那 2pt 以下同ポイント

2位 戸山香澄

3位 ルークランド

200kmをメイン集団が通過してオメガ・ファクトリーとチームフライがペースを上げたため、逃げ集団との差は1分を切っていた。

逃げ集団 side

リサ「イタタ：怪我した部分が…」

香澄「友希那先輩のジャージは守ったんです！リサ先輩は明日に備えて休んでください」

リサ「わかったよ。後は任せたく」

逃げ集団からリサとウエイラントが脱落して残りは20km。

一方メイン集団では、小さなパニックが起きていた。

ルールストン「もっとペースを上げるぞ！」

アイゼン「くそっ！アルが山で千切られたし、ショーマーもいないからな…」

カンチエレラ「キーンやシャフマンをはじめとしたクイツク組もみんないないしな」

フースフォルト「しかもこの雨と風だ。ここは俺の力を見せつける

時だな」

アンデイ「お兄ちゃん。寒すぎるよー」

フランク「我慢しろ。レインコートを着る以外に方法はないからな」

アンデイ「はい」

蘭「あ、リサさんが戻って来ましたね」

友希那「リサ。やくやったわ」

リサ「友希那のために香澄と頑張ったよー」

紗夜「今井さん。素晴らしい活躍でした」

リサ「沙夜も褒めてくれるなんて嬉しいなー」

こころ「今日も日菜と行くわよー!」

日菜「まっかせてよこころちゃん!」

そう言うと言葉とこころは集団の前方へと移っていった。

モカ「私達も一応前にいつときましょー」

有咲「そうだな!」

各チームがスプリントの準備を進めている時、逃げ集団との差は20秒程まで縮まっていた。残りは10km。

ルークランド「流石に厳しいな。どうするか」

ルソー「もう無理だな」

香澄「いつくよー! イエイ!」

逃げ集団から隙をついて香澄がアタックをかけた! 他の選手はこれについていかず、香澄の単独逃げが始まる。

メイン集団 side

トーラス「後1人を吸収するだけだ!」

クラフソン「いつでも準備オーケーだぞ」

ジルヴェール「アルがいなきやタレるわけにはいかねーぜ!」

グレイラル「ウツホッホ! (俺も今日はスプリントするぞ!)」

ルヴァンズ「ペースめっちゃ上がつとるやんけ! 流石にチームメイ
トがどこにいるのかわからへん!」

ウイリアムズ「どうせ動かねんだからどうでもいいだろ」

ルヴァンズ「いやそう言う問題じゃないねん!」

フースフォルト「今日は優勝とりたいな…ここから先は厳しいからな…」

一方単独で逃げている香澄は…
プップー

ライブ「後ろとの差は考えずとにかくペダルを踏めよー！」

香澄「ぜえぜえ…わかってる…ハアハア」

沙綾「香澄ー！頑張ってー！」

香澄「あ…ありがと沙綾ー！頑張れるよー！」

残り3kmでいよいよ差が10秒差までメイン集団に香澄は迫られている。

メイン集団side

トーラス「クラフソン！今日は行けるか？」

クラフソン「脚の調子はバッチリだ！雨と風も味方につけてやる！」

ゴーマ「アルがいない以上は俺がやるしかないな」

ゴンタ「なんだよアルがいないなら勝っても嬉しくねーな」

ジルヴェール「俺じゃ不足ってのかい？」

グレイラル「ウツホホ！（俺も忘れるな！）」

残り1kmで香澄はもう吸収される寸前！

香澄「ラストスパートかけるよー!!」

ここで下ハンドルに手をかける！

香澄「いっくよー！」

後ろでは

フースフォルト「雨でメイン集団の方が体力が有り余ってるぞ！」

トーラス「ハアハア…ん？風が収まった？」

クラフソン「ここしかねえ！」

ジルヴェール「マジかよここか!？」

雨と風が弱まった一瞬の隙を突いてクラフソンワーゲンが飛び出す！

カンチエレーラ「ここはつくしかない！」

ゴーマ「俺も行くぜ！」

クラフソンワーゲンに続くようにスプリンター達が香澄に襲いかかる！

香澄「うー！あー！」

残り500m

香澄「もう限界ー！」

クラフソン「もうちよい!!」

ジルヴェール「くそっ！遅れちまったから間に合わねえ！」

トーラス「いけるぞ克蘭ソーーン!!」

ゴンタ「雨と風が強すぎんだろ!!」

グレイラル「ホホく（無理く）」

カンチエレーラ「俺も今日は諦めるか…」

残り300m

クラフソン「並んだぞ！」

香澄「ここで諦められないよー！」

ゴンタ「この子まだ粘るのか!？」

ゴーマ「うおおおー！」

クラフソンと香澄が並走してすぐ後ろからスプリンターがなだれ

込んでくる！

そして…

香澄「うああくく」

クラフソン「もらったー!!」

ゴーマ「せめて2位だー！」

トーラス「これは勝ったぞー！」

クラフソンワーゲンが先頭でゴールラインを超えた！

ゴーマが2位に滑り込んでフースフォルトが3位に入った。

香澄「ああく苦しかった…」

こころ「よく頑張ったわね！香澄！」

日菜「そうだよあれだけ逃げて4位に入ったんだよ！」

香澄「でも…勝ちたかった…な…」

友希那「戸山さん。はい、水よ」

香澄「ありがと…う…ござ…います」

蘭「香澄。大丈夫？死にそうになってるけど」
リサ「ほら香澄。カイロつけてあげるよ」

香澄「はぁーあったかい…」

第6ステージ結果

1位クラフソンワーゲン FLY 5時間13分37秒

2位ゴーマ SPC

10秒

3位フースフォルト GCE

4位戸山香澄 BAN

5位フアルジヤン VAN MOL

6位ゴンタ

7位ヴィヴァルディ FTV

8位ジルヴェール OPA

9位チヨーラ QWO

10位ジェラード VAN

1位氷川日菜

13位弦巻こころ

20位氷川紗夜

21位湊友希那

22位美竹蘭

23位青葉モカ

32位今井リサ

35位市ヶ谷有咲

総合首位

カンチエレーラ

ポイント賞

ジルヴェール

山岳賞

湊友希那

新人賞

湊友希那

敢闘賞

戸山香澄

敢闘賞も表彰台に登壇することができたため、香澄も念願の表彰台にの登ることができたのである。

香澄「うわ〜！本当にキラキラでドキドキする景色だー。この景色をできるだけ観たいなー」

友希那「そうね。できれば最後の表彰台に乗りたいわね。もちろん戸山さんや美竹さんと一緒にね」

香澄「はい！私も友希那先輩と蘭ちゃんと一緒に登りたいです！」
ランス「おい！香澄、友希那！マツサージをさっさと受けてこい！」

香澄「はーい！」

友希那「わかったわ」

ライブ「香澄！よく頑張ったな！観てて痺れたぞ！」

香澄「こんなに疲れたの初めてです〜。じゃあマツサージ受けてきまーす！」

マツサージルーム

杏梨「んーだいぶ脚使ったわね〜。明日は無理しないでね」

香澄「は〜い。はー疲れが癒されますー」

ゆきな「ゆきなが友希那さんをマツサージしてるのって面白いですね！」

友希那「そ、そうね…（リアクションに困るわね…）」

チームフライのホテル

監督「今日の勝利にかんぱーい！」

メンバー「カンパーイ！」

クラフソン「こんな所で勝てるなんて思わなかったっすよ！」

ウイリアムズ「お前がまさか勝つとはな！とにかくめでー日だな！」

トーラス「俺は途中から確信してたぜ！」

グラフ「確かにな。後ろでガツポーズしてたもんな」

フレツチャー「あれで負けてたら笑えたな」

トーラス「勘弁してくれよ〜」

ハハハハハ

その夜、いつものようにチームBang Dream!のホテルでは食堂にメンバー達が集められていた。

ランス「よし！作戦会議を始めるが…平坦ステージはほぼ同じ作戦だな」

ライブ「しかも山岳賞もないしな。これならジャージを守れるな」

彩芽「明日の第7ステージは、ル・マン〜シャトル〜までの218kmの長距離よ」

たえ「2日連続で長距離なのね」

りみ「みんな頑張ってください」

ランス「取り敢えず気合いで乗り切るしかねーな」

ライブ「お前はいつも投げやりなんだよ！」

ランス「おぼっ!？」

はぐみ「みぞうちにダイレクトでいったねー」

つぐみ「やっぱり痛そうですね」

日菜「明日はルンルンする勝負がしたいなー」

こころ「私もやりたいわ！」

ライブ「分かった。お前達2人に作戦は任せる。ただし、その次に響かないようにしてくれよ」

2人「はい！」

ライブ「よし！これで解散！」

みんな「はい（わかりました）」

いつも通りの作戦会議を終えて部屋に戻っていった。

ランス「いいかげん…手加減してくれよ…」

ライブ「お前に手加減はなしだよ」

彩芽「監督さんが可哀想に見えてきたわ」

ポピパの部屋

香澄「Zzzz…」

有咲「やっぱり疲れてたんだな」

りみ「あれだけ走ったからね」

沙綾「香澄のためにも早めに寝ようか！」

たえ「そうだね！おやすみ」

有咲「順応はえーな！」

りみ「おやすみ」

2人「おやすみ」

ホテルの外

リサ「はあー。怪我が悪化してるなんて千早さんに言われるとはね
」

ランドール「あれ？リサか？」

リサ「え!?アルベルト!？」

ランドール「そんなに驚くなよー。ちよつと一緒についていいか？」

リサ「う、うん…」

そのまましばらく2人で海岸線を見ていた。

果たして明日の平坦はどうなるのか!?

日菜とこころは何をするのか!?

次回をお楽しみに！

第7ステージ ―弾丸列車は止まらない―

7月8日 フランス ル・マンにて

フランスの中ではモータースポーツが最も有名な地であるル・マンからこの日のレースはスタートする。スタート地点には、いつものように選手が集まっていたが、ツールが始まって1週間たったこともあって選手によって状態は変わっていた。

リサ「明日からは山岳ステージが入ってくるね友希那。いよいよ私たちの本格的なレースが始まるね」

友希那「そうね。明日からは本当に気が抜けない日になりそうだな」

日菜「今日もるるるとくるようなレースがしたいなー!」

こころ「今日は日菜が頑張る日ね!」

紗夜「日菜は元気でいいわね…」

シャフマン「おいキーナン。怪我の具合はどうなんだ?」

キーナン「どうもこうもないよ。最悪だ」

ステイルマン「俺も怪我してから調子がイマイチだぜ」

テイルステラ「ここが正念場だぞ」

ルヴァンズ「明日の山岳はそない本気出さんでもええようやな」

ウイリアムズ「そう言ったら足下すくわれちまうぜ」

ランドール「それは間違いないですよ。今日も油断しないでいきましよう」

ルヴァンズ「せやな。ここでやつちまったら元も子もあらへんからな」

ウイリアムズ「お互い頑張ろうぜ」

ランドール「もちろん」

カンチエレラ「あれ?湊さんは?」

友希那「待たせたわね。少しチームと話をしていたわ」

蘭「湊さんにしては遅かったのはそういうことだったんですか」

ジルヴェール「まあ、お互い気を付けていこうや。俺とファビラスはスプリントに参加するかもしれんしな」

カンチエレーラ「俺はあの兄弟の保護があるからな。今日は無理だな」

友希那「寧ろあなたは、ポイント賞トップなんだから戦うのは当たり前でしょ？」

ジルヴェール「うぐつ…!?せ、正論が飛んで来たぜ…」

各々の思惑が交錯する中、ツール第1週最後の平坦ステージのパレード走行が始まっていく。

チームバス side

あこ「今日は何も天気の変化がないな」

燐子「あこちゃん…何もないことが…1番だよ…」

ほたる「私は何かしらスリルがある方が好きだけどね」

メイ「風も全くありません。これはスプリントの展開の可能性が高いです」

麻弥「今日こそ日菜さんの勝利が見たいっす!」

パレード走行が終わり、コースディレクターが合図の旗を振って今日もレースがスタートした。

スタートして早くも4人の選手が飛び出していつものように逃げ集団が形成された。30kmをメイン集団が過ぎた時点で差は3分ほどに拡大していた。

メイン集団 side

ニキ「おいアルベルト。今日はリサの所に行かないのか？」

フォールド「確かに今日は一度も会いに言っていないですね」

ランドール「昨日の夜あつたからまたどつかであると思うし、もしかしたらリサから来るかもしれないからな」

ニキ「受け身じゃダメだろよ。もつと積極的に行けよ」

ランドール「あんまり茶化さないでくれ…」

リサ「やつほーアルベルト。遊びに来たよ」

ニキ「あなたがリサさんですか。私の名前はニキ・セリアノス。以後お見知り置きを…というわけで2人でゆっくりしてください」

フォールド「では、ランドールさん。頑張つて」

リサ「…行つちやつたね」

ランドール「気を使わせちゃったか…」
リサ「ま、しばらく2人でいよつか♪」

ランドール「そ、そうだな…。なあ、あの昨日言ったこと考えてくれたか？」

リサ「えーつと…その答えはまた今度だね」

ランドール「お、おう。わかった」

友希那「リサはきちんと彼と話せたかしら…」

紗夜「今井さんなら問題はないと思いますけど…」

有咲「あれ？モカはどこいった？」

香澄「モカちゃんならマツサさんとおしゃべりしにいったよー」

有咲「あいつもかよ…まあいつか」

日菜「今日は頑張るぞー！」

こころ「ええ！頑張りましょう！」

紗夜「相変わらず元気がありますね…」

ルヴァンズ「明日から山岳やと思たら、今日はメツチャ休まないといかへんわ」

バウアー「遅れない程度で頼むぜ」

ウイリアムズ「気ー抜いてたらやられちまうぜ？」

ルヴァンズ「お主の誘いには乗らへんで。毎度騙されるのは嫌やで」

ウイリアムズ「テメーが勝手に騙されてんだろうが」

モロー「それは一理あるな」

ルヴァンズ「んなことあるかいな！」

ハハハハハ

この日は炎天下の中でのレースだったため、水分補給は非常に重要な日となっていた。

チームカーでは…

ランス「あー、車の中はチョー楽だぜー」

彩芽「選手として走っていたら、冷房なんてないですからね」

彩「今日の気温は40度を超えていますしね…」

沙綾「香澄達は大丈夫かな…」

その彼女達はどうと…

友希那「あ、暑いわね…」

リサ「友希那ー。大丈夫ー？」

友希那「ええ、大丈夫よ。少し暑さに驚いただけだわ」

紗夜「前も言いましたが、無理はしないでください」

友希那「分かっているわ」

有咲「香澄はそういうことなくて助かるんだが…」

香澄「有咲、顔が暗いよー！」

有咲「寧ろ香澄は元気すぎるんだよ！」

暑さの中レースが続いて行く。レースの半分を過ぎた時点で逃げ集団とは7分半の差がついていた。

補給地点では…

巴「お、蘭達が来たぞ！」

イヴ「皆さん！ファイトです！」

つぐみ「蘭ちゃん！受け取って!!」

蘭「ありがと、つぐみ！」

モカ「つぐありがと」

ひまり「みんなゴーゴー!!」

たえ「香澄ー！有咲ー！」

香澄「ありがとーおたえー！」

有咲「サ、サンキュー」

りみ「皆さん受け取ってください！」

日菜「ありがとねー！」

リサ「サンキュー！」

補給地点を過ぎ、コースの130 km地点を過ぎた時…

クイツクside

キーナン「すまん、もう無理だ…」

テイルステラ「無理すんな。これが全てじゃねーんだから」

ステイルマン「俺達がお前の分まで戦うぜ」

キーナン「分かった。お前達も無理するなよ…」

ガガ

ランス「今クイック・ウオーリアのキーナンがリタイヤした。お前
らも落車には気を付けろよ」

リサ「了解☆」

日菜「はーい」

ブツツ

チームカー side

彩「キーナンさんがここでリタイヤしちゃいましたね…」

ランス「あれだけの落車に巻き込まれたんじゃ仕方ねーさ。奴は運
が無かつたんだとしか言えねーよ」

彩芽「監督の言う通りです。これは誰にでも起きますから、気を付
けないといけません」

ライブ「キーナンはリタイヤか。クイック組は他にも落車の怪我に
悩ませてる奴がいるからな…」

千聖「レースの始めに怪我をしたリサちゃんも心配だわ」

美咲「確かに無事だといいいんですけどね…」

杏梨「そう言ってる間にもまた落車が起きたみたいよ」

ライブ「なに!?!おいみんな!無事なら応答しろ!」

ガガー

紗夜「こちらは全く問題ありません」

蘭「こつちも大丈夫」

香澄「問題ないよー!」

150 km地点で落車が発生。これにレディオブラックのクラフ
ティアとマルコヴィッチ(71番の方)とアクトベのテイルマンら
エース級が巻き込まれてしまった。

170 km地点をメイン集団が過ぎた時点で、逃げ集団との差が2分
に縮まっていた。

メイン集団 side

アイゼン「そろそろスピード上げてくぞー!」

シヨーマー「よっしゃー!いったるぜ!」

ジルヴェール「急にペースを上げやがったな!厄介なことしてくれ
るぜ!」

フースフォルト「なるべく前につけないと…」

ここで、ハイスピード・スペシャルが急激にペースを上げる。その後方では…

有咲「あ、危なかった…。また命拾いした…」

香澄「有咲！早く追いかけないとまずいよ！」

有咲「そ、そうだな！」

友希那やリサ達は難を逃れたが、香澄と有咲はまたしてもメイン集団から遅れをとることになってしまった。

落車組 side

グラフ「イタター、まじかよ」

トーラス「ウイリアムズさん！大丈夫ですか!?!」

ウイリアムズ「いや、これは鎖骨やられてるぜ。もう無理だ。早くお前達はレースに戻れ」

クラフソン「ですが…」

ウイリアムズ「早く戻って言ってんだよ！リタイアする奴心配してどうすんだ!!」

グラフ「おい！いくぞトーラス！クラフソン！」

トーラス「くっ…!!」

クラフソン「すいません！」

ウイリアムズ「…」

プツプ

ライブ「リタイアすんのか？」

ウイリアムズ「この怪我じゃ無理だぜ」

ホーナー「お、リーヴァイじゃんか！」

ライブ「おいおいホーナー。お前もかよ。どんだけ俺のいたチームは呪われてんだよ。俺は引退してよかったぜ」

ホーナー「確かなに！はっはっは!!あ、戻らないと。じゃあな」

ライブ「あいつは相変わらず変わんないな。落車したって言うのに呑気だぜ」

千聖「落車したのいつものように振る舞えるのは素晴らしいですね」

美咲「レース中にはどっちがいいんだろうか…」

杏梨「少しくらい冷静じゃないとレースは勝てないわよ」

この落車でチームフライのエースであるウィリアムズとFTVのポールスターがリタイア。総合優勝候補の1人がツールを去っていった。

残り10km地点

先頭を引っ張るのはハイスピード・スペシャルのペトロフ。逃げ集団とは1分を切っていた。

カンチエレーラ「このスピードはスプリント対決になるな」

ジルヴェール「ぜえぜえ…速すぎるぜ…」

テイルステラ「キーナンがいなくなった以上、俺達がやるしかねーぞ」

ステイルマン「おれがリードアウトしてやるから思いっきりやってこいよ」

友希那「すごいペースで走るわね…」

リサ「うーこのペースについてくのは無理だ…。今日は離脱させてもらおうよ」

チームバス side

ほたる「このペースは凄く速いわね…」

あこ「スガガガンって速いです!」

メイ「このペースでアルディッシュは、ほとんどのレースを勝っています。このチームのペースを乱さない限り今日のステージを勝つのは苦しいです」

残り5km

逃げ集団はここで吸収。

メイン集団から1分離れたところに香澄、有咲、トーラスらの集団が位置。ホーナーは単独でその後ろを追いかけている。

メイン集団 side

ライヘン「まだまだいくぞー!」

ジルヴェール「ぜえぜえ…もう限界だ…」

フースフォルト「このペースじゃカヴァーを前に出せない…」

グレイラル「ウツホホ（これはしんどい）」
チームカーでは…

ランス「やつぱりハイスピードはとんでもねーペースを刻みやがるな」

沙綾「それほどすごいメンバーなんですか？」

彩芽「すごいどころじゃないわよ。先頭を牽いているライヘンバツハや2番目のペトロフは、若いけれどアシストとしてエースを数々の勝利に導いてきた人達よ。3番目のヴァンアールスは期待の新人。4番目のマルティーニは「機関車」と呼ばれるほどの独走力と牽引力があるわ。そしてベイル、ゴーマ、アイゼンバウアー、シヨーマーの最強のアシスト布陣にスプリンターのアルディツシュ。このメンバーで今まで数々のビッグレースを勝ってきたわ」

彩「それは…すごい…」

残り3 km

ライヘン「よし、頼んだ…」

ペトロフ「いづくぜー!!」

ジルヴェール「ぜえぜえ…ハアハア…もうやめてくれ…」

その後ペトロフ、ヴァンアールス、マルティーニが先頭を牽き続けて残り1 kmに突入。

紗夜「ハイスピード・スペシャルの伝説を聞いたことがありますか？」

友希那「…な、なんでこんな時にそんなことを？」

日菜「知ってるよ。きちんとメンバーが揃った時にスプリントで負けたことが全くないっていう伝説」

紗夜「そして彼らはこう呼ばれているんです」

ベイル「ゴーマ！頼むぞ！」

ゴーマ「おうよ！俺達は『弾丸列車』だからな！負けることは許されねー！」

友希那「弾丸列車？」

紗夜「彼らは『弾丸列車』と呼ばれているんです。その理由は今日明らかになります」

残り500m

先頭はアイゼンバウアー。後ろにショーマーとアルディツシュがつけている。他の選手は全く前に来ることができない。カヴァーは5番目。グレイラルは10番目につける！

そして残り300mでショーマーが先頭となつてアルディツシュの発射準備が整った。

グレイラル「ウホホホー!!（ここでいくしかない!!）」

ゴンタ「俺もいくぞ!!」

残り200mでグレイラルとゴンタがロングスパート!!

ショーマー「よし!行つてこい!!」

アル「んあゝいくぞゝ!!」

ここでアルディツシュが発射!!?

ザナルデイ「これ待ってたぜ!後ろから差し切らせてもらう!!」

グレイラル「ウツホ…（これ無理…）」

ゴンタ「さすがに早すぎたか…」

2人が後退していくと同時にアルディツシュとザナルデイが上がつて来る!

残り100m

アル「まだまだゝ!」

ザナルデイ「負けられるかー!!」

アル「いい加減諦めろゝ!!」

お互い全力を出してスプリント!!しかし、最後はアルディツシュがザナルデイを突き放して先頭でゴール!!

アル「よつしやゝ!!2勝目だゝ!!」

ザナルデイ「ぜえぜえ…ハアハア…オエツ」

友希那「確かに…弾丸列車だったわね…」

日菜「あんなに速かつたらスプリントに参加したくなくなるよ」
「こころ「あら?私はわくわくしてるわよ!」

紗夜「つ、弦卷さんは…元気ですね…」

メイン集団がゴールして1分半後に香澄達の集団がゴールした。
第7ステージ結果

1位	アルデイツシュ	SPC	5時間38分53秒
2位	ザナルデイ	ITA	+0秒 (以下同タイム)
3位	グレイラル	OPA	
4位	フアルジャン	VAN	
5位	ボーノ	FTV	
6位	テイルステラ	QWO	
7位	フースフォルト	GCE	
8位	ラルゴ	FRA	
9位	ゴンタ	MOL	
10位	カヴァー	GCE	
23位	湊友希那		
25位	氷川紗夜		
26位	氷川日菜		
30位	美竹蘭		
34位	青葉モカ		
40位	弦巻ころこ		
78位	今井リサ		+1分34秒
84位	戸山香澄		
85位	市ヶ谷有咲		
104位	トラス	FLY	
105位	グラフ	FLY	
190位	ホーナー	RBA	
個人総合			
カンチエレーラ			
ポイント賞			
ジルヴェール			
山岳賞			
湊友希那			
新人賞			
湊友希那			
夜			

ハイスピード・スペシャルのホテル

監督「今日で2勝目！乾杯だー！」

みんな「かんぱーい!!」

ライヘンバツハ「このメンバーならどこまでもいけそうだぜー！」
ヴァンアールス「まさしくそうですね！」

ベイル「そりやそうだろ」

アイゼン「俺達のあだ名はなんだっけか？」

ゴーマ「それはもちろん！」

メンバー全員「弾丸列車だ!!」

シヨーマー「俺達はまだまだ止まんねーぞ！」

ペトロフ「残りの平坦全部取るつもりでいきましようー！」

アル「そうだな」

マルティニー「つもりじゃなくてするんだよ！なぜなら俺達」

メンバー全員「弾・丸・列・車!!」

ハハハハハ

その頃チームBang Dream!のホテルでは…

ランス「いつも通り作戦会議やるか」

彩芽「明日はエギユランドゥシユペル・ベス・サンシーの189 km
よ。明日から本格的な山岳ステージだわ。そろそろ本腰を入れなければなりません」

ライブ「遅れるなよ。あと、明日から香澄をアシストにする。流石に2分半以上は苦しすぎる」

香澄「はい…」

ライブ「とはいえ、チャンスがあつたら勝ちに行ってもいいぞ。実
力で遅れた訳ではないことがわかっていいるからな」

香澄「は、はい!!」

ランス「よし、解散だ！」

ランスの一声で彼女達は部屋に戻って行った。

ホテルの外では…

リサ「んゝ遅いなー」

ランドール「ごめんリサ。待ったか？」

リサ「うん。女の子を待たせるのはどうかと思うなく」
ランドール「わ、悪いな…」

リサ「なーんて。冗談だよ♪ここら辺歩こう」

ランドール「お、おう」

2人は夜の海岸線を歩いて行った。

次からいよいよ山岳へ！果たしてどうなるのか!?

次回へ続く

第8ステージ ―頭脳と嗅覚―

7月9日 フランス エギユランドにて

遂にこの日から山岳ステージに突入する。その影響かスプリンター達はスタート地点にいても空気が重くなっていた。一方山岳を走れる選手達はその真逆である。

アル「あく今日は何もすることないな」

グレイラル「ウツホホ：（俺も同じだ：）」

ベイル「今日は弾丸列車のダイヤは運休だな」

ジルヴェール「登れない奴らは大変だな。タレないジルヴェール様は今度こそ2勝目を達成してやるぜ！」

フースフォルト「生憎だが、俺も登れるからな」

カンチエレーラ「無論俺もな」

ジルヴェール「お、思ったより敵が多いな：」

マツサ「ようやく思いつきり走れるステージが来たな」

モカ「お互い頑張りましょう」

マツサ「お、モカちゃん来てたんだな。頑張ろうな」

ランドール「今日は取り敢えず動かないで膝の具合を伺うか」

リサ「お、アルベルトじゃん！来たんだね！」

ランドール「おう。友希那達とも話そうと思ってね」

友希那「あら、ランドールさん。今日は頑張りましょう」

紗夜「私もよろしくお願いします」

ランドール「こちらこそ。そろそろスタートするから、また後で！」

友希那「：リサはいい人と出会ったわね」

リサ「またそうやって私を茶化すく！」

アハハハ

チームカーでは：

ライプ「おいランス。ホーナーが今日走らないらしいぞ」

ランス「いい気味だぜ。俺を追い出すからあのチームはクソになっちまったな」

ホーナー「レースには出れないけど、見には来てるんだぜ！」

ランス「あ？オメーなんでいんだよ」

ライブ「相変わらず飄々としてるなお前は」

ホーナー「こうしてないと俺じゃないだろ〜笑」

ランス「だから俺はオメーが嫌いなんだよ」

ホーナー「じゃレース後な！」

ランス「もう来んじゃねえ!!？」

ライブ「というか、あいつ結構元気じゃないか？」

ランス「やせ我慢してんだろよ」

喜怒哀楽が織り混ざるスタート地点からこの日のパレード走行が始まった。沿道はいつも通り観客で埋め尽くされている状態である。

香澄「うわあ〜。今日も沢山のお客さんが来てるね！キラキラしてるよ！」

有咲「わかったから騒ぐんじゃねえ！」

日菜「今日のステージはなんだかるんところないな〜。今日は戦わなくていいや〜」

「こころ「今日は抑えろってランスとリーヴアイに言われたし、何もしなくていいわね！」

チームバス side

ほたる「今日は残り30km付近から雨が降り出しそうな予報になってるわね」

メイ「降水確率は約80%とのことです」

麻弥「しかも強風が入り混じってるっすよ！」

燐子「今日こそ…何も起きないと…いいんですけど…」

あこ「友希那さん達がんばれー！」

千早「テレビに叫んでも届きませんよ」

あこ「それは知ってますけど〜」

アハハハハハ

チームカースide

ライブ「今日は動くつもりはないと言っておいたが、山岳賞の維持を考えるなら動くべきなんだよな…」

杏梨「あら、リーヴアイさん。簡単なことよ。今日は手放して、明

日のステージで取り返せばいいのよ」

千聖「私も杏梨さんの言う方法が今後のためにも最善だと思います」

美咲「手放すことに寂しさは感じますが、仕方ないですね…」

そして、コースディレクターの旗を合図に今日もレースがスタートしていく。スタートから早くも10人ほどの選手が抜け出して逃げを打って行く。

メイン集団の先頭を引っ張るのは、ルヴァンズ率いるPTMレーシングである。

メイン集団 side

ルヴァンズ「なんでファビラス達のレイブンが牽かへんでうちが牽いとんねん。おかしいやろ…」

モロー「カンチエのやつが今日でマイヨ・ジョーヌを手放す可能性があるから牽かないんだろよ」

バウアー「とはいえ、少しくらい参加してほしいよな」

リサ「今日こそ私たちの出番が来そうだね」

友希那「もちろんよ。今日は、全力で戦うわ」

紗夜「私達も湊さん達を全力で助けるわ」

蘭「あたしも湊さんに負けません」

モカ「おく。蘭が燃えてるね」

有咲「おい香澄。私らが2人を助けるぞ!」

香澄「はーい!」

日菜「やっぱりヴォルドーさんはるるんって来る人だね!」

ヴォルドー「僕も君からほわわんとした雰囲気を感じられるよ」

こころ「2人ともすつごく笑顔ね!」

アンデイ「今日は隣子ちゃんを見れなかったな」

フランク「そうそうは見れないだろ。今日は何もしないが、他の奴らからタイム差をつけられないようにな」

アンデイ「わかったよ!お兄ちゃん!」

フォラント「いつもこんな風に真面目ならなあ…」

スタートして50km地点をメイン集団が通過した時点で、逃げ集団

との差は早くも6分半にまで拡大していた。

逃げ集団 side

ヴァンアールス「今日こそ俺が勝利を勝ち取りたい…。少なくとも山岳賞！」

ゴンタ「おいおい、早くローテーションに入れよ。計算してても無駄だぜ。感覚で走るほうがいいだろ」

ヴァンアールス「計算したほうがいいこともありますよ」

ゴンタ「言ってる言ってる。後悔するからな」

マクロン「無駄話してる間に二つ目の山岳ポイントは俺が取ったぞ」

ヴァンアールス「え!?早くもプランが…」

ゴンタ「だから言っただろうが」

ヴァンアールス「次こそは…!」

その後83km地点の中間スプリント地点もマクロンが先頭通過してメイン集団との差は、PTMのコントロールもあつて5分程に縮まっている。

メイン集団が中間スプリント地点まで残り1kmのところまでやって来る。

グレイラル「ウホホホ! (頼むぞ!)」

ジルヴェール「任せとけ! タレないジルヴェール様のお通りだ!」

ホーキンス「そうはさせん!」

アイゼン「アルがさっきの山岳で遅れたから何もできないな…」

ジルヴェールとホーキンスの激しいスプリントの末、ジルヴェールがメイン集団の先頭で中間スプリント地点を通過。ホーキンスがそれに続く。

一方105km地点の補給地点では…

巴「今日は蘭の見せ場だから私が蘭に渡すぞ!」

つぐみ「頼むよ巴ちゃん!」

たえ「たまにはりみが渡したら?」

りみ「私には無理だよおたえちゃん」

鈴音「今日は暑いですから、氷を入れた小さい袋も渡しますので、みさんとつぐみさんは、それをお願いします」

りみ「わ、わかりました！」

つぐみ「はい！」

逃げ集団 side

ヴァンアールズ「この地点からそろそろペースを上げて行こうかな…」

マクロン「おいおいまだ60km以上あるんだぜ？それは無茶だろ」

ゴンタ「こいつの計算の範囲でだ。勝手にやらせとけ」

ヴァンアールズ「そういうなら行かせてもらおうよ！」

ヴァンアールズが逃げ集団から飛び出す！

ゴンタ「まあ、誰もついて行かないとは言っていないがな！」

ヴァンアールズのアタックに反応したのはゴンタとマクロンのみ。

他のメンバーは3人から遅れていく。逃げ集団とメイン集団との差は、4分を切っていた。

補給地点にメイン集団が到達。

りみ「香澄ちゃん！受け取って！」

香澄「わー冷たい！ありがとーりみりん！」

たえ「はい有咲！」

有咲「サンキュー！」

つぐみ「紗夜さん！」

紗夜「ありがとうございます！」

巴「らーん！」

蘭「そんなに叫ばないでいいよ！」

モカ「蘭がおこったく笑」

2つ目の山岳ポイント地点を先頭で通過したのはヴァンアールズ。2番手にマクロンが続き、ゴンタがその後ろである。

ヴァンアールズ「このまま次の2級山岳を先頭で行けば、山岳賞は取れるぞー」

ゴンタ「計算通りにいかないだろな」

マクロン「まあ、後ろからテイラロンドとゴルデイが来たからな」

ヴァンアールス「それは計算外だったな…」

ヴァンアールスに焦りが見えるが、ゴンタとマクロンはいたって冷静である。

その頃メイン集団の先頭を引っ張るのはアクトベのメンバー。エースは、ヴィヴィアーニである。そして逃げ集団との差は2分半まで迫っていた。

メイン集団 side

ヴィヴィアーニ「あと30kmのところでアタックして、速いペースを刻めばステージ優勝は確実だな」

グレゴリオ「さすがうちのプロフェッサー(教授のこと)。計算高いね」

テイルマン「今日もその正確性を頼りにしてるぜ」

ライン「テイラロンドがあとはうまくやってくれるだろうよ」

友希那「誰か動くかしら？」

紗夜「動いたら戸山さんか私がひとまず追いかけます。他に誰も行かないようなら下がります」

香澄「わかりました！」

リサ「頼むよ、紗夜。香澄」

逃げ集団は2級山岳の山頂まで残り1km。

ヴァンアールス「よし！行くぞー！」

ゴンタ「ここは行かなくていいな…ってあれ？テイラロンドは行かぬーのか？」

テイラロンド「悪いが無理だよ。大事な役目があるからな」

ゴンタ「大事な役目？」

ガガー

監督「ヴィヴィアーニとフースフォルトがメイン集団から飛び出したぞー！」

ゴンタ「なるほどな…。お前らもヴァンアールスと同じで頭を使う派か…。なら、教えてやらないとな…」

マクロン「下りで行くか？」

ゴンタ「だな。思い知らせてやるか。計算通りにはそう簡単に行か

ないってことをな」

2級山岳山頂にヴァンアールスが到達。この時点で今日の山岳賞を確定した。ゴールまで残り20km少々。

ヴァンアールス「これで山岳賞は確定だな。あとはプラン通りこのまま勝ちに…」

ゴンタ「お先に失礼！」

マクロン「せいぜいついてこいよー！」

2級山岳の山頂を通過してすぐにゴンタとマクロンが下りです
タック！

ヴァンアールス「え!?雨降りに危険だぞ?!しかも、追いかけたら
ゴールまで足が持たない…」

ヴァンアールスは追いかけて、ゴンタとマクロンの2人が逃げ集団
から抜け出した！

メイン集団は逃げ集団と1分半のところまで来ている。その中で
ヴィヴィアーニとフースフォルトは、ティラロンドやヴァンアールス
のいる集団に追いついていた。

ティラロンド「待ってたぞ!こっから引つ張ってやる!」

ヴィヴィアーニ「頼むぞ!お前が頼りだ!」

フースフォルト「ここは何としてもつきたいところ!」

ヴァンアールス「ぜえぜえ…もう…無理」

ヴァンアールスはペースについて行けずさらに後退。ゴンタとマ
クロンを追いかけるのは、ヴィヴィアーニ、ティラロンド、フースフォ
ルト、フレツチャーの4人となった。差は30秒程である。

ヴィヴィアーニ「このまま行けばあの2人に追いつくはずだ!頼む
ぞティラロンド!」

ティラロンド「了解!」

メイン集団 side

ルヴァンズ「これ以上は容認できへん!追走するでお前達!」

モロー「任せろ!あつという間に潰してやる!」

バウアー「ここが正念場っすね!」

カンチエレーラ「俺たちは、一切動かないからな」

アンデイ「はいー！」

フランク「おうー！」

フオラント「あいつのいうことは聞くのに、何故俺のいうことは…」
フルランド「ドンマイです。先輩」

残りは10 kmの地点で逃げてるゴンタのグループとヴィヴィアーニ達の差は約20秒。メイン集団との差は約50秒である。

逃げ集団 side

マクロン「ハアハア…き、厳しい…」

ゴンタ「あとは任せとけ。魂で走るほうが頭脳で走るほうより強いってことを証明してやる」

マクロン「た、頼むぞ…」

逃げ集団からマクロンがここで後退。残るはモーラのゴンタのみとなった。

追走集団 side

ティラロンド「ぜえぜえ…行つてこい…」

ヴィヴィアーニ「助かったぜ！これで俺の計算ならば前を捕まえられるぜ！」

ティラロンドが役目を終えて後退し、それと同時にヴィヴィアーニが加速！

フースフォルト「そう簡単に離されてたまるか！世界チャンピオンの意地を見せてやる！」

フレツチャー「ぜえぜえ…ハアハア…くっ」

フレツチャーも後退し、追走集団も2人になった。

残り5 km

ゴンタ「ぜえぜえ…まだまだあ!!？」

ゴンタがさらにペースを上げて行く。

ヴィヴィアーニ「監督！前との差は何秒だ！」

ガガー監督「雨の影響か、前との差は詰まってないぞ。もっとペースを上げろ！」

ブチッ

フースフォルト「どうやら…差は…縮まってないようだな…」

…計算外だが…」
「そんなわけない…俺が計算を間違えるなど…雨は

フースフォルト「ぜえぜえ…なら俺も行くかな…」

フースフォルトがアタック！ヴィヴィアーニはついて行けない。

ヴィヴィアーニ「くそ！この俺がつ…!!？」

メイン集団 side

ジルヴェール「どいたどいたー!!」

ジルヴェールがアタック！これに有力勢は反応してついて行く。

友希那「ペースが上がったわね！」

紗夜「もう少しについてみます！」

ジルヴェールが緩めたところで紗夜がカウンターアタック！

ランドール「お?!いきなり本気を出して来たね！」

ルヴァンズ「やるやんか！油断できへんな！」

アンデイ「紗夜達のアタックには、惚れ惚れするね！お兄ちゃん！」

フランク「そ、そうだな（お前余裕あるな…）」

結局、紗夜のアタックも決まらず再びPTMのコントロールが始まる。

残り1kmをゴンタが通過！約10秒後方にフースフォルトが接近している。

ゴンタ「ぜえぜえ…ここに来て…抜かれて…たまるかあ!!？」

フースフォルト「こつちも全力で行くぞ！」

メイン集団 side

ルヴァンズ「そろそろヴィヴィアーニを捕まえそうやな」

パウアー「もう一踏ん張りだ！行くぞー！」

PTMがさらにペースを上げてヴィヴィアーニを捕まえに行く。

ヴィヴィアーニ「くっ…ここまでか…」

ヴィヴィアーニがメイン集団に吸収される。

ジルヴェール「ここだー！」

ここで再びジルヴェールがアタック！これには誰もついて行かず、

PTMが先頭でペースを上げて吸収しにかかる！

残り300m

ゴンタ「よっしゃー！これは…勝ったぞ…」

フースフォルト「くそっ！届かなかったか！」

ゴンタ「これが感覚と嗅覚で走る魂の走りだぜ!!」

ゴンタが右手を突き上げてフィニッシュラインを通過！そのすぐ後ろからフースフォルトがゴール。

ジルヴェールは、ゴンタから10秒後。メイン集団もしばらくしてゴールした。

ゴンタ「ぜえぜえ…ハアハア…」

マクロン「お疲れ。よくやってくれたぜ」

ゴンタ「これが…魂の…走りだぜ…」

ヴァンアールス「おめでとうございます。まさか、ここまでやられるとは思いませんでした。魂の走りをまざまざと見せつけられました。次はこうはいきませんよ！」

ゴンタ「望む…とこだ…」

第8ステージ結果

1位	ゴンタ	M O L	4時間36分46秒
2位	フースフォルト	G C E	+3秒
3位	ジルヴェール	O P A	+10秒
4位	ルヴァンズ	P T M	+20秒(以下同タイム)
5位	サンチエス	E A I	
6位	ペトロフ	S P C	
7位	マルティネス	Q W O	
8位	クライス	I T A	
9位	氷川紗夜	B A N	
10位	ランドール	S A X	
12位	湊友希那		
14位	美竹蘭		
15位	青葉モカ		
18位	戸山香澄		
19位	市ヶ谷有咲		
20位	氷川日菜		

23位弦巻ころろ

37位今井リサ

52位ヴィヴィアーニ A K T

60位ヴァンアールス S P C

総合首位

フースフォルト

ポイント賞

ジルヴェール

山岳賞

ヴァンアールス

新人賞

湊友希那

夜

チーム モーラのホテル

監督「今日のゴンタの勝利に乾杯！」

みんな「かんぱーい！」

ゴンタ「くー！やっぱり一杯限りの祝杯ワインの味は格別だねー

！」

アイルトン「今日の走りは痺れたぜ！」

カントナ「カーランドはりタイアしちまったが、これでまたテン

ション高めに明日から挑めるぜ！」

ゴンタ「俺の魂の走りは人を痺れさせるためにある！」

ホーキンス「よっ！出ました名言！」

ハハハハハ

チームB a n G D r e a m!のホテルでは…

ライブ「よし、作戦会議を始めるぞ」

巴「あれ？ランスさんは？」

彩芽「後ほど来るそうです。では、作戦会議を始めます。明日の第9ステージは、休息日前のレースです。イソワールくサン・フルールまでの208kmでくす。細かいアップダウンと山岳ポイント地点が多いため、明日は山岳賞を取りに行きます。予定では今井さんか戸

山さんの予定です」

たえ「香澄は前にポイント取ってるしね」

あこ「紗夜もそうですね!」

彩芽「ええ、取り敢えず。ステージは2人のどちらかが取りに行っていただけでも構いませんが、第1の目標は山岳賞ジャージの奪取です。これが、明日のステージの作戦です」

ライブ「よしこれで作戦会議は終了だな」

はぐみ「にしてもランスさん来ませんね」

ライブ「おかしいな…」

冬子「彼はここには来れないよ」

彩芽「冬子さん!? どういうことですか!?!」

冬子「テレビを見てみればわかることだよ」

リーヴアイが慌ててテレビをつけると…

『ツールドフランスの最多記録を保持しているランス・アーノルドさんにドーピング疑惑がかかり、警察に身柄を拘束されました。恐らく明日には釈放されますが、ドーピングだとすれば自転車界には大きな打撃となります』

ライブ「は…?」

香澄「ランスさんが…」

蘭「ドーピング…?」

友希那「嘘よ…私達はあの人を信用しましょう」

冬子「そうだね。信じるかどうかは君たち次第だ。だが、明日のレースに支障はきたさないでくれよ」

そういうと冬子は去って行った。

ライブ「…取り敢えず解散だ…」

巴「リーヴアイさんは、知ってたんですか?」

ライブ「そうだ…だが、あくまでも噂だ。俺もあいつもやっていない。強すぎれば恨まれることはある。だから気をしっかり持つてくれ!」

紗夜「そうですね。仮に事実だとしても、私達は私達のやり方で戦えばいいんです」

彩芽「ランスさんがドーピングをしていたとすれば、下手をすれば監督を解任しない限りチームは撤退せざるを得なくなります…」

有咲「ま、まじかよ…」

リサ「でも今は、ランスを信じるしかないな」

友希那「リサ？どこに行くの？」

リサ「ちよつと外の空気を吸いに」

友希那「そう…」

つぐみ「と、取り敢えず。今日は解散して明日に備えましょう！」

蘭「つぐみの言う通りだね。行こう」

紗夜「湊さん。行きましょう」

日菜「彩ちゃん！いこー！」

彩「ちよつと静かに！」

彼女たちはそれぞれ部屋へと戻って行った。

ホテルの外

リサ「どうしたらいいんだろう…」

ランドール「どうした？元氣ないな。ランスさんのことか？」

リサ「あははく。隠し事はできないね」

ランドール「あの人は俺のヒーローだったからな。俺もそうでないと信じていたい」

リサ「そうだね。信じるしかないよね。ありがと！なんだか吹っ切れたよ！」

ランドール「そうか。そういえば、肩の調子は戻った？」

リサ「んく前よりは良くなったけど、まだ少し痛いかな…」

ランドール「そう簡単には治らないよ。ゆっくり治して行けばいいさ」

リサ「そうだね。あ、このあいだの返事いまするよ！」

ランドール「お、そうか。それで…」

今回はここまで！

果たしてランスの真偽はいかに!?

そしてリサの返事とは!?

次回をお楽しみに！

第9ステージ ―事件は続くよどこまでも―

7月10日 フランス イソワールにて

ツールドフランス一週目最終日とあってスタート地点に集まる選手達の表情は、安堵に満ち溢れている。しかし選手達の話題は、昨夜の出来事で持ちきりになっていた。

カンチエ「やっぱりランスはドーピングをしたと思うか？」

ジルヴェール「さあな。だが、してたとしたら奴はとんでもないペテン師だったということだぜ」

フースフォルト「それは俺も同感だな。これじゃ彼女達が気の毒でならん」

カンチエ「彼女達もやってないとは言えないがな…」

友希那「私達が何かしら？」

蘭「あたしたちは、そんなことするほど暇じゃありませんから…」
モカ「ら、蘭がおこってる。怒らせたらまずいですよ」

蘭「別に何もしないよ…」

ジルヴェール「やっぱり君たちは正直だな。信用できるぜ」

紗夜「疑われていたのなら心外です」

カンチエ「す、すまない…」

紗夜「大丈夫です。あとでランスさんを叱るだけです…」

フースフォルト「(ランスの奴あとで大変なことになりそうだな)」
ジルヴェール「(紗夜を怒らせないようにしないと…。あの殺気

はやべーぞ)」

リサ「あれ？みんなどこ行ったのかなー。あれ、アルベルト？」

ランドール「やあ、リサ。今日も頑張ろうな！」

リサ「そうだね！」

香澄「リサさーん！」

有咲「おい香澄！すみません邪魔しちゃって」

ランドール「いいんだよ。それじゃリサ。ゴールでな」

リサ「じゃあね☆」

有咲「リサ先輩。やっぱりみんな昨日の話でもちきりになってます

よ」

リサ「だよね。あんなことあったらそうなるよ。でも、アルベルト達はそうじゃないって信じてくれてるし。後は、私たちが頑張って結果を出すだけだよ」

香澄「そうですね！まずは今日のレースを勝ちましょう！」

有咲「頼むぞ香澄！リサ先輩もお願いします！」

香澄「わかってるよ有咲！」

リサ「もちろんだよ！」

昨日の事件についてまだ尾を引きつつ、一週目最後のレースのパレード走行がスタートしていった。

チームバス side

あこ「今日は、昨日取られた山岳賞をババーツと取り返す日ですね！」

ほたる「ふに。うまくいってくれるといいんだけど、ちょっと天気が悪くないんだよね」

メイ「今日は降ったり止んだりの天気になる可能性が高いという予報です」

隣子「友希那さん達が…無事に今日を…乗り越えて欲しいです…」

麻弥「何かあったら今後に響きますからね」

チームカー side

ライブ「しかし、ランスが戻ってきたとはいえ、あいつに運転させるわけにはいかなかないんだが…」

杏梨「一台だけだど厳しいって言いたいですよね？」

ガガ

冬子「その心配には及ばないよ」

ライブ「は？なんでお前が無線を使ってるんだ？」

冬子「もちろんもう一台を運転してるのは私だからさ」

ライブ「お前運転出来たのか？」

冬子「あの人から教えてもらったからさ。これで問題は解決しただろう？じゃあ、また後でね」

ブチッ

千聖「…本当に大丈夫なんですか？」

美咲「私もそう思うんですけど…」

ライプ「あいつの仕事の腕は確かだから、信用するしかないな」
集団では…

日菜「今日は、リサちーと香澄ちゃんとの2人かー。たまには私も行きたいなー」

紗夜「ダメよ。貴方が逃げて他の人達が追いかけないと思ってるの？」

友希那「こういう日は、体力を温存しておきなさい」

日菜「は〜い」

「こころ」日菜の言ってた通りね！ヴォルドーさんは、とっても面白い人だわ！」

ヴォルドー「いや〜こころちゃんも日菜ちゃんの方が僕は面白いと思うよ〜」

モカ「私とも気が合いそうですね〜」

ヴォルドー「確かにあいそうだね〜。のんびり行きたいも〜ん」

モカ「私もです〜。やっぱり気が合いますね〜」

蘭「モカったら、何やってるんだか…」

集団に少しだけ活気が戻った頃と同じタイミングで、コースディレクターのスタートの合図にレースがスタートしていった。

リサ「香澄ー。行くよー！」

香澄「はい！リサ先輩！」

集団からリサや香澄の2人を含めた数名がアタックして逃げ集団が早くも形成された。その中には、ヴォルドーや昨日のステージで奮闘したフレツチャーの姿もあった。

メイン集団

ジルヴェール「おい、フースフォルト。フレツチャーや香澄達を行かせていいのかよ」

フースフォルト「別にすぐには追わないさ。徐々に詰めて行くからな」

アル「今日も山が多すぎるよ〜。無理だな〜」

ベイル「だな。今日も運休確定だぜ」

メイン集団は、逃げ集団を容認。差はみるみる広がっていき、スタートして30kmをメイン集団が通過した頃には、差は5分ほどに拡大していた。

一方逃げ集団は、43km地点にある3級山岳のポイントまで後1kmの所まで来ていた。

ルークランド「山岳賞は、俺がいただくぜ！」

リサ「そう簡単には行かせないよー！」

香澄「ここは、リサ先輩に任せますー」

ヴォルドー「僕も負けられないぞー！」

ルークランドが早めにアタックをかけるも、リサとヴォルドーが追いつき、結局リサが1位で通過した。

ルークランド「くそ！一点しか取れなかったか…」

ヴォルドー「こういうこともあるよ。まだ次があるからね」

ルークランド「そのほのぼのした喋り方ムカつくな…」

一方メイン集団では…

ランドール「あれ？ニキさんがいないな…」

フォールド「さつき落車したって無線が入りましたよ！怪我がないといいんですがね…」

ニキはというと…

ニキ「イテー。おいふぎけんなよあのバイク！当て逃げとかおかしいだろ！！選手を大事にしろよ！」

ニキが落車した原因は、なんとテレビバイクがニキの横を通り過ぎるときに接触からであった。しかし、バイクは気にすることなく走り去っていったのだ。

ロイス「おいおい、あんまりキレるなよ。起きてしまったことは仕方ないだろ」

ニキ「だからって許せることじゃねーよ！」

尚も激昂するニキ。このため、集団から大きく遅れてしまう。

逃げ集団が82km地点にある補給地点に到達した時、メイン集団との差が約7分に拡大。メイン集団から追いかける意思是、全くない状

態である。

補給地点

たえ「香澄ー！いっけー！」

りみ「はい！香澄ちゃん！」

香澄「おたえー！りみりーん！ありがとう〜！」

ひまり「リサ先輩！受け取ってくださいーい！」

リサ「サンキューひまりー！」

リサ「皆のためにもここは頑張らないとね！香澄」

香澄「もちろんですリサ先輩！」

ヴォルドー「いいね〜。青春だね〜」

ゴザール「何言ってるんだお前…」

ルークランド「いつもこんなんだろよ」

メイン集団 side

ルヴァンズ「おいフースフォルト。なんであいつらを追わへんや。マイヨ・ジョーヌをこのまんまやと取られてまうで」

フースフォルト「まだ100km以上残ってるのに無茶言うなよ」

カンチエ「山岳ステージはゴールするまでが厳しいからな。フース

フォルトがここからチームで追いかけたら最後まで持たないんだろ」

ルヴァンズ「ホンマに追い上げる気あるかわからへんでこれ…」

フランク「おいアンデイ。今日の彼女は見たか？」

アンデイ「うん！今日の隣子ちゃんは、いつもより一段と可愛かったよー！」

フランク「だよなー。今日の沙綾ちゃんも一段と可愛かったなー」

アンデイ&フランク「彼女欲し〜」

フォラント「この兄弟とききたら…こいつらの頭にはあの子達しかねーのか？」

フルランド「フォラントさんも大変ですよね…」

フォラント「そう言ってくれるか…。もう悲しくなってきたぜ」

そして、逃げ集団は100km地点の二級山岳へ差し掛かる。

逃げ集団 side

ルークランド「おっしや！いくぜー!!」

香澄「私もいつくよー！」

ヴォルドー「そうはさせないぞ〜」

ルー克蘭ドと香澄、ヴォルドーが同時にアタックしていく。
ルー克蘭ド「もらった！」

最初に通過したのはルー克蘭ド。次に香澄、ヴォルドーと続いた。

ヴォルドー「あくさすがルークだね〜」

ルー克蘭ド「このまま山岳賞を取りに行くぜ！」

リサ「そうはさせないよ。ね、香澄！」

香澄「はい！リサ先輩！」

メイン集団 side

ルヴァンズ「ありや？アルベルトがおらへんで？」

モロー「さつき単独落車してんの見たぞ」

蘭「アルベルトさんは、なんだかついてないですね」

ランドール「いつてて…。まさか単独で転ぶとは…」

フォールド「アルベルトさん！早く集団に戻りますよ！」

ランドール「そうだな！行くぞリッチー！」

その落車でメイン集団は、総合有力のランドールを待つこととなり、逃げ集団との差はさらに拡大していく。

逃げ集団 side

フレッチャー「山岳賞は取れなくともステージは取りたいな…」

ヴォルドー「そんなことさせないぞ〜」

リサ「でもトマは、今の所暫定マイヨ・ジョーヌだよ」

ヴォルドー「ん〜ならいいや〜」

ルー克蘭ド「あっさり考え変えやがったな」

香澄「じゃあ、この二級山岳はいただきまーす！」

ルー克蘭ド「なに!?!させるか！」

116 km地点の二級山岳に近づく中で隙をついて香澄が飛び出し、ルー克蘭ドが反応する。

ルー克蘭ド「くっ、追いつけねえ…」

香澄「やった！一位で行った！」

ここは香澄がトップ。ルークランド、リサ、ヴォルドーと続いた。この時点で暫定マイヨ・ジョーヌは、ヴォルドーに変わっていたためかガード・サーヴァンを中心に逃げ集団を追いかけ始めていく。

メイン集団 side

ヴィヴィアーニ「ここからゴールまでを計算すると、最後の山岳までには追いつきそうだな」

ティラロンド「この下りは難しいぞ。あんまり考え事してたら危険だぜ」

ヴィヴィアーニ「そこもきちんと計算通りだから問題な」

グリンスキー「うわっ!」

ヴィヴィアーニ「は? ああ!」

120 km地点に差し掛かったメイン集団で大量落車が発生!

チームカー side

ライブ「おい! みんな無事か!」

有咲「なんとかギリギリで止まったから大丈夫だぞ」

紗夜「ええ、私も湊さんも問題ありません」

友希那「今日はなんだか色々なことが起きるわね」

蘭「このままにも起きないといいですね」

こころ「みんな暗いわよ! ほら、追いかけてみよう!」

日菜「行こうお姉ちゃん!」

紗夜「そうね。行きましようか」

落車組 side

ティラロンド「おい! 誰か手を貸してくれ! うちのリーダーが崖下まで落ちちまった!」

アクトベのエースであるヴィヴィアーニは、落車で崖下30mほど落ちていた。

ヴィヴィアーニ「うあ…これはもう…無理だ…」

フォード「隊長! しっかりしてください!」

ティラロンド「よし、俺らで肩から持ち上げていくぞ」

ヴィヴィアーニ「すまないな…こんなざまになるとは…計算外だった…」

ファンアンネール「ぐっ…これは肩がやられてるぞ…」

監督「これはもう無理だな。リタイアしかない…」

グリンスキー「俺は手首をやったな…」

この落車で、ヴィヴィアーニは右大腿骨を骨折。オメガ・ファクトリーのファンアンネールとヴィヴァンデが左肩鎖骨を骨折。ガード・サーヴァンのグリンスキーは、手首を骨折してリタイアした。メイン集団は、これでペースダウンしたため逃げ集団とは8分ほど広がってしまう。

逃げ集団 side

サストレ「おい、メイン集団で落車であつたらしいぞ」

フレツチャー「しかもヴィヴィアーニがリタイアらしいな」

ルークランド「これで差は8分25秒か…」

ヴォルドー「ここからは、僕が積極的に引いてくぞく」

リサ「マイヨ・ジョーヌがかかっているからか張り切ってるわね」

香澄「あとについてはいってくださいね！」

チームバス side

ほたる「ふにに…こんな展開はあんまり見たくないよ…」

隣子「誰が…怪我をしている…姿は…みたくないですね…」

あこ「友希那さん達は大丈夫かな…？」

千早「私達は彼女達を信じることしかできないわ」

麻弥「祈るしかないっすね」

メイ「今日は、三級山岳を抜けたあたりから強風が吹きそうです。

注意しなければなりません」

ほたる「了解」

チームカー side

彩芽「わかりました。リーヴァイさんに伝えます」

冬子「私じゃダメなのかい？」

彩芽「貴方をまだ信用してませんから」

冬子「手厳しいね。仕方ないか」

ライプ「了解だ。彩芽達もうまくやってくれよ」

千聖「何か指示ですか？」

ライブ「どうやらここから先強風が吹くそうだ。集団分裂に気をつけないとな」

美咲「戸山さんは、大丈夫ですかね？」

ライブ「まだ元気らしいがな」

杏梨「みんな頑張ってるわね。私も頑張らないと」

逃げ集団は、154km地点にある最後の二級山岳へあと1kmのところまで来ている。メイン集団との差は6分程に縮まっている。

ヴォルドー「僕は取りに行かないから、行っておいで」

ルークランド「サンキュー！いつくぜー！」

香澄「そうはさせないよ！山岳賞は、私たちが取るよ！」

リサ「香澄ー！いっけー！」

リサの牽引からルークランドと香澄が飛び出して山岳地点へ。そして先頭通過したのは…

香澄「やったー！」

ルークランド「ちくしよ…またやられたか…」

香澄が先頭通過してさらにポイントを加算。2位にルークランドである。この時点で暫定山岳賞は、16点でルークランド。香澄は14点で2位である。

そしてそのまま逃げ集団は、うまくローテーションをしながらゴールに向かっていった。

残り30km

逃げ集団 side

ヴォルドー「このままの差をキープすればマイヨ・ジョーヌだぞ」

香澄「私はこのままステージを取りますよ」

フレッチャー「それはどうか」

ガン!!

フレッチャー「ぐおっ!!」

突如テレビ局の車がフレッチャーの横っ腹に激突!

リサ「え!?!うわあ!!」

ルークランド「おわっ！」

これにリサとルークランドが巻き込まれて有刺鉄線に突っ込んだ

グサグサッ

リサ「うぐあっ!? ああ…。くっ…」

ルークランド「だ、大丈夫か!? リサ!」

リサ「そ、それより…ルークは…大丈夫?」

ルーク「俺は大丈夫だよ! 今助けるからな!」

リサ「うっ…。これは…ちよつと…苦しいね…」

リサの身体は、主に足を中心に全体が血だらけになっていた。

ルークランド「おい! メディカルカーを呼べ!」

薫「リサ! 大丈夫かい?」

はぐみ「今治してあげるよ!」

リサ「あ、ありがとう…」

フレッチャー「くそつたれ! せつかくのステージのチャンスをパーにしやがって…。許さねえぞ」

そう言うフレッチャーは、背中のジャージが破れた状態で再スタートした。ルークランドとリサは、まだ事故現場にとどまっている。

ルークランド「すまんリサ。もう行かないと」

リサ「うん…早く行つて」

ルークランド「くっ! くそつ!」

薫「どうだいリサ。立てそうかい?」

リサ「な、なんとかね…」

リサは、そう言つてまた自転車にまたがり、スタートした。彼女のジャージは、もはや包帯と血でまみれていた。

一方メイン集団では…

ガガー

ライブ「リサが落車に巻き込まれた! 大きな怪我みたいだ」

友希那「そ、そんな。リサが…」

紗夜「湊さん! 早く前に行かないと!」

その時、強風のなかでPTMがペースを上げたため、集団は分裂。友希那と紗夜は集団から離されてしまった。

メイン集団と友希那の集団は、約1分ほどにまで拡大。

友希那「ごめんなさい。紗夜」

紗夜「謝っていないで、早く追いますよー!」

???「あはは…やっぱり友希那は…私がいないと…ダメみたいだね…」

友希那「!?!その声は…」

リサ「ここからは…私が牽くよ…」

紗夜「どうして今井さんがここに!?!」

リサ「友希那がはぐれたつて…聞いたから…居ても立っても居られなくつてき…」

友希那「ダメよりリサ!無茶しては!」

リサ「友希那は優しいね…。でも…ここが私の最後の見せ場だよ…!」

リサが鬼のような牽引をしたことで友希那は、10 kmを費やして遂にメイン集団に追いついた!

友希那「ありがとう…リサ…」

リサ「じゃ…私は…ここで…下がるね…」

そう言つてリサは後退していった。この時点で逃げ集団とメイン集団との差は4分から縮まる様子がない。

メイン集団 side

ルヴァンズ「おいフースフォルト!なんでうちのチームが追つて、あんたらが追わへんねん!」

フースフォルト「もう追いつけないからな。もう何もしないよ」

ルヴァンズ「最初にいうたこと全くやつとらんがな」

ランドール「相変わらず味方いないんですね」

ルヴァンズ「そないなことないで!」

逃げ集団は、ゴールまで残り5 km。

ゴザール「ぜえぜえ…もう前には出れん…」

ヴォルドー「おくもう無理なのか」

香澄「まだいけますよー!」

サストレ「俺もまだいけるぞ」

そして残り1km地点へ

先頭は、サストレ。2番手に香澄が付き、ヴォルドーは1番後ろで様子を伺っている。

サストレ「誰が行くんだ？いつでもいけるぞ」

香澄「もういつちやおうかなー」

ヴォルドー「ん〜どこだろな〜」

ゴザール「ぜえぜえ…はあはあ…これは無理だ…」

残り500m

香澄「もう行つちやうよー!」

ここで香澄がアタック!サストレとヴォルドーが付いて行き、ゴザールは千切れていく。

香澄「一旦緩めてすぐ行こうかな…」

ヴォルドー「じゃいくぞ〜」

サストレ「よっしゃ待ってたぜ!」

香澄が緩めたと同時にヴォルドーがカウンターアタック!サストレと香澄も付いて行き、そのままスプリントへ!

残り200m

香澄「いっくよー!!」

サストレ「させるかー!!」

ヴォルドー「あーもういいや〜」

サストレと香澄がスプリント!ヴォルドーはここで飽きらめた。
残り100m

サストレ「もうひと伸びだー!!」

香澄「リサさんのためにもまげられない!!」

そして…

サストレ「いよっしゃー!!」

サストレがトップでゴールラインを駆け抜け、両手を突き上げた
!!

サストレ「俺のベイビーにおしやぶりポーズを捧げるぜ!」

香澄「はあはあ…また負けちゃった…」

サストレ達がゴールしてから約4分後にフースフォルト達メイン

集団がゴールした。

モカ「なんとか無事でしたね〜」

日菜「なんだかるるん」とする日だったな〜」

蘭「それにしても湊さんは、よく集団に戻ってこれましたね」

友希那「そ、それは…」

紗夜「あの時、今井さんの助けがなければ戻れなかったでしょう。

今井さんは、怪我をしても湊さんと私を第一に考えてくれました」

有咲「す、すげえな…リサ先輩…」

こころ「それでリサはどこにいるのかしら？」

香澄「リサ先輩は、どこにいるんですか!？」

その頃リサは…

リサ「ぜえぜえ…ハアハア…もう無理…。友希那…紗夜…みんな…
頑張つてね…。じゃあね…アルベルト…」

ガシャン!!

リサ「……………」

薫「リサ!しつかりしてくれリサ!!」

はぐみ「早く救急車に乗せないと!!」

ライプ「救急車は、今呼んでいる!辛抱してくれリサ!!」

リサ「あり…が…とう…」

ゴールでは…

ガガ―

千早「みんなに教えないといけないことがあるわ…。リサは今病院
に運ばれたわ…」

友希那「え!?!リサが!？」

紗夜「今井さんがどうして!？」

香澄「そ、そんな…」

蘭「リサ先輩…」

日菜「りさちー…」

こころ「そんなにみんな悲しい顔してたら、リサがかわいそうだわ
!リサのためにも頑張りましたよ!」

有咲「弦巻さんという通りですよ!リサ先輩のためにも頑張らない

と！」

友希那「：そうね。そうでないと、リサの頑張りが無駄になるわ」
紗夜「ありがとうございます。弦卷さん。市ヶ谷さん」

市ヶ谷「それでいいのよ！みんな笑顔じゃないと！」

香澄「あれ？有咲照れてる？」

有咲「う、うるせ〜!!」

ハハハハハ

第9ステージ結果

1位 サストレ NEB 5時間27分9秒

2位 戸山香澄 BAN

3位 ヴォルドー FRA

4位 ゴザール FTV +2秒

5位 ジルヴェール OPA +3分59秒 以下同タイム

6位 ペトロフ SPC

7位 ルヴァンズ PTM

8位 アンデイ RAV

9位 マルティーニ SPC

10位 フランク RAV

18位 市ヶ谷有咲

23位 美竹蘭

25位 青葉モカ

48位 湊友希那

52位 氷川紗夜

53位 氷川日菜

54位 弦卷ころも

136位 フレッツチャー FLY +16分38秒

139位 ルークランド VAN +16分44秒

途中棄権

ヴィヴィアーニ

ファンアンネール

ヴィヴァンデ
グリーンスキー

今井リサ

総合首位

ヴォルドー

ポイント賞

ジルヴェール

山岳賞

ルークランド

新人賞

戸山香澄

敢闘賞

ヴォルドー、今井リサ（リタイアした選手が貰うのは異例）

その夜

ネイダーバンクのホテル

監督「今回で我々のチームは、ステージ初優勝を遂げた！今日は乾杯しようではないか！」

メンバー「カンパニー！」

ガライヤ「よかったなルイス！かみさんも大喜びだろうよ！」

サストレ「そりやもうすごかったつすよ！子供産まれてすぐはもう特別な勝利つすよ！」

ヴェーリング「俺も勝ちてくなく」

パレージ「お前はまず神に祈ってもらわうべきだろ」

モリーナ「あの運の悪さつたらないなく」

ヴェーリング「そろそろ考えたほうがいいよなく」

一方、チームBang Dream!のホテルでは…

ライブ「明日は休息日だ。軽く調整のトレーニングはあるが、その他は基本的に自由に動いていいぞ。それと、リサはここから近い病院で入院中だ。会いに行くなら行っていいぞ」

紗夜「ランスさんの件と今井さんのことが立て続けに続くと、精神的にこたえますね…」

友希那「でも、私達には走ることしかできないわ。明日は、リサのお見舞いに行きましょう」

日菜「さんせーい！早くリサちゃんに会いたーい！」

つぐみ「ひ、日菜先輩。そんなに騒がないでくださいよ」

巴「ハハハ！何事も元気が1番だぜ！」

はたして、今後のツールはどうなるのか!?次回をお楽しみに！

第1週後の休息日と総合順位

7月11日 サン・フルールにて

この日はツールドフランスの中でも数少ない休息日だ。選手達は、軽いトレーニングをするものの、その他の時間ではのんびりと過ごしている。

午前10時

チームBang Dream!のホテル

地下の一室にて

♪

友希那「あなた達。こんなに忙しいのに、問題は全くないわね」

紗夜「無論です。私達の目指すのは頂点ですから」

あこ「むしろ、友希那さんと紗夜さんは以前よりもレベルが高くなっています!」

燐子「やっぱり:レースのトレーニング:効果ですか?」

友希那「そうね。今回のことで体力が相当ついたわ」

紗夜「でも、今井さんがいないのはやはり寂しいですね」

あこ「後でお見舞いに行きましょう!」

友希那「ええ、もちろんそのつもりだわ」

ホテルの一室にて

香澄「ねえねえ有咲!ここの近くで星がよく見える場所があるんだって!」

有咲「は?急になんだよ」

沙綾「要するに、みんなで見に行こうってことでしょ?」

たえ「いいね。みんなで行こうよ」

りみ「今から楽しみだね」

有咲「そういや、燐子先輩がリサさんのお見舞いに行くらしいぜ」

香澄「じゃあ、今から行こうよ!」

ホテル近くの市街地にて

モカ「あくこれが本場のフランスパンか」

蘭「モカって本当にパス好きだよね」

巴「ま、せっかく本場にいるんだしな。こんなにゆったりした1日も久しぶりな感じがするな！」

ひまり「そうだよね！リサ先輩のお見舞いの帰りにみんなで色々食べて帰ろうよ！」

つぐみ「うん！みんなで行ったら絶対に楽しいよね！」

蘭「リサ先輩のお見舞いと、観光のどっちがメインになっているだろう…」

ホテル近くの海岸にて

スタッフ「ハイ、オツケーです！」

彩「お疲れ様です」

イヴ「なんだか懐かしい感じがします！」

麻弥「イヴさんは、フィンランドの出身ですからね！こっちの雰囲気懐かしく感じるんでしょうね」

日菜「あく何かるるるん♪と来ることないかな」

千聖「さっきのカメラ撮影は、日菜ちゃんにとって少し退屈だったかもしれないわね」

日菜「そうだ！後でリサちゃんのお見舞いに行こうよ！」

麻弥「イイっすね！じゃ、自分は少し準備してきます！」

彩「じゃ、私たちは海で少し遊んで行こう！」

イヴ「ハイ！行きましょう」

ホテル中央の広場にて

花音「ねえ、美咲ちゃん」

美咲「なんですか？花音さん」

花音「どうしてこうなっちゃったのかな？」

美咲「さあ…わかりません…」

彼女達の前に映っていたのは、噴水の側面を使ってバク転をしているところとはぐみ、そしてそれを見ている薫である。

はぐみ「こころんはとっても体が軽いね！」

こころ「あら！はぐみだってすごい身軽じゃない！」

薫「子猫ちゃん達が純粋に回転して遊んでいる…。なんて儂いんだ！」

美咲「もう私達だけで、リサ先輩のお見舞いに行きましようか」
花音「そうだね…」

薫「なら、私も行こうかな」

美咲「うわ!!薫さん!」

ホテル近くの病院

リサ「ハア…。退屈だ…」

看護師「今井さん。ランドールさんがお見舞いに来ております」

リサ「あ、ありがとう」

ランドール「やあ、リサ。調子はどうだい？」

リサ「んくまだ身体中ズキズキするよ」

ランドール「そうかい。でも、少し元気になって何よりだよ。ところで、あのことは考えてくれたかい？」

リサ「うん!もう決めたよ!」

ランドール「そうかい。そしたら、明日のレースの時に教えてくれ。僕は、待つてるからね」

リサ「うん。ありがとう」

友希那「あら、アルベルトさん。リサのお見舞いに来ていたの？」

ランドール「ええ、そうです。それでは、そろそろお暇しますよ」

紗夜「それでは、また明日」

ランドールは、頷くとそのまま病室を出て行った。

あこ「リサさん!怪我の具合は大丈夫ですか!」

リサ「うん!みんなに心配かけちゃったね」

燐子「実は…今井さんに…見せたいものが…」

そう言つて燐子を取り出したのは、一部の新聞であつた。

リサ「え?なにこれ?何か書いてあるの?」

紗夜「ええ。『今井リサの悲劇とサムライの如きアシストに大会が湧いた』と書いてあります。」

友希那「リサのことがメインに書かれているのよ」

リサ「…やばい。嬉しすぎて泣きそう…」

友希那「いいのよりサ。泣いたってなにも問題ないわ」

あこ「あ、りんりん!もう面会時間過ぎちゃいそうだよ!」

燐子「友希那さん…氷川さん…行きましよう…」

1時間後

ひまり「リサ先輩！お見舞いに来ましたよー！」

香澄「私たちも来ました！」

彩「ヤッホー。遊びに来たよ」

美咲「リサ先輩。お体の方は大丈夫ですか？」

リサ「み、みんなで来たんだ」

有咲「今偶然会っちゃいました…。少し騒がしくなりますよね」

リサ「いいんだよ。その方が楽しいし！」

モカ「リサさんく早く退院してくださいね」

蘭「私達は、待ってますからね」

たえ「そういえば、さつきそこでこんなもの買って来ましたよ」

千聖「たえちゃん…それはなに…？」

たえ「可愛いと思って買ったんですよ」

日菜「これすごくなるん♪ってくるやつだね！」

有咲「いやそれただのブリキのおもちやじゃねーか！うちのばあ

ちゃん家にもあるぞそれ！」

沙綾「あー。さてはおたえ、有咲の家から持って来たねー」

たえ「あれ？もう嘘がばれちゃった？」

有咲「おたえー！さつささとしまえー!!」

花音「病室であまり騒いじゃダメだよ…」

香澄「そういえばそれって、有咲のお婆ちゃんが言ってた有咲のお

気に入りだったやつ？」

有咲「…もう帰るぞ！」

りみ「え？ちよつと有咲ちゃん！」

アハハハハ

午後2時

選手たちは、軽いトレーニングをこなしてから記者たちへのチーム
会見に臨む。

ここで現在の各賞順位を振り返る。

総合順位

1位	ヴォルドル	FR A	38時間35分11秒
2位	サルトレ	NE B	+1分49秒
3位	フースフォルト	GC E	+2分18秒
4位	カンチエレーラ	RA V	+2分25秒
5位	湊友希那	BA N	+2分26秒
6位	ルヴァンズ	PT M	同タイム
7位	氷川日菜	BA N	+2分27秒
8位	戸山香澄	BA N	+2分33秒
9位	ミラー	GC E	+2分49秒
10位	フランク	RA V	同タイム
14位	美竹蘭	BA N	+2分55秒
15位	弦巻ころこ	BA N	同タイム
16位	氷川紗夜	BA N	
17位	青葉モカ	BA N	
24位	アンディ	RA V	+3分
42位	ランドール	SA X	+4分7秒
58位	市ヶ谷有咲	BA N	+5分34秒
	山岳賞		
1位	ルークランド	VA N	16点
2位	戸山香澄	BA N	14点
3位	ヴァンアールス	SP C	7点
4位	ゴンタ	MO L	6点
5位	湊友希那	BA N	4点
6位	ランドール	SA X	2点
	ポイント賞		
1位	ジルヴェール	OP A	156点
2位	アルディッシュ	SP C	131点
3位	フースフォルト	GC E	111点
4位	ファルジャン	VA N	108点
5位	グレイラル	OF A	96点
6位	氷川日菜	BA N	95点

8位弦巻こころ 66点

新人賞

1位湊友希那	B A N	38時間32分46秒
2位氷川日菜	B A N	+1秒
3位戸山香澄	B A N	+7秒

本来は、各チーム毎に会見が行われるのだが、今年は異例として総合部門のみ有力者達を集めて会見が行われることになった。昨年の Weiner であるランドールを始め、ルヴァンズ、ドレイク兄弟、ヴォルドー、友希那、香澄、蘭がこの会見に招集された。

記者A「ヴォルドー選手。現在総合首位の座についておりますが、マイヨ・ジョーヌを守りきる自信は？」

ヴォルドー「正直最終週前には奪われてるかな。まあ取った時はまぐれだと思っしょ」

記者B「ランドール選手。昨年の形から比較すると、今年はだいぶ危機に陥っているような気がします？」

ランドール「膝の調子は、まだ万全ではありません。けど、そう簡単に諦めるほどヤワじゃ無いですよ。3週目のときには、万全の状態に戻してみせますよ」

記者C「ルヴァンズ選手。現在ヴォルドー選手から約2分半離されていますが、他の有力選手達よりも有利な状況と言って良いのでしょうか？」

ルヴァンズ「確かに他よりはええ状況かも知れへんが、アルプスやピレネーの山々を走るまでわからへんのも事実や。好調の時ほど危険なもんやで」

記者D「アンディ選手とフランク選手は、第1週時点では、ダブルエースのまま変更なしですか？アンディ選手は、勝負所で遅れたりもしましたが」

フランク「今の時点では、ダブルエースのプランのままです。まだ本格的な山岳に入っていないので、問題はありませんよ」

アンディ「そうだよ！そんな僕の隣にいるおじちゃんには負けないよ！あとは、タイムトライアル次第だね」

ルヴァンズ 「誰がおじちゃんやねん！まだ34やぞ！」
ヴォルドー 「僕たちの中では、ダントツで年長だぞ」

ルヴァンズ 「いらんこと言わんでええわ！」
アハハハ

ルヴァンズのツツコミで記者会見は和やかな雰囲気で行く。
記者E 「それでは美竹選手。現在約3分の遅れとなっておりま
すが、これから始まって行く山々の自信はどうですか？」

蘭 「山岳とタイムトライアルには自信も持っているから、あたしは
まだ諦めるつもりなんて毛頭無いです。全力で戦いますよ！特に湊
さんには、負けません！」

友希那 「あら、大した自信ね。美竹さん。でも、私だって頂点を目
指しているのよ。そう簡単には、勝たせてあげないわよ」

ヴォルドー 「おくバチバチしてるね。そういうの好きだよ」
ルヴァンズ 「あんさん冷やかしたいだけやろ……」

香澄 「私だって2人には負けませんよー！」
ランドール 「同じチームで仲間割れは危険だぞ。君達の監督と同じ
チームの時はひどかった……」

ルヴァンズ 「そこであいつの事を言わんでええねん！」
記者F 「そういえば。ランス監督はどうしたのでしょうか？」

友希那 「それは私達に聞かれてもわからないわ。チーム会見の時に
質問してちょうだい」

ルヴァンズ 「な、なんか空気が悪なるな」
アンデイ 「じゃあ、おじちゃん弄りだね」
フランク 「それいいな。いいだろジジイ」
ルヴァンズ 「もつと失礼やで！最終日には絶対マイヨ・ジョーヌ着
たるからな!!」

ヴォルドー 「会見は以上」
ルヴァンズ 「人の話をちゃんと聞かんかい！」
ワツハツハ

途中険悪だった雰囲気も最後には丸く収まり、総合争いの会見は滞
りなく終わった。

午後3時

総合部門の会見に参加したチームは、ここからチーム会見が行われる。

チームBang Dream!のチームバス前

ライブ「それでは会見を始めよう。質問をどうぞ」

記者A「ランス監督はどうされたのでしょうか？」

ライブ「今は謹慎中だ。しばらく経過を見て判断しようと思う」

記者B「もし事実だった場合は、監督解任となるのでしょうか？」

ライブ「選手を思うなら、暫くは退いて欲しいと思う。そうならなければ、解任をする予定だ」

記者C「選手には、精神的ダメージが大きそうですが、率直な気持ちをお聞かせください」

日菜「そこはそんなに関係あるかな？」

「こころ」そうよ！私達は、どんなことがあっても笑顔は無くさないわ！」

モカ「驚いたけど、精神的には何ともないよ」

紗夜「私達は、彼に多くのことを教えてもらいました。その恩を返すために、私達は決して諦めません」

有咲「ただ全力で戦うだけですよ！」

ライブ「他には何か？」

記者D「今井選手の容態は？」

友希那「私達が会いに行った時には問題なかったわ」

蘭「でも、身体が痛いと言っていました」

ライブ「正式には、足だけで30針は縫っている。そして、鎖骨と肋骨の骨折も判明している。復帰までは時間がかかるだろう」

30分後

香澄「あれ？そろそろ時間だよ！」

ライブ「ということ、会見は以上だ」

その夜

チームBang Dream!のホテル

ライブ「それじゃ、作戦会議を始めろぞ」

彩芽「明日の第10ステージは、オーリヤック〜カルモーまでの158kmです。多少の山岳はありますが、ほとんど平坦ステージです。明日は、市ヶ谷さんに逃げにのってもらおう予定です」

有咲「よしきた！任せてくださいー！」

香澄「有咲！頑張ってね！」

有咲「お、おう！」

モカ「また照れてるの〜？」

有咲「う、うるせー！」

ライブ「他のメンバーは、遅れないように注意してくれよ。そして、落車にもな。よし！解散！」

解散の掛け声がかかると、彼女達は部屋へと戻っていった。

彩芽「リーヴアイさん。監督のことはどうするつもりですか？」

ライブ「今表に出たら叩かれるだけだ。暫くはおとなしくしてもらわないとな」

冬子「なら、私が助けてあげるよ」

ライブ「冬子か。すまんが頼む」

冬子「君が暗いのは感心しないな。元気にしてくれないと、彩芽くんや他の子達も調子狂っちゃうよ」

彩芽「そうですよ。元氣出してください」

ライブ「ありがとな。よし！明日からまた戦いだ！あいつはいないが、やってやるぞ！」

束の間の休息日が終わり、明日からまた地獄が始まる。果たして、この先どうなるのか。

次回へ続く

第10ステージ　―ミサイルVSゴリラ　第1ラウンド―

7月12日　オーリヤックにて

今日からツールドフランスも第2週に突入。休日明けのためか、選手達はからは活気に満ちていた。

ジルヴェール「よっしゃ！今日もきっちりポイント取ってこのジャージをキープするぜ!!」

アル「今日こそそのジャージをもらおうぞ」

シヨーマー「ひさびさの運行だからな！今日は勝つぜ」

アイゼン「アルの勝利は俺らがお膳立てしてやるぞ！」

ザナルデイ「俺もそろそろ勝ちてえーな」

フースフォルト「登れるスプリントなら俺もありだな」

カンチェ「それ途中だけだからな。ゴール地点は平坦だぞ」

フースフォルト「じゃ無理だな」

ジルヴェール「諦めるのはえーな！」

アル「今日もキレキレだな」

ランドール「…間に合うかな？」

リサ「お、お待たせ、アルベルト」

ランドール「もしかして、残るって決めてくれたか？」

リサ「本当はみんなに迷惑かけなかったから日本に帰る予定だったんだけど、アルベルトや友希那達と離れたくなくなっちゃからね！

一緒にいるよ！」

ランドール「君の分まで僕達は頑張るよ！」

リサ「うん！頑張ってるね！」

友希那「嬉しいわりサ。そんなこと言ってくれるなんて」

紗夜「元気で安心しました」

香澄「リサさんは、そうでなくちゃダメですよ！」

有咲「珍しく香澄の言う通りですよリサ先輩」

リサ「え？みんな聞いてたの？恥ずかしい…」

蘭「モカーもう行くよー」

モカ「りよ〜かい。じゃあ、マツサさん。また後で〜」

マツサ「おう。また後でな」

天候は小雨が降り続けている。しかし 選手達は、初日と同じのような明るさのままパレード走行に入っていた。

チームカー side

ライブ「第1週がバタバタしただけに、今日からは何も起きないでほしいな」

杏梨「そんなこと言っちゃダメですよ。あれ？これってリサさんじゃない？」

彩「え!?!なんで映ってるの!?!」

チームカーに付いている小型テレビには、ランドールとリサが一緒にいるシーンが映し出されていた。

ライブ「現地の奴らも2人はラブラブとか言ってるな…」

沙綾「でも、リサさんが元気になるならいいのかな？」

ライブ「まあ、そうだな。よし！リサの前向きさで元気が出たぜ！頑張ってくぞ！」

他3人「おーー！」

集団では…

友希那「…ねえ紗夜」

紗夜「なんですか？」

友希那「無線切つてないから全部聞こえてるわよって言ったほうがいいかしら？」

日菜「え〜！切っちゃったら、るんるん☒つとする話が聞こえないよ！」

蘭「日菜さん。その話はもう終わってますよ」

日菜「え〜。もう少し聞きたかったな〜」

モロー「お、今日も元気だな。元気が一番だぞ」

モカ「あれ〜？ルヴァンズさんは放っておいていいんですか〜？」

モロー「今日はそつとしておいてるんだよ。昨日あの兄弟にジジイ扱いされたからな」

ルヴァンズ「誰がジジいやねん！まだアラフォーやないし、結婚しとらんのやぞ！」

モロー「いやその年して結婚してないのも言われる原因だろ！ルキアさんと早く結婚すりゃいいじゃないか」

ルヴァンズ「総合優勝したらええでと言われたからな！あの兄弟を見返したるでー！」

蘭「なんかうるさいしつこい…」

ルヴァンズ「し、辛辣すぎるで美竹ちゃん！」

そんなこんなでスタートの0km地点まで集団がやってきて、第2週目のツールドフランスが始まっていった！

有咲「よっしゃ行くぞー！」

香澄「有咲ー！頑張つてねー!!」

ジルヴェール「今日は、有咲ちゃんなのか。連日頑張るなー」

カンチエ「まあ、第4ステージ以外に優勝ないしな」

フースフォルト「1つ勝てるだけ見事なものだがな」

友希那「でもこれは通過点よ。目指すはあくまでも総合優勝だわ」

フランク「それなら俺たち兄弟も全力で戦うからな」

アンデイ「後2日後だけどね」

フランク「余計なこと言うなよ。興ざめになるじゃないか」

アンデイ「そんなことより今日の燐子ちゃん見た？」

フランク「まあ可愛かったなく。俺は沙綾ちゃんの方が可愛いと思うがな」

フォラント「このアホ兄弟！さっさとこつち戻つてこい！」

アンデイ「おじちゃん怖いー」

フォラント「おじちゃん呼びわりすんな！年上に失礼だろ！」

フランク「仕方ない…戻るか。それじゃまた山岳ステージで会おう」

蘭「…どこのチームも大変だね」

モカ「そうだね」

この日、有咲を含めた7人がスタートから逃げ集団を形成。メイン集団は、これを容認して30kmで3分ほどに広がった。

チームバスでは：

ほたる「あー今日も何もなさそうだなー。暇だよー」

隣子「ほたるさん：それは：我慢しましょう…」

あこ「そうだよ！あこたちだつて同じなんだから！」

メイ「シャキツとしないと示しが見つからないですよ」

ほたる「いいもん示しなんてー」

千早「なら、無理やりつけさせましょうか？」

ほたる「千早さん…。目が笑ってないです」

千早「じゃ、きちんとしてくださいね」

ほたる「ふ、ふに…」

メイン集団が、中間スプリントのある40km地点にさしかかるところで、逃げ集団との差は4分半に拡大。

メイン集団は中間スプリント地点まであと1kmにさしかかる。

シヨーマー「うおおおー！」

ジルヴェール「あいつの牽引すげえな！」

ザナルデイ「よつしやいくぜー！」

ここでザナルデイがロングスプリント！これにジルヴェールたちがくつついて行く。

残り500m

シヨーマー「よし！行つてこい！」

アル「いつくぞ〜!!」

ここでアルディッシュが発車！あつという間にザナルデイ達に並びかける！

ジルヴェール「負けつかよー！」

しかし、ジルヴェールが意地を見せてメイン集団の先頭で中間スプリント地点を通過。次にアルディッシュ。ザナルデイ、グレイラル、日菜と続いた。

そこから逃げ集団とメイン集団の差は、4分前後から動かない状態で進んでいく。そして、逃げ集団は、1つ目の3級山岳まで残り1km。

逃げ集団 side

有咲「よし！ここで登つてくぞー！」

有咲が山岳の頂上に向けてアタックするも、他の6人はこれを容認。結局、有咲が3級山岳を1位で通過した。

有咲「…誰も反応しないのは、なんだかバカにされてる感じがするな」

プップー

ライブ「有咲！調子はどうだ？」

有咲「問題ないぞ。ただ、誰も動かないのは誤算だけだな」

沙綾「有咲ー。頑張ってるねー！」

有咲「お、おう。ありがとな…」

沙綾「照れないでよー。集中してねー」

有咲「お前が言うな！早く行け！」

ライブ「よし！このまま逃げ切り狙えよー」

一方メイン集団は…

こころ「ねえ日菜。何か面白いことしない？」

日菜「いいね！何するの？るんつとすることがいいな」

ヴォルドー「こんなこととかどうかなく」

日菜「あははは！ヴォルドーさんどこから向日葵拾ってきたのー？」

こころ「ふふふ、こんなにも笑わせてくれるなんてあなたはいい人ね！」

ヴォルドー「何もしてないよ。そこ向日葵があったから拾ってきただけだよ」

日菜「あははは！笑いすぎてお腹が痛いよー！」

蘭「湊さんは、バンドの練習とかこの期間はしてるんですか？」

友希那「もちろんよ。あくまでも私達は、音楽で頂点を目指すことが一番の目標なんだから」

蘭「流石ですね。でも、私達もそれは同じですから。もちろん、このレースでもです」

モカ「あの2人は、いつもバチバチやってますね」

香澄「す、すごいな。友希那先輩も蘭ちゃんも」

ルヴァンズ「なんや、今日も暇なステージだな」

モロー「暇かもしれんが何が起こるか分かんないんだから油断するなよ」

キンツアート「ほんと頼みますよ。僕たちがバックアップしますから」

ルヴァンズ「せやけど、山岳でのアシストが出来んのモローだけやん。いつもワイは孤独やで」

モロー「ま、そう言うなよ。俺らだってしたい気持ちはあんだからよ」

ルヴァンズ「しやあないな…」

このままゆつくりとレースは進み、残りの4級山岳2つと3級山岳の3つ全てを有咲が先頭で通過。残りは10kmほどだが、メイン集団も逃げ集団を捕まえるために猛スピードで追いかけていた。

逃げ集団 side

有咲「おい！なんでこんなに先頭交代に入ってくるやつがないんだよ！」

グレゴリオ「半分は諦め気味だな。これは無理だぜ。メイン集団との差は30秒しかないしな」

有咲「あーもう辞めた！これじゃ体力の無駄だ！」

残り7km地点で有咲を含めた4人が先頭交代に加わらなかったため、メイン集団が逃げ集団を吸収。

ジルヴェール「どけどけー！タレないジルヴェール様のお通りだぜー！」

逃げ集団を吸収したのと同時にジルヴェールがアタック！ここについていったのは、アルディツシュのチームメイトのマルティーニとなんとマイヨ・ジョーヌのヴォルドーだ！

ヴォルドー「このメンバーならいけるぞ。ジルヴェールは先頭でペース上げてくれるしね」

ジルヴェール「お前もローテーションに入るんだよ！」

マルティーニ「……（俺は、アルディツシュのステージ優勝のアシストで足引っ張るために入ったんだがな）」

残り5kmの地点でメイン集団との差は約10秒。ジルヴェールと

ヴォルードーは先頭交代をするが、マルティーニが先頭交代に入らないためペースが上がらない。

ジルヴェール「ちくしょー。こうなったら俺1人でいくぜ！」

ここで再びジルヴェールがアタックして単独先頭へ。ヴォルードーとマルティーニはメイン集団に吸収された。

ベイル「あとはあいつを捕まえるだけだぜ！」

アイゼン「久々に弾丸列車の力を見せつけてやる！」

シヨーマー「これで3勝目を掴むぞ！」

アル「みんなく頼むぞく」

ザナルデイ「やつぱりすげえペースだな……」

フースフォルト「これじゃあいつもあつという間に捕まるな……」

彼らの予感通り、ジルヴェールは残り3kmで吸収。カルモーの町に入ってスプリント勝負となった。しかし、メイン集団では……。

アル「あれく？みんなどこ行ったんだく？」

マルティーニ「ぜえぜえ……ジルヴェールの追走に脚を使い過ぎたみたいですね……。もう僕とシヨーマーさんしかいないですよ……」

残り1kmを前にマルティーニも離脱。残ったアシストはシヨーマーだけとなっていた。

そして残り1km

シヨーマー「くつ……あとは頼んだ……」

ここでシヨーマーも離脱。変わって前に出てきたのは、リディー・キャノンのマス。2番手にアルディツシュ。その後ろがホーキンス。ジルヴェールは、後方に下がって万事休すとなっている。

残り500m

マス「くそ！まんまと前に出されたぜ！これじゃいつものようにスプリントしても勝ち目がない……なら」

マスがロングスプリントを開始！

アル「そうはさせないぞく！」

こころ「私もいくわよー！」

ザナルデイ「ぬおー！」

これを皮切りにアルディツシュをはじめとするほとんどのスプリ

ンターたちがスプリント!

残り200m

マス「やっぱり無理か!」

アル「今日ももらっ」

グレイラル「ウホホホホー!!??!!?? (うおおおー!!??!!?)」

アル「な、なんだく!?」

アル「ドイツシュの大外から1人だけスプリントのタイミングを遅らせたグレイラルが強襲!

残り100mでグレイラルとアルドイツシュが並んでデッドヒートを繰り広げる!

残り50m

グレイラル「ウホホー! (もらったぞー!)」

アル「これは無理だく」

こころ「最後まで諦めちゃダメよー!」

アル「ドイツシュにこころが並びかける!そして…」

グレイラル「ウツホー!! (勝ったぞー!!)」

グレイラルが先頭でゴールインして左の拳を突き上げた!

こころ「はあはあ…とりあえず2位までこぎつけたわ!」

アル「やっぱり仕掛けが早かったな」

マス「ま、アシストいなかったし仕方なかったな」

フースフォルト「あのゴリラの存在も厄介だな…。マイヨ・ヴェー

ル獲得が遠のく…」

メイン集団後方

日菜「こころちゃんいつけー!」

蘭「モニターでレースが見えるなんてラッキーでしたね」

紗夜「日菜の最後のリードアウトが効いたわね。驚いたわ」

日菜「えへへ…お姉ちゃんに褒められちゃった」

有咲「にしてもこころちゃんスゲーな…。なんでも出来る感じだし」

ジルヴェール「よっしゃー!よくやったぞアンドレー!!」

友希那「あの人もポイント賞を守りきったようね」

香澄「最後の勝負は凄かった！流石ころちゃんだね！」

有咲「確かに。あのスプリント力は正直凄いの一言だな」

蘭「有咲だって最後まで頑張ったじゃん」

有咲「結局捕まったし、山岳でもみんな無視だから楽しさ感じなかったな」

日菜「ころちゃん2位に入ったよ！」

香澄「あとでおめでどうって言わないと！」

第10ステージ結果

1位 グレイラル OPA 3時間31分21秒

2位 弦巻ころ BAN 以下同タイム

3位 ホーキンス MOL

4位 アルディッシュ SPC

5位 フースフォルト GCE

6位 ファルジャン VAN

7位 マス CAN

8位 イノー FTL

9位 トーラス FLY

10位 ザナルデイ ITA

47位 氷川日菜

50位 美竹蘭

51位 戸山香澄

52位 市ヶ谷有咲

58位 ジルヴェール

62位 氷川紗夜

63位 湊友希那

総合首位

ヴォルドル

ポイント賞

ジルヴェール

山岳賞

ルークランド

新人賞

湊友希那

日菜「こころちゃんおめでとう！」

香澄「凄いよ！あのアルディツシユさんを抜いて2位だよ！」

こころ「ええ！でも、まだまだこれからよ！」

有咲「そーいや香澄も2位になったことあったな。意外とうちのチーム成績いいよな」

紗夜「湊さんも勝ちましたしね」

ライプ「おーい有咲ー。今日の敢闘賞はお前だぞー」

有咲「え!?マジか！やっべえ表彰台に行かないと！」

ジルヴェール「あぶねー！2点差でマイヨ・ヴェールを守った…よくやったぞゴリ！」

グレイラル「ウホ！ウツホツホー！（イエス！初勝利ー！）」

ルールストン「初勝利おめでとう！このまま明日も勝っていこうぜ！」

ジルヴェール「明日もマイヨ・ヴェールを守ってやるぜ！」

表彰式にて…

有咲「うわーすげー。香澄が見た景色はこんなんだったんだな…」
パシャパシャ

有咲「しかもマスコミの量がすげえ…。これは恥ずかしいなー」
その夜

オメガ・ファクトリーのホテルにて

監督「ジルヴェールに続いてグレイラルもステージ優勝だ！今日は明日のこともあるから一杯だけワインを飲んで、食事で祝おう！乾杯！」

全員「カンパーイ！」

グレイラル「ウホツウツホホ（この踊りを見せよう）」

シーフール「おっ！それが噂のゴリラダンスか」

ルールストン「キレッツキレだな！おいジルヴェール！お前もやれよ！」

ジルヴェール「やらねえよ」

ロング「できないのか？」

ジルヴェール「んなわきやねーだろ！やってやるよ!!」

あははははは

チームBang Dream!のホテル

ライブ「よし、作戦会議を始めるぞ」

彩芽「明日の第11ステージは、ブレイ・レ・ミンからラヴォールまでの167.5kmです。まさに平坦ステージなので、総合勢に動きはほとんどないと思います。あとは、ほたるの話だと明日は途中から豪雨になるそうです。なので、日菜とこころのスプリントは自己判断に任せます」

日菜「雨の中のスプリントなんてるるるん☒とするに決まってるじゃん！もちろんやるよー」

こころ「ええ！私も勝負したいわ！」

ランス「相変わらずお前らは元気だな」

ひまり「え!?!なんでランスさんがいるんですか!?!」

ランス「いちやわりのかよ」

りみ「で、でも謹慎中じゃ…」

ランス「ひとまずこの大会までは、監督でOKだとき。あの〇〇野郎どもめ…。人を陥れることしか脳がねえのか」

たえ「じゃあ、明日から働いてないぶん働いてくださいね」

ランス「花園…こえーぞ…」

ライブ「そんじゃ、冬子と一緒にお願いするぞ」

ランス「頼むからあいつはやめてくれ…。彩芽の方がいいな」

彩芽「えつちよ…監督！何言ってるんですか！そんな恥ずかしいこと…」

モカ「おく彩芽先輩の顔が真っ赤つかだ。蘭と一緒にだね」

蘭「あたしはならないよ」

ランス「とりあえず監督復帰したが、お前たちの力が頼みだから頼むぜ」

全員「おー!!」

ライブ「よし、解散！」

ライブの一言で彼女たちはいつものように部屋に戻って行った。

ランス「よっしゃ！俺も寝てくるか」

彩芽「その前に：説教の時間ですよ」

紗夜「あら？橘さん。何をしているんですか？」

彩芽「今から監督への説教です」

紗夜「それなら私もいいですか？私も学校で風紀委員をしていますので、チームの規律を乱す人にはお仕置が必要だと思っ
ていま
した」

ランス「おいリーヴァイ！助けてよ！」

ライブ「自業自得だ。甘んじて受けろよ」

彩芽&紗夜「大人しくしてください！」

ランス「くそつたれがー!!」

そんなこんなでランスが復帰して、チームは元どおりに。果たして、明日はどうなるのか？

次回へ続く

第1レースステージ — ミサイル VS ゴリラ 第2ラウンド —

7月13日 ブレイ・レ・ミンにて

この日の予報は雨。レース前日に各チームは、雨に対する準備に追われていた。

だが…

ジルヴェール「あー。なんじゃこの暑さは…」

ルヴァンズ「今日は、40度超えとるらしいで…。どないなつとんねん今年のフランスの天気は…」

フースフォルト「どのチームも雨を予想してたらしいが、まさかこんなかんかん照りとはな」

アル「みんな暑いのか？オラは、涼しいぞ〜」

ジルヴェール「そりゃ携帯用扇風機片手に持ってたら涼しいだよ」

ルヴァンズ「ワイにもやらせてくれや！もう我慢できひん！」

アル「水でも頭にかぶればいいよ〜」

ルヴァンズ「なるほど。確かに頭からかぶれば涼しく…ってレース始まる前から水無くなるやろが！」

カンチエ「今日もキレは健在だな」

ジルヴェール「それだと俺とキャラ被るだろ！」

ルヴァンズ「んなこと知るかいな！」

モロー「おい、エースよ。早く戻るぞ」

ルヴァンズ「…せやな」

フースフォルト「珍しく引き下がったなあいつ。何かあるのか？」
カンチエ「さあな。取り敢えず静まったからいいだろ」

そして彼女達も…

有咲「あつちい…。クーラーが欲しい…」

日菜「この暑さじやるんどこないよー」

蘭「もう喋りたくない…」

ライブ「この暑さは、さすがに堪えるな。俺たちは慣れているからいいが」

ランス「まあな。こんなクソな状況で走らせるあいつらはどうかしてるぜ」

友希那「同感だわ。けど、ここで負けては優勝はできない。食らいつくだけよ」

香澄「友希那先輩かつこいいー!」

紗夜「湊さんが遅れることは許しませんよ。私達が全力でサポートします」

ランス「よっしゃ!暑さを吹っ飛ばすぐらい気合い入れていくぜ!」

オオー!!

そして今日のパレード走行が始まっていった。

チームバス side

ほたる「今の所天気は快晴。このままゴールまで続くのは嫌だなー」

あこ「ほたるさんは走ってないからいいじゃないですか!」

メイ「その通りです。ですが、ゴールまで快晴が続く確率は低そうです」

燐子「それって…つまり…」

麻弥「あつ!後半にかけて豪雨になるって雨雲レーダーが予想していますよ!」

千早「落車がないといいわね…」

休息地点では…

巴「この天気はテンション上がるなー!和太鼓が叩きたくなるぜ!」

ひまり「そんなことしたら私死んじゃうよ」

りみ「実際かなり苦しいよ…。暑すぎるもん」

イヴ「こういう時こそブシドーの力で暑さを跳ね返しましょう!」

たえ「それいいね。私もブシドーやる」

鈴音「みんながみんなテンションが違って新鮮だわ」

そして、集団が0 km地点を通過してレースがスタート！

ここで集団から飛び出したのは6名。メイン集団はこれを容認したため、逃げ集団が3級山岳。登りきった時点で約4分まで拡大している。

メイン集団では…

ジルヴェール「なんだか腹の調子が悪くなってきたぜ…」

ルールストン「おいおい。そんなんでジャージを守れるのか？」

ジルヴェール「やるだけやってみるさ。無理ならまたアンドレに勝ってもらうしかねーな」

グレイラル「ウツホツホ〜（またスプリントできるぞ〜）」

ジルヴェール「喜ぶんじゃない〜！」

蘭「相変わらずうるさいね。この暑さをもものともしてない感じがするよ」

モカ「それがとりえみたいだからいいじゃろん」

蘭「ダメとはいってないけど。でもこっちも大概かな」

香澄「見て見て有咲〜！一面お花畑だよ〜！」

有咲「香澄の頭もお花畑だよ」

香澄「有咲〜！」

香澄「泣いてくつつくんじゃね〜！」

こころ「香澄も有咲も楽しそうね！」

メイン集団は、そろそろ中間スプリント地点に差し掛かろうとしていた。この時点で逃げ集団との差は、3分差。確実にメイン集団が差を詰めていく。

中間スプリントまで残り1 km

グレイラル「ウホホホ〜！（ついてこーい！）」

ジルヴェール「いや、無理だわ…」

アル「じゃあ、ポイントはもらっていくぞ〜」

ここでアルディッシュがショーマーの引きからスタート。グレイラルに並びかけていくが…。

バチン!!?

アル「ええ〜？チェーンが切れたぞ〜」

突如アルドイツシユのチェーンが破損！その結果、グレイラルがメイン集団の1位で中間スプリント地点を通過。次に、フースフォルトやクラフソンワーゲンが続く。

結局ジルヴェールとアルドイツシユは、共に得点できなかつた。

逃げ集団とメイン集団との差が徐々に詰まっていき、残り30km地点で逃げ集団を吸収。ここからスプリントのために様々なチームが前に上がっていく。

チームカースide

ランス「あ？おい！雨がきたぜ！メイと麻弥の予想通りだな！」

彩芽「急いでライフジャケットを配りましょう」

彩「彩芽さんの冷静さがすごい」

沙綾「彩先輩も見習わないといけませんね」

彩「そんなこと言わないでよ」

ライブ「おい！ライフジャケットは人数分あるか!？」

千聖「ええ！ちゃんとあります」

美咲「手渡しで急いで渡していきましょう」

杏梨「いいわねー。みんなきちんと仕事をしているわ」

ライブ「杏梨も少しは見習ってくれよー」

杏梨「私はジャージの破れとかも直してますから仕事はしてますよ」

ライブ「ハハハ、そうだそうだ。すまないな」

その頃リサは…

リサ「うひゃー。この雨はすごいわー。友希那たちには申し訳ないけど、アタシはラッキーだったかも」

ヒース「そんな中で君のアルベルトは頑張っているんだから応援してあげな」

リサ「そりやもちろん。でも、友希那達の方をたくさん応援しちゃうな」

ヒース「うちのチームテントにいるのにそう言うかい」

リサ「あははは」

チームテントの外

記者A「おい。あれって今井選手じゃないか？」

記者B「そうだよな。なんでサクソンのテントにいるんだ？」

記者C「これは、明日の新聞の見出しは間違いなしだな！」

リサ「あれ？カメラマンさん達こっち撮ろうとしてない？」

ヒース「おい！取り敢えず隠れろ！」

記者A「あれ？気のせいかな」

リサ「あはは……。ご迷惑をおかけしました〜」

ヒース「全くだ……。次から気をつけてくれ」

リサ達がそのようなやりとりをしている間にも、メイン集団は残り20km地点に差し掛かっていた。

日菜「うー。さっきまで暑かったのに、寒すぎるよー」

紗夜「これがツールドフランスの厳しさの1つなのね」

フォールド「その通りです。完走するだけでも大変だということがわかるいい例ですよ。皆さんも体調不良には、気を付けてください」

有咲「だな。この寒さは、レインコートが必須だとしか言えないんだが……」

香澄「はー涼しー。これくらいがちょうどいいねー！」

友希那「戸山さんの体温はどうなっているのかしら……」

ガガー

ライブ「ここに来てまたアタックが入った。集団のペースがあと10km程でペースが上がるはずだから注意しろよ」

ランス「特にこの土砂降りだからふぎけてんじゃねーぞー！」

ブチッ

紗夜「湊さん。日菜と弦巻さんを連れてもう少し前の方にあがりましょうか」

友希那「そうね。みんなで行くわよ！」

日菜「やったー！るるーんとする瞬間がくるねー！」

こころ「今日もみんなをハッピーにするわよー！」

モカ「おおく気合が入ってるね〜」

ゴールまで残り20kmを切ったところで集団から5、6人の選手が飛び出した。一時は1分ほどメイン集団に差をつけるも、残り10km

を切ってメイン集団がペースを上げて15秒差まで詰まっていた。

逃げ集団 side

ローム「ここで捕まってたまるかってんだ！」

残り8kmでネイダーバンクのロームがアタック！しかし、他の選手はこれに反応せずに単独の逃げとなった。

メイン集団では：

ヴァン「ここから一気にペースあげますよー！」

ゴーマ「今日こそアルを勝たせんとぞ！」

アイゼン「俺たちこそ最強だ！」

マルテイーニ「なぜなら僕たちは」

ベイル「弾丸列車だからな！」

アル「頼むぞ〜みんな〜」

ジルヴェール「ぐおおー！ペースがはえー！」

フースフォルト「ここで千切れたらマイヨ・ヴェールは奪われるぞ」

ジルヴェール「ここでタレたらおしまいだぜ！踏んばるぜー！」

蘭「ジルヴェールさんは、かなり苦しそうですね」

日菜「これは行けるチャンスあるぞー」

紗夜「油断は禁物よ。ゴールまで無事にたどり着くことが肝心なのだから」

残り3km

ローム「ぜえぜえ…。そろそろ限界だ…」

アイゼン「ナイスドライブだったが、残念だったな」

ここでロームは吸収。勝負はスプリント対決に持ち込まれた。

アイゼン「よしっ！あとは任せた！」

先頭を引つ張っていたアイゼンが離脱し、ハイスピードのアシストは残り4人となった。一方ジルヴェールのオメガ・ファクトリーは、ジルヴェールとグレイラルのみとなっている。

マルテイーニ「まだまだペースを上げますよー！」

マルテイーニが更にペースを上げ、時速は70キロに達していた。

残り2km

ベイル「こっから俺が引つ張るぜー！」

マルティニーニ「はあはあ…あとは任せました…」

ジルヴェール「俺ももう限界だ…」

マルティニーニが離脱と同時にポイント賞トップのジルヴェールも脱落。

こころ「日菜！後ろについててねー！上がっていくわよー！」

日菜「オツケー！こころちゃん！今日こそるるんとする勝ちをもぎ取るよー!!」

残り1 km

ベイル「くつもう無理だ…任せた」

ベイルも離脱してショーマーのみとなる。すぐ後ろにアルディツシュ。ザナルデイ、グレイラル、フースフォルトと続いていく。

こころ「ここよ！」

ベイルたちの列の反対側から日菜を連れだしたところが猛スピードで上がっていく！

アル「おゝそうこなくつちやねゝ」

グレイラル「ウツホッホ！（日菜の後ろにつくぞー!）」

日菜「えー!?!無賃乗車はダメだよー!」

残り500 m

右からショーマーの引つ張るハイスピードのトレイン。左からはこころが引つ張る日菜とグレイラルが争っている。

ザナルデイ「ここから勝つにはこれしかない!」

ホーキンス「俺もいくぜ!」

ここでザナルデイとホーキンスがロングスプリント!

ショーマー「よしっ!あと100 mで発射すつぞー!」

アル「わかつただよゝ」

残り400 m

ホーキンスとザナルデイが先頭争いでショーマーはその後ろにつく。

ホーキンス「ここからトップを守り切る!」

ショーマー「どけどけー!弾丸列車のお通りだー!」

アル「いつくぞゝ!!」

「こころ「日菜！いくわよー!!」

日菜「よっしやー！勝負だよー!!」

ここでアルディツシュと日菜が発射！あつという間に前2人に並びかける！グレイラルも遅れてスプリントを開始する！

残り100m

アル「これはいけたぞ〜！」

日菜「もうちよつとー!!」

グレイラル「ウホー!!（届けー!!）」

アルディツシュに日菜とグレイラルが猛追する！

しかし、アルディツシュが追隨を許さずにそのままゴールを1番で駆け抜けた！

アル「これで3勝目だぞ〜！」

ショーマー「さすがうちのエースだぜ!!」

後方では、アシストをしたショーマーたちが一斉にガッツポーズしていた。

日菜「負けちゃったけど、やっぱりスプリントはるんるん〜つとずるねー！」

こころ「次は絶対に勝ちましょう！」

日菜「そうだね！こころちゃん！」

グレイラル「ウツホホー（元気だなー）」

ジルヴェール「おいおい負けたのかよ。俺様のマイヨ・ヴェールが取られちゃった…」

グレイラル「ウホ（ドンマイ）」

ジルヴェール「慰めなんざいらねーよ…」

第11ステージ結果

1位アルディツシュ SPC 3時間46分7秒

2位氷川日菜 BAN 以外同タイム

3位グレイラル OFA

4位ザナルディ ITA

5位クラフソンワーゲン FLY

6位ファルジャン VAN

7位ホーキンス MOL

8位弦巻ころろ BAN

9位カントナ MOL

10位ポーノ FTV

38位市ヶ谷有咲

39位戸山香澄

42位青葉モカ

43位美竹蘭

48位氷川紗夜

50位湊友希那

66位ジルヴェール

総合首位

ヴォルドー

ポイント賞

アルドイツユ

山岳賞

ルーブランド

新人賞

湊友希那

紗夜「日菜。よくやったわね」

日菜「ありがとうお姉ちゃん！今度こそ優勝してみせるからね！」

紗夜「ふふっ…ええ。期待してるわよ」

モカ「おおく紗夜さんが笑ってる」

蘭「確かに珍しいですね」

友希那「いつもは狂犬だなんて言われてるからかしら？」

紗夜「そ、そんなことありません！私だって笑う時は笑います！」

ランス「おいお前ら！早く体軽くならしてマツサージ受けてこい！

友希那は表彰式もあるだろ！」

香澄「そうですよ友希那先輩！早く行ってきてください！」

友希那「ええ。じゃあ行ってくる」

ジルヴェール「やっぱり納得できねーよー！俺の方が丘陵ステージ

でも得点取ってんのにおかしいだろ〜！」

ガシッ

ルールストン「駄々こねてないで早くチームバスに帰るぞ」

ズルズル

ジルヴェール「グレイラルのやつわざと負けたんだろ〜！第5ステージでもあいつ俺のプリント邪魔したんだぞ〜！」

グレイラル「ウツホホ！ウホウホホ！！（そんなわけあるか！風評被害もいいところだ！）」

ズルズル

有咲「…あれなんだ？」

友希那「触れないことが一番よ」

こころ「さあ早く行きましょ！」

ジルヴェール「チクショー！！」

その夜

ハイスピードのホテルでは…

監督「よし！これで今大会3勝目だ。これからも平坦ステージ全て取るつもりで行くぞ！」

全員「おおー！」

シヨーマー「それがマイヨ・ヴェールかー。これを最終日まで守るのも俺たちの仕事だな」

マルティーニ「大丈夫ですよ！なんてったって僕達は最速の」

バイル「弾丸列車だからな！運行については何にも心配いらねいぞ」

アル「お前たちはサイコーの仲間たな〜」

ハハハハハハ

チームBang Dream!のホテル

ランス「今日のお前達の活躍ぶりには驚いたぜ！俺がいない間にこんなに成長したとはな」

ライプ「むしろお前のせいで苦労したんだぞ。謝罪まだしてないだろ」

ランス「うぐ!?そ、そうだな。今回はお前達に迷惑かけた。申し訳

ない」

彩芽「それは本心ですか？もう一度信用してもよろしいんですね？」

ランス「おう！任せとけ!!」

紗夜「はあ…。今回だけは許してあげましょう。皆さんもそれでするらしいですか？」

みんな「異議なし!」

ライブ「よし!この一件はこれでおしまいだ。それじゃ、明日のステージの作戦会議をするぞ」

彩芽「明日の第12ステージは、クニョーからリュザルディダンまでの211kmよ。明日のステージから山頂ゴールのステージが多くなっていくわ。今年はアルプス100周年を記念して例年より山岳が多く設定されてるのよ。明日だけでも1級山岳1つと超級山岳2つの構造になってるから、最後まで生き残れるかが総合優勝への鍵よ」

有咲「ま、まじかよ。正気だと思えない内容だと思えない」

美咲「頑張つてねとしか言いようがない…」

日菜「明日からまたるん♪ってくる内容なんだね!よし!!」

蘭「この内容を見ても楽しめてる日菜さんが羨ましいですよ…」

香澄「作戦はどうするんですか？」

ランス「よく聞いてくれたぜ!これから説明をする」

ライブ「お、お前が考えてくるとはな」

ランス「あ?俺じゃなくてリーヴアイだぞ」

ライブ「期待した俺が馬鹿だったわ。取り敢えず眠っただけ」

ゴス!!

ランス「ぐほっ!」

巴「そのチョップ大丈夫なのか?気絶したみたいだが…」

ライブ「問題ないだろ」

美咲「扱いが雑になってる…」

有咲「つかもともとだろ」

ライブ「改めて明日の作戦を説明する。基本的には、香澄と蘭、友

希那をゴールまで残す。そのために紗夜や有咲達がタイムを失うことと覚悟のアシストをしなければならない。もちろん日菜とこころが最後まで残っても成功だと言えるな」

香澄「有咲くお願いねー」

有咲「お、おう：任せとけ」

紗夜「私も全力でアシストします」

日菜「えくあたしじゃなくてー?」

紗夜「あなたには弦巻さんがいるでしょ。それに、今井さんがリタイアした以上は湊さんを放っておけないのよ」

友希那「申し訳ないわね紗夜。でも、リサや他のみんなの為にも頂点を取らないといけないの。それは理解して頂戴」

日菜「うーん。わかった！頑張ってねお姉ちゃん！」

こころ「私も応援してるわよ！」

リサ「あたしの分まで頼むよ紗夜」

モカ「蘭の援護はお任せあれ」

蘭「モカが頑張ってくれないと私も苦しくなるから、限界まで頑張ってよね」

モカ「過労死しない程度に頑張るよ」

ライブ「まだまだレースはあるから、限界だったら降りても構わないぞ。というわけで今日の作戦会議は以上だ。解散！」

今夜この一声で彼女達はいつも通り部屋へと戻っていった。

ランス「ってーなー。少しは手加減しろよ！」

ライブ「お前の頭の悪さに怒りを覚えたからな。自業自得だな」

紗夜「そうですよランスさん」

ランス「どうえ!?なんで紗夜がいるんだよ!説教は昨日で終わったんじゃないのかよ!」

彩芽「誰がそう言いましたっけ?」

ランス「：勘弁してくれよ」

翌日から山岳ステージへ!果たして総合に動きはあるのか!?

次回へ続く